

令和5(2023)年度 実務教育研究科 開設科目一覧

科目区分	科目コード	科目名	担当教員	DP	講義演習	単位数	標準履修年次	学期	曜日	備考	
基礎科目	PEPA1101L	知の理論	川山 竜二	①②	講義	2	1	前期	土B午後	必修	
	PEPA1102L	社会学基礎理論	富井 久義	①②	講義	2	1	前期	水B	CD共通	
	PEPA1103L	教育学基礎理論	眞崎 光司	①②	講義	2	1	前期	月B		
	PEPA1104L	人材育成の基礎	田原 祐子	①③	講義	2	1	前期	月A		
	PEPA1105L	現代社会論	富井 久義	①②	講義	2	1	後期	木A	CD共通	
	PEPA1106L	実践研究法 I	オムニバス	①②	講義	2	1	前期	火B	CD共通	
	PEPA1107S	実践研究法 II	富井 久義	①②	演習	2	1	後期	火B	CD共通	
必修科目「知の理論」(2単位)を修得する。											
科目区分	科目番号	科目名	担当教員	DP	講義演習	単位数	標準履修年次	学期	曜日	備考	
専門基礎科目	PEPB1201L	教育社会学	吉岡 三重子	①②	講義	2	1	後期	土B午前		
	PEPB2202L	産業社会学	富井 久義	①②	講義	2	1	前期	木A		
	PEPB1203S	組織論	坂本 文武	①③	講義	2	1	後期	水B		
	PEPB1204L	知識社会学	川山 竜二	①②	講義	2	1	後期	月A		
	PEPB2206L	認知学習論	石崎 友規	②③	講義	2	1	後期	金B		
	PEPB1211L	教育産業と教育事業	廣政 愁一	③	演習	2	1	後期	水B		
	PEPB1212L	教育サービスの現状と未来	荒木 貴之	③	講義	2	1	春季集中	—		
	PEPB1214L	生涯学習の理論と発展	眞崎 光司	①②	講義	2	1	前期	火A		
	PEPB1215L	生涯学習支援論	眞崎 光司	①②	講義	2	1	後期	火B		
	PEPB0216L	心理と学習のフロンティア	眞崎 光司	①②	講義	2	2	後期	火A		
専門基礎科目から4単位以上を修得する。											
科目区分	科目番号	科目名	担当教員	DP	講義演習	単位数	標準履修年次	学期	曜日	備考	
教育実践科目	PEPF1501S	実践教育プロジェクト	眞崎 光司	①③④	演習	2	1	前期	土B午前		
	PEPF1502S	インストラクショナル・デザイン	伴野 崇生	②③④	演習	2	1	後期	月B		
	PEPF2503S	成人教育・学習論	伴野 崇生	②③④	演習	2	2	前期	木B		
	PEPF2504S	実務家教員のキャリア開発	伴野 崇生	①③④	演習	2	2	後期	火B		
教育実践科目から4単位以上を修得する。											
科目区分	科目番号	科目名	担当教員	DP	講義演習	単位数	標準履修年次	学期	曜日	備考	
専門科目	知識社会	PEPC1301S	省察的实践	伴野 崇生	①②	演習	2	1	後期	木A	
		PEPC2302S	実践と理論の融合	川山 竜二	②	演習	2	2	前期	月A	
		PEPC2303L	知識・教育・社会	川山 竜二	①③	講義	2	2	前期	金A	
		PEPC2304S	専門職教育論	川山 竜二	①③	講義	2	2	後期	金A	
	組織学習	PEPC1305S	学習する組織	田原 祐子	①③	演習	2	1	後期	月B	
		PEPC2307S	ナレッジ・マネジメント	田原 祐子	②③	演習	2	2	前期	火B	
		PEPC2308S	現代社会と人的資本	川山 竜二	③	講義	2	2	後期	木B	CD共通
		PEPC2313S	コーチングとファシリテーション	本間 正人	①③	演習	2	2	後期	金B	
	教育構想	PEPC2314S	グローバル・ラーニングイノベーション	本間 正人	①②	演習	2	1	前期	金B	
		PEPC2310S	教育コンテンツ開発	廣政 愁一	③	演習	2	2	前期	水B	
		PEPC2311L	教育のマネジメントの理論と実践	蔵田 實	①②	講義	2	2	前期	土A午前	
		PEPC2312S	ICTと教育	荒木 貴之	③	演習	2	2	後期	月A	
専門科目から6単位以上を修得する。											
科目区分	科目番号	科目名	担当教員	DP	講義演習	単位数	標準履修年次	学期	曜日	備考	
展開科目	PEPD1401S	探究基礎演習	川山 竜二/富井 久義/眞崎 光司	①②③④	演習	2+2	1	前期・後期	火A/水A/土A午後	必修	
	PEPD2402S	探究演習(知識社会学)	川山 竜二	①②③④	演習	2+2	2	前期・後期	土A午前	選択必修	
	PEPD2403S	探究演習(学校経営デザイン)	蔵田 實	①②③④	演習	2+2	2	前期・後期	土B午後	選択必修	
	PEPD2404S	探究演習(インストラクショナル・デザイン)	伴野 崇生	①②③④	演習	2+2	2	前期・後期	金A	選択必修	
	PEPD2405S	探究演習(産業社会学)	富井 久義	①②③④	演習	2+2	2	前期・後期	木B	選択必修	
	PEPD2406S	探究演習(教育学)	眞崎 光司	①②③④	演習	2+2	2	前期・後期	水A	選択必修	
	PEPD2407S	探究演習(教育産業と教育事業)	廣政 愁一	①②③④	演習	2+2	2	前期・後期	月B	選択必修	
	PEPD2408S	探究演習(組織論)	坂本 文武	①②③④	演習	2+2	2	前期・後期	火A	選択必修	
	PEPD2409S	探究演習(教育社会学)	吉岡 三重子	①②③④	演習	2+2	2	前期・後期	土A午後	選択必修	
	展開科目の必修科目「探究基礎演習」(4単位)、選択科目から4単位以上(8単位以内)を修得する。										

※2022年度までの入学者は教育実践科目の「実践教育プロジェクト」「実務家教員のキャリア開発」を必ず履修すること

令和 5(2023)年度 実務教育研究科 時間割

前期 A	月	火	水	木	金	土
1・2限 10:30 - 12:00 12:10 - 13:40						PEPC2311L 教育のマネジメントの理論と実践 藏田 賢 PEPD2402S 探究演習(知識社会学) 川山 竜二
3・4限 14:40 - 16:10 16:20 - 17:50						PEPD1401S 探究基礎演習 川山・富井・伴野 PEPD2409S 探究演習(教育社会学) 吉岡 三重子
5・6限 18:30 - 20:00 20:10 - 21:40	PEPA1104L 人材育成の基礎 田原 祐子	PEPB1214L 生涯学習の理論と発展 真崎 光司	PEPD1401S 探究基礎演習 川山・富井・伴野	PEPB2202L 産業社会学 富井 久義	PEPC2303L 知識・教育・社会 川山 竜二	
	PEPC2302S 実践と理論の融合 川山 竜二	PEPD1401S 探究基礎演習 川山・富井・伴野	PEPD2406S 探究演習(教育学) 真崎 光司		PEPD2404S 探究演習(インスタラクショナル・デザイン) 伴野 崇生	
		PEPD2408S 探究演習(組織論) 坂本 文武				

前期 B	月	火	水	木	金	土
1・2限 10:30 - 12:00 12:10 - 13:40						PEPF1501S 実践教育プロジェクト 真崎 光司
3・4限 14:40 - 16:10 16:20 - 17:50						PEPA1101L 知の理論 川山 竜二 PEPD2403S 探究演習(学校経営デザイン) 藏田 賢
5・6限 18:30 - 20:00 20:10 - 21:40	PEPD2407S 探究演習(教育産業と教育事業) 廣政 悠一	PEPC2307S ナレッジ・マネジメント 田原 祐子	PEPC2310S 教育コンテンツ開発 廣政 悠一	PEPD2405S 探究演習(産業社会学) 富井 久義	PEPC2314S グローバル・ラーニングイノベーション 本間 正人	
	PEPA1103L 教育学基礎理論 真崎 光司	PEPA1106L 実践研究法 I オムニバス	PEPA1102L 社会学基礎理論 富井 久義	PEPF2503S 成人教育・学習論 伴野 崇生		

後期 A	月	火	水	木	金	土
1・2限 10:30 - 12:00 12:10 - 13:40						PEPD2402S 探究演習(知識社会学) 川山 竜二
3・4限 14:40 - 16:10 16:20 - 17:50						PEPD1401S 探究基礎演習 川山・富井・伴野 PEPD2409S 探究演習(教育社会学) 吉岡 三重子
5・6限 18:30 - 20:00 20:10 - 21:40	PEPB1204L 知識社会学 川山 竜二	PEPB0216L 心理と学習のフロンティア 真崎 光司	PEPD1401S 探究基礎演習 川山・富井・伴野	PEPA1105L 現代社会論 富井 久義	PEPC2304S 専門職教育論 川山 竜二	
	PEPC2312S ICTと教育 荒木 貴之	PEPD1401S 探究基礎演習 川山・富井・伴野	PEPD2406S 探究演習(教育学) 真崎 光司	PEPC1301S 省察の実践 伴野 崇生	PEPD2404S 探究演習(インスタラクショナル・デザイン) 伴野 崇生	
		PEPD2408S 探究演習(組織論) 坂本 文武				

後期 B	月	火	水	木	金	土
1・2限 10:30 - 12:00 12:10 - 13:40						PEPB1201L 教育社会学 吉岡 三重子
3・4限 14:40 - 16:10 16:20 - 17:50						PEPD2403S 探究演習(学校経営デザイン) 藏田 賢
5・6限 18:30 - 20:00 20:10 - 21:40	PEPC1305S 学習する組織 田原 祐子	PEPA1107S 実践研究法 II 富井 久義	PEPB1203S 組織論 坂本 文武	PEPC2308S 現代社会と人的資本 川山 竜二	PEPB2206L 認知学習論 石崎 友規	
	PEPF1502S インスタラクショナル・デザイン 伴野 崇生	PEPB1215L 生涯学習支援論 真崎 光司	PEPB1211L 教育産業と教育事業 廣政 悠一	PEPD2405S 探究演習(産業社会学) 富井 久義	PEPC2313S コーチングとファシリテーション 本間 正人	
	PEPD2407S 探究演習(教育産業と教育事業) 廣政 悠一	PEPF2504S 実務家教員のキャリア開発 伴野 崇生				

春季集中	PEPB1212L 教育サービスの現状と未来 荒木 貴之
------	------------------------------------

シラバス

(実務教育研究科)

※ シラバスの変更、追加等が生じた場合は、Teams・掲示等でお知らせいたします

授業名称	知の理論			科目コード	PEPA1101L
担当教員	川山 竜二	実施方法	ハイフレックス	単位数	2 単位
配当年次	1 年次	開講学期	前期	曜日	土 B (3・4 限)
年間開講数	1 回	授業種別	講義	授業区分	必修

授業の目的

本授業の目的は、履修者が「知の理論」の内容と社会的・学問的・教育的な布置を理解することにある。本授業では「知の理論」は2つの側面を扱う。ひとつは国際バカロレア (IB) の教育プログラムとしての「知の理論 (Theory of Knowledge)」、もうひとつは知識そのものを研究する学問領域としての (伝統的には)「認識論 (epistemology)」である。

「知の理論」は、社会において知識を創造 (知識をつくり出す)・普及 (知識をつたえる)・活用 (知識をつかう) するための基本的な視座を提供する科目である。

到達目標

- ① 履修者が「知の理論」を理解し、「知の理論」のおかれている社会的・学問的・教育的布置を自ら説明することができる。
- ② 履修者が「知の理論」というメタ的な観点から、自らの実践を実践知として捉えて説明することができる。
- ③ 履修者が自らの研究している領域の布置を説明し、他者にその知識の意図を伝えることができる。

授業計画

授業計画		授業外の学習	
第1週	(第1講) Positioning for the Journey 本授業の探究の旅路を深めるとともに、国際バカロレアにおける「知の理論」についての役割について概説する。	事前	シラバスを読み、参考文献リストを見て本授業の見取り図を描く (3h)
		事後	コメントペーパーの提出 (1h)
第2週	(第2講) 知識とは何か (第3講) 知識の知識 (メタ的知識) 知識とは何かを「正当化」の文脈から理解する。 知識を分析するための知識の構造を考究する。	事前	事前配布資料を読む (3h)
		事後	コメントペーパーの提出 (1h) リサーチワーク (3h)
第3週	(第4講) 知識の方法と枠組み (第5講) 知識の種類 IBの知識を知るため方法と知識の枠組みについて理解する。 知識の種類について考究する。	事前	事前配布資料を読む (3h)
		事後	コメントペーパーの提出 (1h) リサーチワーク (3h)
第4週	(第6講) 数学の知識/科学の知識 (第7講) 科学論 IBにおける数学の知識/科学の知識について概説する。 科学的知識とはいかなるものか科学哲学等から考究する。	事前	事前配布資料を読む (3h)
		事後	コメントペーパーの提出 (1h) 総括討論に向けた資料探索 (1h)
第5週	(第8講) 人間科学の知識/歴史の知識 (第9講) 法律と政治の知識は可能か IBにおける人間科学の知識/歴史の知識について概説する。 法律の知識や政治の知識がいかに成立するのかを考究する。	事前	事前配布資料を読む (3h)
		事後	コメントペーパーの提出 (1h) 総括討論に向けた資料探索 (1h)
第6週	(第10講) 宗教的知識 (第11講) 倫理的知識 IBにおける宗教的知識について専門的知見からも考究する。 IBにおける倫理的知識ならびに道徳について考究する。	事前	事前配布資料を読む (3h) 総括討論に向けた資料探索 (2h)
		事後	総括討論に向けた資料作成 (2h) コメントペーパーの提出 (1h)
第7週	(第12講) 芸術的知識/土着の知識 (第13講) 教育の知識をどう考えるか IBにおける芸術的知識/土着の知識について概説する。 「教育に関する知識」は存立可能なのかを考究する。	事前	事前配布資料を読む (3h) 総括討論に向けた資料作成 (3h)
		事後	総括討論に向けた資料作成 (3h) コメントペーパーの提出 (1h)

第8週	(第14講/第15講) 総括討論 履修者の対象として知識について、報告をする。	事前	総括討論に向けた資料作成 (10h)		
		事後	コメントペーパーの提出 (1h) リサーチワーク (3h)		
授業の進め方と方法					
<p>上記目的・到達目標を達成するため、本授業は講義法とグループワーク法ならびにペアワーク法を用いる。本授業については、それぞれの授業週でひとつのトピックを深く考究するため、90分×2コマ連続で実施する。また、授業終了ごとにコメントペーパーを提出することを求め、履修者の関心を維持する。</p> <p>※リサーチワークとは、本授業内容をもとにして履修者の関心に応じて研究活動を実践することである。</p>					
教科書・参考書					
<p>教科書は指定しない。それぞれの授業で Lecture Note を配布する。</p> <p>以下、参考図書を列記する。</p> <p>Sue Bastian, Julian Kitching, Ric Sims (2020) <i>Theory of Knowledge for the IB Diploma: TOK for the IB Diploma (Pearson International Baccalaureate Diploma: International Editions)</i>, Oxford University Press.</p> <p>シェリング著/西川富雄・藤田正勝監訳『学問論』岩波文庫。</p> <p>上枝美典 (2020) 『現代認識論入門——ゲティア問題から徳認識論まで』、勁草書房。</p> <p>坂本尚志 (2022) 『バカロレアの哲学「思考の型」で自ら考え、書く』日本実業出版社。</p> <p>ジャン＝フランソワ・ブラウスタン (2022) 『グランゼコールの教科書——フランスのエリートが習得する最高峰の知性』、プレジデント社。</p>					
評価方法					
<p>以下の観点ごとに評価し、100点満点になるように換算する。60点を超えるものに単位を付与する。</p> <p>1. 授業ごとにコメントを書き提出を求める「コメントペーパー」(35%) 本評価は、とくに到達目標の①と②の到達度を測るためのものである。</p> <p>2. 最終授業回でのディスカッションならびに発表 (65%) 本評価は、とくに到達目標の③の到達度を測るためのものである。</p>					
その他の重要事項					
<p>コンタクトならびにオフィスアワーについて</p> <p>○メールではなく、Microsoft Teams のチャット機能で連絡をすること (相談内容については問わない)。</p> <p>○授業 Team のタブにオフィスアワー予約ページを作成しているので、そちらから予約を取ること (予約優先)。</p>					
2022年度科目との読替え					
なし。					
本科目と対応するディプロマ・ポリシー		DP ①	DP ②	DP ③	DP ④
		○	○	-	-

授業名称	社会学基礎理論			科目コード	PEPA1102L
担当教員	富井 久義	実施方法	ハイフレックス	単位数	2 単位
配当年次	1・2 年次	開講学期	前期	曜日	水 B
年間開講数	1 回	授業種別	講義	授業区分	選択

授業の目的

本授業の目的は、社会学の基本的な理論や視座、発想法を理解し、社会的想像力を身につけることにある。社会課題や経営課題に取り組み、実行可能な解決策を見いだしていくためには、その課題の社会的な位置づけを見定める俯瞰的な視点や、課題を多角的にとらえる複眼的思考が求められる。「より大局的な歴史的場面を、個人ひとりひとりの内的な精神生活や外的な職業経歴によってそれがどのような意味をもっているのか」(C. W. Mills, 1959=2017: 19) を考える社会的想像力を身につけることは、そうした能力を身につける一助となるだろう。

本授業では、主要な社会学理論をその射程の別に取り上げるなかで、社会的想像力の多様な発揮のしかたについて検討し、履修者の関心や課題に近い社会学理論を習得することをめざす。

到達目標

- ① 社会的想像力について理解し、みずから関心をもつ社会課題や経営課題に関連する事例に関連づけて説明することができる。
- ② 社会学の基本的な理論をもちいて、みずから関心をもつ世の中のさまざまな事象を解釈・説明することができる。
- ③ みずから関心をもつ社会課題や経営課題に関連することがらについて、社会学の理論をもちいて説明することができる。

授業計画

授業計画		授業外の学習	
第1週	(第1講) 社会学とはなにか (イントロダクション) —— 社会学、社会的想像力、近代社会	事前	シラバスを読み課題や評価方法等についての疑問点をまとめる (1h)
		事後	コメントペーパー記入 (0.5h)、授業内容の復習 (2h)、予習・復習スケジュールの割当検討 (1h)
第2週	(第2・3講) 初期の理論家に学ぶ社会的視座 —— ウェーバー、デュルケム、マルクス	事前	フィードバックコメントの確認 (0.5h)、授業タイトル・キーワードの予習 (2h)
		事後	コメントペーパー記入 (0.5h)、授業内容の復習 (2h)
第3週	(第4・5講) ミクロ・レベルに照準する社会学の基礎理論 —— 象徴的相互作用論、相互行為、自己	事前	フィードバックコメントの確認 (0.5h)、授業タイトル・キーワードの予習 (2h)
		事後	コメントペーパー記入 (0.5h)、授業内容の復習 (1.5h)
第4週	(第6・7講) メゾ・レベルに照準する社会学の基礎理論 —— 官僚制、中間集団、社会関係資本	事前	フィードバックコメントの確認 (0.5h)、授業タイトル・キーワードの予習 (2h)
		事後	コメントペーパー記入 (0.5h)、授業内容の復習 (2h)
第5週	(第8・9講) マクロ・レベルに照準する社会学の基礎理論 —— 機能主義、顕在的機能と潜在的機能、中範囲の理論	事前	フィードバックコメントの確認 (0.5h)、授業タイトル・キーワードの予習 (2h)
		事後	コメントペーパー記入 (0.5h)、授業内容の復習 (2h)、課題発表のテーマ検討 (2h)
第6週	(第10・11講) 社会学は社会変動をいかにとらえているのか —— 葛藤理論、テクノロジーと社会変動、変化への意志と社会変動	事前	フィードバックコメントの確認 (0.5h)、授業タイトル・キーワードの予習 (2h)
		事後	コメントペーパー記入 (0.5h)、授業内容の復習 (1.5h)、課題発表の構成検討 (2h)

第7週	(第12・13講) 社会学は時間と空間をいかにとらえているの —— 歴史、記憶、都市	事前	フィードバックコメントの確認 (0.5h)、授業タイトル・キーワードの予習 (2h)
		事後	コメントペーパー記入 (0.5h)、授業内容の復習 (2h)
第8週	(第14・15講) 課題発表と討論 —— 関心のある社会課題／経営課題についての社会学の概念をもちいた考察の発表と討論	事前	フィードバックコメントの確認 (1h)、課題発表準備 (17h)
		事後	コメントペーパー記入 (0.5h)、発表者へのフィードバックシートの記入 (2h)、授業内容の復習 (1.5h)

授業の進め方と方法

本授業は、第2週目以降、2講連続で実施する。

第2週から第7週の授業は概ね、前回のふりかえり、授業のねらいの確認、講義（話題提供）、ディスカッション（演習課題）で構成される。教員が用意するスライド資料に沿って進行する。質問は随時、発言またはチャットで受け付ける。ディスカッションは、毎週のテーマに関連する主題について、グループで検討して全体発表をする方法か、各自コメントペーパーに記入して教員が次週に紹介する方法をとる。毎週の授業終了時には、授業で学んだこと、意見・質問・感想、演習課題への貢献を記すコメントペーパーの提出を求める。コメントペーパーには教員からフィードバックのコメントを返す。このうち重要なものについては、次週の授業冒頭のふりかえりの際に紹介する。

第8週については、関心のある社会課題／経営課題について社会学の概念をもちいた考察をする発表を各履修者に求め、相互に討論するかたちで進行する。

教科書・参考書

【教科書】 指定しない

【参考書】

- アンソニー・ギデンズ，2006＝2009，『社会学 第五版』而立書房。
- 長谷川公一ほか，2019，『社会学 新版』有斐閣。
- 田中正人編，2019，『社会学用語図鑑』プレジデント社。

*このほか、初回および毎回の授業で参考書・参考資料を提示する。

評価方法

- | | |
|----------------|-----|
| ● コメントペーパーの内容 | 30% |
| ● ディスカッションへの貢献 | 30% |
| ● 第8週の課題発表の内容 | 40% |

その他の重要事項

担当教員のオフィスアワーおよび授業時間外での相談方法については、第1週の授業で説明する。

2022年度科目との読替え

なし。

本科目と対応するディプロマ・ポリシー	DP ①	DP ②	DP ③	DP ④
	○	○	-	-

授業名称	教育学基礎理論			科目コード	PEPA1103L
担当教員	眞崎 光司	実施方法	オンライン	単位数	2 単位
配当年次	1 年次	開講学期	前期	曜日	月 B
年間開講数	1 回	授業種別	講義	授業区分	選択

授業の目的

本授業の目的は、教育学の理論や教育に関する思想、歴史、近年の状況を理解し、教育の意義や時代に応じた教育方法、及びその課題を考察することを通じて、学校、企業、地域社会等における人間対人間の教育で応用可能な知識や能力を涵養することである。

「教育」とは誰しもが経験する行為であり、意識的にでも、無意識的にでも行われているものである。しかし「教育」とは何であり、なぜ人間に必要なのだろうか？そしてどのような教育方法が求められ、どのような効果があるのだろうか？「教育」と一言で言っても考えることは多々ある。本授業では理論的な側面から、教育に関する諸現象を解説する。

到達目標

- ① 人間に教育が必要な理由、意義を説明することができる。
- ② 状況に応じた効果的な教育方法を説明することができる。
- ③ 授業で学ぶ教育学の概念や理論を用いて、自らの教育実践の課題を述べることができる。

授業計画

授業計画		授業外の学習	
第 1 週	1 講：オリエンテーション—教育を学び、問うということはどういうことか？—	事前	シラバスの精読 (1h)
		事後	コメントペーパー作成 (2h) 授業内容の復習 (1h)
第 2 週	2・3 講：「教育」の誕生—古代～中世の教育思想—	事前	授業資料の確認 (1h) ディスカッションの準備 (2h)
		事後	コメントペーパー作成 (2h) 授業内容の復習 (1h)
第 3 週	4・5 講：教育思想の発展と学校制度の成立—近代の教育思想・日本における教育思想の変化—	事前	授業資料の確認 (1h) ディスカッションの準備 (2h)
		事後	コメントペーパー作成 (2h) 授業内容の復習 (1h)
第 4 週	6・7 講：教育の多様性—インフォーマル学習・ノンフォーマル学習—	事前	授業資料の確認 (1h) ディスカッションの準備 (2h)
		事後	コメントペーパー作成 (2h) 授業内容の復習 (1h)
第 5 週	8・9 講：学習理論の展開—「学習」概念の変化—	事前	授業資料の確認 (1h) ディスカッションの準備 (2h)
		事後	コメントペーパー作成 (2h) 授業内容の復習 (1h)
第 6 週	10・11 講：教育方法の基本原則—効果的な方法とは何か？—	事前	授業資料の確認 (1h) ディスカッションの準備 (2h)
		事後	コメントペーパー作成 (2h) 授業内容の復習 (1h)
第 7 週	12・13 講：教育の効果と評価—どのような効果が得られ、何を評価するのか？—	事前	授業資料の確認 (1h) ディスカッションの準備 (2h)
		事後	コメントペーパー作成 (2h) 授業内容の復習 (1h)
第 8 週	14・15 講：まとめと振り返り	事前	授業資料の確認 (1h) ディスカッションの準備 (2h)
		事後	コメントペーパー作成 (2h) 授業内容の復習 (1h) 最終レポート作成 (14h)

授業の進め方と方法				
<p>本授業は、第2週目以降、2講（90分×2）連続で実施する。上記目的・到達目標を達成するため、各授業の初めに授業内容に応じたワークを提示する。それらの課題に回答し、ディスカッションを踏まえたうえで、講義形式の授業に移行する。なお、ワークには完全な正解はないので、自由な発想に基づく回答を求める。</p>				
教科書・参考書				
<p>本授業では教科書は指定しない。参考書は下記の通りとする。また必要に応じて文献を紹介する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 相澤伸幸，2015，『教育学の基礎と展開 [第3版]』ナカニシヤ出版. 大崎素史・坂本辰朗・井手華奈子・牛田伸一・井上伸良，2016，『人間の教育を求めて—教育学概論—』学文社. 佐藤学，1996，『教育方法学』岩波書店. 沼田裕之・増渕幸男編，2009，『教育学21の問い』福村出版. 				
評価方法				
<ul style="list-style-type: none"> 各回のコメントペーパーの内容（60%）：授業内容やディスカッションに関する自身の考えをまとめる。 最終レポート課題（40%） 				
その他の重要事項				
<p>授業の初回にオフィスアワーについて説明する 遅刻や欠席をする場合は、学内のLMS（学習管理システム）を通じて事前に連絡すること</p>				
2022年度科目との読替え				
なし。				
本科目と対応するディプロマ・ポリシー	DP ①	DP ②	DP ③	DP ④
	○	○	-	-

授業名称	人材育成の基礎			科目コード	PEPA1104L
担当教員	田原 祐子	実施方法	オンライン	単位数	2 単位
配当年次	1 年次	開講学期	前期	曜日	月 A
年間開講数	1 回	授業種別	講義	授業区分	選択

授業の目的

本授業の目的は、人材に内在する限りない潜在能力を引き出し、モチベーション・エンゲージメント・知的生産性の高い自律型人材を育成するため、人材育成に関する理論や手法を理解・修得することである。

「人的資本経営」という言葉が示すように、人材なくして事業は成り立たず、人材は企業にとって、かけがえない貴重な資本（キャピタル）である。人生 100 年時代を迎え、人材に必要とされるスキルの変化・仕事に対する価値観や働き方の多様化によって、人材育成や人事に関する戦略も変革を求められている。加えて、ジョブ型雇用の導入・従来のピラミッド型とは対極にあるティール組織が注目されるといった時代の流れの中で、人材マネジメントの手法も、HR テクノロジーの活用等を含め大きく変化している。

本授業では具体的に、こうした変革が進む中で、「人材育成のあり方や、しくみ・環境整備をどうすべきか」といったテーマについて、関連する理論・知見を参照しつつ検討していく。

到達目標

- ① 履修者が、転換期を迎えている今の時代に合致した、実践的な人材育成・人事戦略に関する理論や視点を説明できるようになる。
- ② 履修者が、モチベーション・エンゲージメントや知的生産性の高い自律型人材の育成に向けた施策について検討できるようになる。
- ③ 履修者が、修得した理論や視点をもとに、人材育成について説得的に分析できるようになる。

授業計画

授業計画		授業外の学習	
第 1 週	(第 1 講) ガイダンス: 「人的資本経営の概要」と「人材育成における課題」	事前	シラバスの精読 (0.5h) 授業での質問事項の検討 (0.5h)
		事後	ミニットペーパーの提出 (1h) 講義・ディスカッションの復習 (2h)
第 2 週	(第 2 講) (第 3 講) 「企業内教育訓練」と「人材育成～基本と実践法」: 学習のメカニズム、学習モデル、学習環境デザイン、フレーム&ワークモジュールの理解と応用	事前	授業資料の確認 (1.5h) ディスカッションの準備 (1h) 参考図書該当部分の読み込み (1.5h)
		事後	ミニットペーパーの提出 (1h) 講義・ディスカッションの復習 (2h)
第 3 週	(第 4 講) (第 5 講) 「人材の強みを活かす①～ヒューマン・リソース・マネジメント」: コンピテンシー、タレントマネジメント、キャリア・アンカーの理解と応用	事前	授業資料の確認 (1.5h) ディスカッションの準備 (1h) 参考図書該当部分の読み込み (1.5h)
		事後	ミニットペーパーの提出 (1h) 講義・ディスカッションの復習 (2h)
第 4 週	(第 6 講) (第 7 講) 「人材の強みを活かす②～キャリアコンサルティング」: キャリア開発、ゼネラリスト vs スペシャリスト、ジョブカードの理解と応用	事前	授業資料の確認 (1.5h) ディスカッションの準備 (1h) 参考図書該当部分の読み込み (1.5h)
		事後	ミニットペーパーの提出 (1h) 講義・ディスカッションの復習 (2h)
第 5 週	(第 8 講) (第 9 講) 「人材を育てモチベーションを高める、“承認”と“評価”のしくみ: 動機づけの理論、承認欲求、人事考課、考課面談、報酬、MBO (Management by Objectives) の理解と応用	事前	授業資料の確認 (1.5h) ディスカッションの準備 (1h) 参考図書該当部分の読み込み (1.5h)
		事後	ミニットペーパーの提出 (1h) 講義・ディスカッションの復習 (2h)
第 6 週	(第 10 講) (第 11 講) 「組織開発・チームビルディング、チェンジマネジメント」: サーバントリーダーシップ、ティール組織、1on1 コーチングの理解と応用	事前	授業資料の確認 (1.5h) ディスカッションの準備 (1h) 参考図書該当部分の読み込み (1.5h)
		事後	ミニットペーパーの提出 (1h) 講義・ディスカッションの復習 (2h)

第7週	(第12講)「最新の人材育成戦略、および、データドリブン人事戦略」: HR テック (ヒューマン・リソース・テクノロジー) の理解と応用 (第13講) 最終発表の計画立案	事前	授業資料の確認 (1.5h) ディスカッションの準備 (1h) 参考図書該当部分の読み込み (1.5h)		
		事後	ミニットペーパーの提出 (1h) 講義・ディスカッションの復習 (2h) 最終発表の計画立案 (5h)		
第8週	(第14講)(第15講) 発表・プレゼンテーション～これまで学修した内容を活用し、履修者が所属する組織を題材とした組織課題の解決、および、「効果的な人材育成」実現のためのアプローチ、講評～総合ディスカッション	事前	最終発表の準備 (2h)		
		事後	ミニットペーパーの提出 (1h) 講義・ディスカッションの復習 (1h) 最終発表フィードバックの復習 (1h) 最終レポート課題 (4h)		
授業の進め方と方法					
上記目的・到達目標を達成するため、本授業は講義とディスカッション、グループワークを中心に進行する。また、履修者は、学んだ内容が自らの実務とどう関係する、どのように役立つ可能性があるか、といった事柄についてミニットペーパーに記入し、毎回の授業後の課題として提出する。					
教科書・参考書					
教科書は指定しない。参考書は下記の通り。 中原淳 (編著)・荒木淳子・北村士朗・長岡健・橋本論 (著), 2006, 『企業内人材育成入門』ダイヤモンド社。 高橋俊介, 2012, 『人が育つ会社をつくる』日本経済新聞出版社。 田原祐子, 2017, 『マネージャーは「人」を管理しないでください』秀和システム。 その他、授業中に適宜参考図書を紹介する。					
評価方法					
① ミニットペーパーの提出 (15%) : 毎回の授業後、履修者の意見と、そう考える理由を記す。 ② ディスカッション・グループワークへの貢献度 (25%) ③ 最終プレゼンテーション (40%) ④ 最終レポート課題 (800 字) (20%)					
その他の重要事項					
遅刻や欠席をする場合は、学内の LMS (学習管理システム) またはメール等を通じて事前に連絡すること。本授業に関する疑問点や不明点については、担当教員まで問い合わせること。					
2022 年度科目との読替え					
なし。					
本科目と対応するディプロマ・ポリシー	DP ①	DP ②	DP ③	DP ④	
	○	-	○	-	

授業名称	現代社会論			科目コード	PEPA1105L
担当教員	富井 久義	実施方法	ハイフレックス	単位数	2 単位
配当年次	1・2 年次	開講学期	後期	曜日	木 A
年間開講数	1 回	授業種別	講義	授業区分	選択

授業の目的

本授業の目的は、現代社会における教育や人材育成、コミュニケーションの位置づけを明らかにするために、社会学の主要な概念と方法をもちいて現代社会の分析をおこなうことである。

現代社会はどのような社会なのか。どのようにすれば現代社会を分析的にとらえることができるのだろうか。現代社会について理解を深めることは、私たちが生きる社会についての複眼的な視座を身につけ、解像度を高めていくことにつながる。そしてそれは、履修者各自が関心を有する社会課題や経営課題についての社会的な位置づけを明らかにする一助となる。

本授業では、社会階層・グローバル化・資源の分配をめぐる議論を中心に、現代社会を論じる社会学の議論を検討することで、履修者各自が現代社会を論じる視座を身につけることをめざす。

到達目標

- ① 現代社会を分析するための主要な概念や発想法を理解し、説明することができる。
- ② 現代社会を分析する議論について、みずから関心をもつ社会課題や経営課題に関連づけて説明することができる。
- ③ 現代社会を分析する議論について、分析視角、知見、課題を正しく読解することができる。

授業計画

授業計画		授業外の学習	
第 1 週	(第 1 講) 現代社会をとらえるための視座と方法① ——イントロダクション	事前	シラバスを読み課題や評価方法等についての疑問点をまとめる (1h)
		事後	コメントペーパー記入 (0.5h)、授業内容の復習 (2h)、予習・復習スケジュールの割当検討 (1h)
第 2 週	(第 2・3 講) 現代社会をとらえるための視座と方法② ——現代社会をめぐる理論と社会学の調査方法	事前	フィードバックコメントの確認 (0.5h)、授業タイトル・キーワードの予習 (2h)
		事後	コメントペーパー記入 (0.5h)、授業内容の復習 (2h)
第 3 週	(第 4・5 講) 少子高齢化の進展と人びとの行動・意識の変容 ——家族の戦後体制、同類婚、少子化対策	事前	フィードバックコメントの確認 (0.5h)、授業タイトル・キーワードの予習 (2h)
		事後	コメントペーパー記入 (0.5h)、授業内容の復習 (2h)
第 4 週	(第 6・7 講) グローバル化と移動 ——再帰的近代化、マクドナルド化、観光のまなざし	事前	フィードバックコメントの確認 (0.5h)、授業タイトル・キーワードの予習 (2h)
		事後	コメントペーパー記入 (0.5h)、授業内容の復習 (2h)
第 5 週	(第 8・9 講) クリエイティブ・クラスと知識 ——クリエイティブ資本論、知識社会、格差社会	事前	フィードバックコメントの確認 (0.5h)、授業タイトル・キーワードの予習 (2h)
		事後	コメントペーパー記入 (0.5h)、授業内容の復習 (2h)、課題発表文献の選択 (2h)
第 6 週	(第 10・11 講) 福祉国家をめぐる議論の展開と資源の分配 ——福祉国家論、資源配分様式、ボランティア・NPO	事前	フィードバックコメントの確認 (0.5h)、授業タイトル・キーワードの予習 (2h)
		事後	コメントペーパー記入 (0.5h)、授業内容の復習 (2h)、課題発表文献の精読 (6h)
第 7 週	(第 12・13 講) 地域をとらえるまなざしと実践 ——地方創生、地域おこし、地 (知) の拠点	事前	フィードバックコメントの確認 (0.5h)、授業タイトル・キーワードの予習 (2h)
		事後	コメントペーパー記入 (0.5h)、授業内容の復習 (2h)

第 8 週	(第 14・15 講) 現代社会論を読む——課題発表と討論	事前	フィードバックコメントの確認 (0.5h)、課題発表準備 (12h)		
		事後	コメントペーパー (発表へのリアクション含む) 記入 (3h)、授業内容の復習 (2h)		
授業の進め方と方法					
<p>本授業は、第 2 週目以降、2 講連続で実施する。</p> <p>第 2 週から第 7 週の授業は概ね、前回のふりかえり、授業のねらいの確認、講義 (話題提供)、ディスカッション (演習課題) で構成される。教員が用意するスライド資料に沿って進行する。質問は随時、発言またはチャットで受け付ける。ディスカッションは、毎週のテーマに関連する主題について、グループで検討して全体発表をする方法か、各自コメントペーパーに記入して教員が次週に紹介する方法をとる。毎週の授業終了時には、授業で学んだこと、意見・質問・感想、演習課題への貢献を記すコメントペーパーの提出を求める。コメントペーパーには教員からフィードバックのコメントを返す。このうち重要なものについては、次週の授業冒頭のふりかえりの際に紹介する。</p> <p>第 8 週については、各履修者の関心に近い現代社会についての論文について、その分析視角・知見・課題等を発表し、討論をおこなうかたちで進行する。</p>					
教科書・参考書					
<p>【教科書】 指定しない</p> <p>【参考書】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 本田由紀編, 2015, 『現代社会論』 有斐閣. ● アンソニー・ギデンズ, 2006=2009, 『社会学 第五版』 而立書房. ● 長谷川公一ほか, 2019, 『社会学 新版』 有斐閣. <p>*このほか、初回および毎回の授業で参考書・参考資料を提示する。</p>					
評価方法					
<ul style="list-style-type: none"> ● コメントペーパーの内容 30% ● ディスカッションへの貢献 30% ● 第 8 週の課題発表の内容 40% 					
その他の重要事項					
担当教員のオフィスアワーおよび授業時間外での相談方法については、第 1 週の授業で説明する。					
2022 年度科目との読替え					
なし。					
本科目と対応するディプロマ・ポリシー		DP ①	DP ②	DP ③	DP ④
		○	○	-	-

授業名称	実践研究法 I			科目コード	PEPA1106L
担当教員	オムニバス	実施方法	一部ハイフレックス	単位数	2 単位
配当年次	1 年次	開講学期	前期	曜日	火 B
年間開講数	1 回	授業種別	講義	授業区分	選択必修

授業の目的

本授業の目的は、履修者が社会構想大学院大学の専門職学位課程において、修士論文相当の最終成果物を作成するにあたり必要となるアカデミック・スキルズを身につけることにある。社会人学生が大学院において効率的に実りある学びを得るためには、これまでに蓄積された学術知にアクセスし、それらを読み解き、自ら新たな知を生み出し、他者に伝達するための一連の能力を高い水準で有することが必要不可欠である。

本授業ではまず「研究」や「調査」とはいかなる営みか整理し、それらを支える思考法を学び、そのうえで文献調査の技法や、アカデミックコンテンツを読み・書き・伝える能力を身につけていく。併せて、適切な倫理性を備えた研究計画を立案するための基礎的な考え方を習得する。

到達目標

- ① 履修者が「研究」や「調査」といった概念や、その前提となる思考法・倫理について説明できるようになる。
- ② 履修者が書籍や論文といった学術的リソースを利活用できるようになる。
- ③ 履修者がアカデミックなコンテンツを読み・書き・伝える能力を身につける。

授業計画

授業計画		授業外の学習	
第 1 週	(第 1 講／橋本純次) 研究とはなにか、調査とはなにか：オリエンテーション	事前	シラバスの精読 (0.5h) 授業での質問事項の検討 (1h)
		事後	コメントペーパーの提出 (1h) 指定された文献の精読 (2h)
第 2 週	(第 2 講・第 3 講／橋本純次) 論理的思考とデザイン思考：高度専門職業人の基礎となる世界の捉え方	事前	授業資料の確認 (1.5h) 課題への取り組み (2h)
		事後	コメントペーパーの提出 (1h) 指定された文献の精読 (2h)
第 3 週	(第 4 講・第 5 講／眞崎光司) 文献調査の技法：学術情報を体系的に検索する方法	事前	授業資料の確認 (1.5h) 課題への取り組み (2h)
		事後	コメントペーパーの提出 (1h) 指定された文献の精読 (2h)
第 4 週	(第 6 講・第 7 講／眞崎光司) クリティカル・リーディングの基礎と実践：文献レビューのための読書法	事前	授業資料の確認 (1.5h) 課題への取り組み (5h)
		事後	コメントペーパーの提出 (1h) 指定された文献の精読 (2h)
第 5 週	(第 8 講・第 9 講／伴野崇生) アカデミック・ライティングの基礎	事前	授業資料の確認 (1.5h) 課題への取り組み (2h)
		事後	コメントペーパーの提出 (1h) 指定された文献の精読 (2h)
第 6 週	(第 10 講・第 11 講／全教員) アカデミック・ライティング演習：パラグラフ・ライティングの実践	事前	授業資料の確認 (1.5h) 課題への取り組み (6h)
		事後	コメントペーパーの提出 (1h) 指定された文献の精読 (2h)
第 7 週	(第 12 講・第 13 講／橋本純次) アカデミック・プレゼンテーションの基礎と実践：ビジネス・プレゼンテーションとの違いを中心に	事前	授業資料の確認 (1.5h) 課題への取り組み (5h)
		事後	コメントペーパーの提出 (1h) ディスカッションの復習 (2h)

第8週	(第14講・第15講／富井久義) 研究計画と研究倫理：調査依頼状にあらわれるリサーチ・デザインと調査倫理	事前	授業資料の確認 (1.5h) 課題への取り組み (2h)		
		事後	コメントペーパーの提出 (1h) 授業内課題のブラッシュアップ (2h)		
授業の進め方と方法					
上記目的・到達目標を達成するため、本授業は講義とディスカッションを中心に進行する。併せて、アカデミックな方法論を履修者全体に内在化する観点から、いくつかのテーマでは課題へのフィードバックを全体で共有しながら授業を進める。					
教科書・参考書					
参考書として以下3点を挙げる。履修者の状況に応じていずれかを手元に置くことが望ましい。					
<ul style="list-style-type: none"> 戸田山和久 (2022) 『最新版 論文の教室』, NHK 出版. 鹿島茂 (2003) 『勝つための論文の書き方』, 文藝春秋. ウェイン・ブース (2018) 『リサーチの技法』, ソシム. 					
評価方法					
① 毎回の授業でのディスカッションへの貢献とコメントペーパーの提出					
② 各回で課せられる課題の提出					
③ 最終課題の提出					
以上、① (40%)、② (30%)、③ (30%) の総合評価により判定する。					
その他の重要事項					
論文等、アカデミックな文章の執筆経験がない学生のほか、そうした技術を改めて習得したいと考える学生に履修を推奨する。各教員のオフィスアワーおよび予約の方法については初回の授業で説明する。 本授業は1・6・8週をハイフレックス、2・3・4・5・7週をオンラインで実施する。 成績評価は富井久義、伴野崇生、眞崎光司の合議で決定する。					
2022年度科目との読替え					
なし。					
本科目と対応するディプロマ・ポリシー	DP ①	DP ②	DP ③	DP ④	
	○	○	-	-	

授業名称	実践研究法Ⅱ			科目コード	PEPA1107S
担当教員	富井 久義	実施方法	ハイフレックス	単位数	2 単位
配当年次	1 年次	開講学期	後期	曜日	火 B
年間開講数	1 回	授業種別	演習	授業区分	選択必修

授業の目的

本授業の目的は、社会調査の発想法や具体的な方法論を理解し、みずから有する課題を探究するにあたって適切な調査方法を選択し、調査の設計・実施・集計・分析・解釈・報告ができるようになることである。

とくに、研究科所属大学院生を対象とした調査票調査である学習時間調査と、修了生を対象とした大学院での学習効果にかんする聞き取り調査を題材に取り上げた演習を取り入れることで、社会調査の手法を実践的に習得することをめざす。

到達目標

- ① 社会調査の主要なねらいや発想法を理解し、調査にもとづく報告書や論文を適切に読み解くことができる。
- ② 社会調査の設計・実施・集計を適切な手法をもちいておこなうことができる。
- ③ 社会調査の分析・解釈・報告を適切な手法をもちいておこなうことができる。

授業計画

授業計画		授業外の学習	
第 1 週	(第 1 講) 社会調査とはなにか (イントロダクション) —— 社会調査史、社会調査の種類と実例、調査倫理	事前	シラバスを読み課題や評価方法等についての疑問点をまとめる (1h)
		事後	コメントペーパー記入 (0.5h)、選択するグループの検討 (1.5h)
第 2 週	(第 2・3 講) 社会調査の設計と実施方法 —— 調査企画と設計、質問文・調査票のつくりかた、調査の実施とデータの整理	事前	フィードバックコメントの確認 (0.5h)、授業タイトル・キーワードの予習 (1h)
		事後	コメントペーパー記入 (0.5h)、グループでの調査計画検討 (2h)
第 3 週	(第 4・5 講) 調査データの分析 —— 記述統計データの読みかた、基礎的統計概念、グラフの読みかたと作成方法	事前	フィードバックコメントの確認 (0.5h)、授業タイトル・キーワードの予習 (1h)
		事後	コメントペーパー記入 (0.5h)、グループでの調査票・質問案検討 (2h)
第 4 週	(第 6・7 講) 質的な調査と分析 —— 質的調査の方法、質的データの分析法、質的データ分析ソフトの使用法	事前	フィードバックコメントの確認 (0.5h)、授業タイトル・キーワードの予習 (1h)
		事後	コメントペーパー記入 (0.5h)、グループでの調査票・質問案検討 (1.5h)
第 5 週	(第 8・9 講) 社会調査の実践① —— 学習時間調査のリバイズと実査、学習成果にかんする聞き取り調査の設計	事前	フィードバックコメントの確認 (0.5h)、グループでの調査票・質問案完成 (1.5h)
		事後	コメントペーパー記入 (0.5h)、学習時間調査・聞き取り調査の実査 (15h)
第 6 週	(第 10・11 講) 社会調査に必要な統計学 —— 基本統計量、検定、相関係数	事前	フィードバックコメントの確認 (0.5h)、授業タイトル・キーワードの予習 (1h)
		事後	コメントペーパー記入 (0.5h)、グループでの調査データの入力・整理 (2h)
第 7 週	(第 12・13 講) 多変量解析の方法 —— 重回帰分析、ロジスティック回帰分析、分散分析	事前	フィードバックコメントの確認 (0.5h)、授業タイトル・キーワードの予習 (1h)
		事後	コメントペーパー記入 (0.5h)、グループでの調査データの分析 (1.5h)
第 8 週	(第 14・15 講) 社会調査の実践② —— 分析、仮説検証、報告書作成	事前	フィードバックコメントの確認 (0.5h)、グループでの知見の整理 (1.5h)
		事後	コメントペーパー記入 (0.5h)、最終レポート課題への取り組み・執筆 (16h)、最終レポート課題相互レビュー (2h)

授業の進め方と方法

本授業は、第2週目以降、2講連続で実施する。社会調査の発想法や方法論についての講義と、調査票調査または聞き取り調査の設計・実施・集計・分析に取り組む演習の双方を取り入れて授業を進める。授業外にグループで協力して課題に取り組むことも求められる。

毎週の授業終了時には、授業で学んだこと、意見・質問・感想、演習課題への貢献を記すコメントペーパーの提出を求める。コメントペーパーには教員からフィードバックのコメントを返す。このうち重要なものについては、次週の授業冒頭のふりかえりの際に紹介する。

授業で取り組んだ調査結果をもとにした、大学院での学習にかんする考察を求める最終レポート課題を課す。最終レポート課題は提出期限後、履修者が相互に閲覧可能な期間を設ける。

教科書・参考書

【教科書】 指定しない

【参考書】

- 社会調査協会，2014，『社会調査事典』丸善出版.
 - 佐藤郁哉，2015，『社会調査の考え方 [上・下]』東京大学出版会.
 - 大谷信介ほか編，2013，『新・社会調査へのアプローチ——論理と方法』ミネルヴァ書房.
- *このほか、初回および毎回の授業で参考書・参考資料を提示する。

評価方法

- | | |
|---------------|-----|
| ● コメントペーパーの内容 | 30% |
| ● 演習課題への貢献 | 30% |
| ● 最終レポート課題の内容 | 40% |

その他の重要事項

担当教員のオフィスアワーおよび授業時間外での相談方法については、第1週の授業で説明する。

2022年度科目との読替え

なし。

本科目と対応するディプロマ・ポリシー	DP ①	DP ②	DP ③	DP ④
	○	○	-	○

授業名称	教育社会学			科目コード	PEPB1201L
担当教員	吉岡 三重子	実施方法	ハイフレックス	単位数	2 単位
配当年次	1 年次	開講学期	後期	曜日	土 B (1・2 限)
年間開講数	1 回	授業種別	講義	授業区分	選択

授業の目的

「教育」は、誰もが自らの経験に基づき語ることのできるテーマである。しかしながら、社会学の視点で教育をとらえてみると、そこには様々な「社会的」な要素が埋め込まれていることが見えてくる。すなわち、社会的に教育を考察することで、教育に関わる諸事象をより客観的・複合的に解き明かすことができるとともに、教育というレンズを通して私たちを取り巻く「社会」についても理解を深めることができるのである。本授業では、履修者が教育社会学の中核的な理論や手法を習得し、教育・社会を新たな視点から読み解き、関連する様々な課題を解決していけるようになることを目指す。

到達目標

- ① 履修者が、教育社会学の基本的な理論・手法を理解し、他者に説明することができる。
- ② 履修者の関心のある様々な教育事象・社会現象について説明することができる。
- ③ 履修者が抱える、また関心のある教育課題を社会的に構造化し、その解決策を具体化できる。

授業計画

授業計画		授業外の学習	
第 1 週	(第 1 講) イントロダクション (教育社会学とは何か)	事前	授業資料の予習 (2h) 参考文献等の確認 (2h)
		事後	授業の復習 (2h) ミニットペーパーの提出 (2h)
第 2 週	(第 2・3 講) 教育社会学のパラダイム展開 —近代化、メリトクラシー、機能主義、葛藤理論等—	事前	授業資料の予習 (2h) 参考文献等の確認 (2h)
		事後	授業の復習 (2h) ミニットペーパーの提出 (2h)
第 3 週	(第 4・5 講) 教育社会学の主要テーマ 1 —競争・選抜、学歴社会、大衆教育社会、格差・貧困—	事前	授業資料の予習 (2h) 参考文献等の確認 (2h)
		事後	授業の復習 (2h) ミニットペーパーの提出 (2h)
第 4 週	(第 6・7 講) 教育社会学の主要テーマ 2 —学校の構造、教師という仕事、生徒の関係—	事前	授業資料の予習 (2h) 参考文献等の確認 (2h)
		事後	授業の復習 (2h) ミニットペーパーの提出 (2h)
第 5 週	(第 8・9 講) 教育社会学の主要テーマ 3 —家族・学校・仕事・地域の関係性—	事前	授業資料の予習 (2h) 参考文献等の確認 (2h)
		事後	授業の復習 (2h) ミニットペーパーの提出 (2h)
第 6 週	(第 10・11 講) 教育社会学の主要テーマ 4 —政治・経済、市民性、グローバリゼーション—	事前	授業資料の予習 (2h) 参考文献等の確認 (2h)
		事後	授業の復習 (2h) ミニットペーパーの提出 (2h)
第 7 週	(第 12・13 講) プレゼンテーション —教育課題を構造化し、解決策を探る—	事前	プレゼンテーションの準備 (3h)、 授業資料の予習 (1h)
		事後	授業の復習 (2h) ミニットペーパーの提出 (2h)
第 8 週	(第 14・15 講) プレゼンテーション及び総括 —教育社会学の学びをさらに深め、活用するために—	事前	プレゼンテーションの準備 (3h)、 授業資料の予習 (1h)
		事後	授業の復習 (2h) ミニットペーパーの提出 (2h)

授業の進め方と方法				
<p>本授業は、第 2 週目以降、2 講（90 分×2）連続で実施する。上記目的・到達目標を達成するため、本授業では毎回、主要理論の考え方や最先端の研究動向を講義形式で解説する。そのうえで、当該知見の妥当性・限界等について履修者同士でディスカッションを行う時間を設ける。さらに第 7 週～第 8 週には、それまでに習得した教育社会学の知見を活かし、各履修者が特に関心を持つ教育課題を構造化し、解決策（に関する仮説）を具体化したうえで、プレゼンテーションする機会を提供する。</p>				
教科書・参考書				
<p>教科書は指定しない。</p> <p>講義ごとに資料を用意・配布するが、参考書として以下を紹介する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 日本教育社会学会編，2017，『教育社会学のフロンティア 1』岩波書店。 ・ 日本教育社会学会編，2018，『教育社会学のフロンティア 2』岩波書店。 ・ 荻谷剛彦ほか，2010，『教育の社会学（新版）』有斐閣アルマ。 ・ 柴野昌山・菊池城司・竹内洋，1992，『教育社会学』有斐閣ブックス。 				
評価方法				
<p>① ミニットペーパーの内容（30%）</p> <p>② ディスカッションへの貢献度（30%）</p> <p>③ 第 7 週～第 8 週に実施するプレゼンテーションの内容・方法（40%）</p>				
その他の重要事項				
担当教員のオフィスアワーおよび授業時間外での相談方法については、第 1 週の授業で説明する。				
2022 年度科目との読替え				
なし。				
本科目と対応するディプロマ・ポリシー	DP ①	DP ②	DP ③	DP ④
	○	○	-	-

授業名称	産業社会学			科目コード	PEPB2202L
担当教員	富井 久義	実施方法	ハイフレックス	単位数	2 単位
配当年次	1 年次	開講学期	前期	曜日	木 A
年間開講数	1 回	授業種別	講義	授業区分	選択

授業の目的

本授業の目的は、現代社会の産業構造の変化と、その変化への企業や労働者の対応を、産業・労働社会学と関連する理論に基づいて明らかにすることをつうじて、履修者が取り組む教育・人材育成・教育事業が産業社会においてどのような位置づけを有するのかを検討することにある。

現代社会において求められる教育や人材育成のありかたを考え、対象となる人材の行動変容を効果的にうながすためには、その人材の活躍の場となる産業社会のありかたを理解することや、産業社会を生きる人びとの置かれる状況や主観的意味世界を理解することが大きなヒントとなる。

そこで本授業では、産業や労働に関連する多様なテーマについて、産業・労働社会学と関連する理論的視座から分析を加えることで、現代の産業社会についての理解を深めることをめざす。

到達目標

- ① 現代の産業社会の主要な特徴を理解し、説明することができる。
- ② みずから手がける教育や人材育成の位置づけを、産業・労働社会学の概念をもちいて説明することができる。
- ③ みずから手がける教育や人材育成にかんする取り組みについて、その意義を、企業・労働者・社会それぞれの立場から説明することができる。

授業計画

授業外の学習

授業計画	授業外の学習	
第 1 週	事前	シラバスを読み課題や評価方法等についての疑問点をまとめる (1h)
	事後	コメントペーパー記入 (0.5h)、授業内容の復習 (2h)、予習・復習スケジュールの割当検討 (1h)
第 2 週	事前	フィードバックコメントの確認 (0.5h)、授業タイトル・キーワードの予習 (2h)
	事後	コメントペーパー記入 (0.5h)、授業内容の復習 (2h)
第 3 週	事前	フィードバックコメントの確認 (0.5h)、授業タイトル・キーワードの予習 (2h)
	事後	コメントペーパー記入 (0.5h)、授業内容の復習 (2h)
第 4 週	事前	フィードバックコメントの確認 (0.5h)、授業タイトル・キーワードの予習 (2h)
	事後	コメントペーパー記入 (0.5h)、授業内容の復習 (2h)
第 5 週	事前	フィードバックコメントの確認 (0.5h)、授業タイトル・キーワードの予習 (2h)
	事後	コメントペーパー記入 (0.5h)、授業内容の復習 (2h)
第 6 週	事前	フィードバックコメントの確認 (0.5h)、授業タイトル・キーワードの予習 (2h)
	事後	コメントペーパー記入 (0.5h)、授業内容の復習 (2h)、最終レポート課題のテーマ検討 (1.5h)

第7週	(第12・13講) 雇用の流動化と働きかたの多様化 ——雇用の柔軟性(フレキシビリティ)、 非典型雇用、多様な働きかた	事前	フィードバックコメントの確認(0.5h)、授業タイトル・キーワードの予習(2h)
		事後	コメントペーパー記入(0.5h)、授業内容の復習(2h)、最終レポート課題の構成検討(2h)
第8週	(第14・15講) 労働力移動と離職・転職・失業 ——労働力移動、離職・転職・失業、 「雇用のミスマッチ」	事前	フィードバックコメントの確認(0.5h)、授業タイトル・キーワードの予習(2h)
		事後	コメントペーパー記入(0.5h)、授業内容の復習(2h)、最終レポート課題への取り組み・執筆(15h)、最終レポート課題相互レビュー(2h)

授業の進め方と方法

本授業は、第2週目以降、2講連続で実施する。毎週の授業は概ね、前回のふりかえり、授業のねらいの確認、講義(話題提供)、ディスカッション(演習課題)で構成される。教員が用意するスライド資料に沿って進行する。質問は随時、発言またはチャットで受け付ける。ディスカッションは、毎週のテーマに関連する主題について、グループで検討して全体発表をする方法か、各自コメントペーパーに記入して教員が次週に紹介する方法をとる。毎週の授業終了時には、授業で学んだこと、意見・質問・感想、演習課題への貢献を記すコメントペーパーの提出を求める。コメントペーパーには教員からフィードバックのコメントを返す。このうち重要なものについては、次週の授業冒頭のふりかえりの際に紹介する。

このほか、自身の研究課題について産業社会学の観点から考察することを求める最終レポート課題を課す。なお最終レポート課題は提出期限後、履修者が相互に閲覧可能な期間を設ける。

教科書・参考書

教科書は指定しない。参考書は以下の通り。このほか、初回および毎回の授業で参考書・参考資料を提示する。

- 松永伸太郎・園田薫・中川宗人編, 2022, 『21世紀の産業・労働社会学』ナカニシヤ出版。
- 小川慎一ほか, 2015, 『「働くこと」を社会学する 産業・労働社会学』有斐閣。
- 佐藤博樹・佐藤厚編, 2012, 『仕事の社会学 [改訂版]』有斐閣。
- 上林千恵子編, 2012, 『よくわかる産業社会学』ミネルヴァ書房。

評価方法

- | | |
|----------------|-----|
| ● コメントペーパーの内容 | 30% |
| ● ディスカッションへの貢献 | 30% |
| ● 最終レポート課題の内容 | 40% |

その他の重要事項

担当教員のオフィスアワーおよび授業時間外での相談方法については、第1週の授業で説明する。

2022年度科目との読替え

なし。

本科目と対応するディプロマ・ポリシー	DP ①	DP ②	DP ③	DP ④
	○	○	-	-

授業名称	組織論			科目コード	PEPB1203S
担当教員	坂本 文武	実施方法	ハイフレックス	単位数	2 単位
配当年次	1・2 年次	開講学期	後期	曜日	水 B
年間開講数	1 回	授業種別	講義	授業区分	選択

授業の目的

本授業の目的は、組織というものの構成要素や構造的課題を理解することで、広報及び人材育成担当者として企業と社員との関係性を再考する。組織と社員の成長を促す観点に軸足を置いて、「どのような組織デザインが望ましいのか」、「企業理念や社内外のステークホルダーとの関係性をどのように設計することが望ましいのか」などの問いに応えられるよう授業を進行する。「組織は人の集合体」である以上、人を扱う担当者は、組織の本質やジレンマを俯瞰して理解する必要がある。株式会社とは何か、ガバナンスの意義は何か、企業は何のために存在しているのか、など本質的な問いに向き合うことで、企業と社会、企業と社員の関係性を整理できるようになることを目指す。なお、本授業で扱う組織は、営利企業を主たる対象とする。ただし、組織の本質を理解するため、敢えて非営利組織や行政機構との共通点や相違点を確認しながら討議する。

到達目標

- ① 履修者が組織の可能性と課題を分析する基本的な視点を獲得する。
- ② 履修者が組織と社会の関係を体系的に説明することができる。
- ③ 履修者が組織を設計する際に重視すべき点について、自らの考えを述べることができる。

授業計画

授業外の学習

授業計画	授業外の学習
第 1 週 (第 1 講) 企業と社会の関係性導入—「 unsocial 」な企業は存在しているのか、なぜ存在しうるのか	事前 シラバスの精読と授業での質問事項の検討 (0.5h)
	事後 ディスカッションの復習 (1h)
第 2 週 (第 2 講) 企業と社会の歴史的解釈—企業は人をどう扱ってきたのか、サステナビリティに至る経緯を重ねて検討する (第 3 講) 企業と社会の現代的解釈—企業は「トランスフォーメーション」できるのか、SDGs の背景を読み解く	事前 授業資料の確認 (1.5h)
	事後 ディスカッションの復習 (2h)
第 3 週 (第 4 講) 企業の基本と株式会社制度の可能性と課題—責任ある企業は幻想なのか (第 5 講) ガバナンスの考え方と意義—支援と監視のメカニズムになりうるには	事前 授業資料の確認 (1.5h)
	事後 ディスカッションの復習 (2h)
第 4 週 (第 6 講) 企業価値へのまなざし—企業は何によって評価されるべきなのか (第 7 講) 非財務価値の創出と強化—それを高めるコミュニケーションの必要と意義とは	事前 授業資料の確認 (1.5h)
	事後 ディスカッションの復習 (2h)
第 5 週 (第 8 講) 企業文化の理解と変革へのアプローチ—何をどの程度どのように変革するのか (第 9 講) 企業の社会適応能力を高める—理念浸透からダイバーシティマネジメントまで	事前 授業資料の確認 (1.5h)
	事後 ディスカッションの復習 (2h) グループで事例研究と発表準備 (22h)
第 6 週 (第 10 講) 事例研究①—履修者による事例報告とそれに基づく理想の組織に関する討議 (第 11 講) 事例研究②—前講の続き	事前 発表資料の確認 (2h)
	事後 ディスカッションの復習 (2h)

第7週	(第12講) 事例研究③ー前講の続き (第13講) 事例研究④ー前講の続き	事前	発表資料の確認 (2h)		
		事後	ディスカッションの復習 (2h)		
第8週	(第14・15講) 総括討議ー理想の組織論、現代社会における組織の役割と要点	事前	過去講義資料とノートの確認 (3h)		
		事後	ディスカッションの復習 (1.5h) 最終レポート課題の作成 (10h)		
授業の進め方と方法					
<p>上記目的・到達目標を達成するため、本授業は基礎知識の習得を狙いとする講義と、派生する問いに関するディスカッションを中心に進行する。なお、重点的に取り扱う具体的なテーマについては、履修者の関心を踏まえて調整していく。なお、第6週及び第7週は、履修者グループによる発表があるため、発表班は事前の事例調査及び分析作業が発生する予定。</p>					
教科書・参考書					
<p>教科書は指定しない。 参考書：佐藤真久・広石拓司（2020年）『SDGs人材からソーシャル・プロジェクトの担い手へ 持続可能な世界に向けて好循環を生み出す人のあり方・学び方・働き方』，みくに出版。</p>					
評価方法					
<p>① 講義中もしくは Teams でのディスカッションへの貢献 ② 最終課題の提出（文字数は3,000文字程度、提出期限は第8週後2～3週間程度） 以上、①（40%）、②（60%）の総合評価により判定する。</p>					
その他の重要事項					
<p>担当教員のオフィスアワーおよび予約の方法については、初回の授業で説明する。 ハイフレックス形式にて開講するが、教員の都合等により一部オンラインのみで開講する可能性がある。</p>					
2022年度科目との読替え					
なし。					
本科目と対応するディプロマ・ポリシー		DP ①	DP ②	DP ③	DP ④
		○	-	○	-

授業名称	知識社会学			科目コード	PEPB1204L
担当教員	川山 竜二	実施方法	ハイフレックス	単位数	2 単位
配当年次	1 年次	開講学期	後期	曜日	月 A
年間開講数	1 回	授業種別	講義	授業区分	選択
授業の目的					
<p>本授業の目的は、社会のなかで知識がいかにつまえているか／知識がいかに使われているのかを探究する知識社会学について理解し、また知識社会学の知見を実社会で活用することである。知識にかかわる分析手法のいくつかをトピック——科学社会学や言説分析などの周辺領域や応用領域——として扱うことで、知識基盤社会のなかでの知識の役割を再検討したい。</p>					
到達目標					
<p>① 履修者が知識社会学の基本的な理論や概念を理解し、自らの言葉で知識社会学を他者に対して説明することができる。</p> <p>② 履修者が知識社会学の理論を用いて知識の相対性を理解し、知識社会学で用いる概念の一つ以上もちいてそれを自らの言葉で説明することができる。</p> <p>③ 履修者が知識社会学やその周辺領域の理論や概念を理解し、自らの知識／研究対象を社会と関連づけて説明することができる。</p>					
授業計画				授業外の学習	
第 1 週	(第 1 講) Positioning for the Journey 本授業の探究の旅路を深めるとともに、知識社会学の基本的な考え方について概観する。	事前	シラバスを読み、参考文献リストを見て本授業の見取り図を描く (3h)		
		事後	コメントペーパーの提出 (1h)		
第 2 週	(第 2 講／第 3 講) 知識社会学を知識社会学する 知識社会学がどのような社会的背景のもとで成立したのかを概説することで知識と社会の関係性を考究する。	事前	事前配布資料を読む (3h)		
		事後	コメントペーパーの提出 (1h) リサーチワーク (3h)		
第 3 週	(第 4 講／第 5 講) 知識社会学の理論と系譜 知識社会学の理論と系譜について考究する。とくにマルクス、マンハイム、マートンを中心に検討する。	事前	事前配布資料を読む (3h)		
		事後	コメントペーパーの提出 (1h) リサーチワーク (3h)		
第 4 週	(第 6 講／第 7 講) 社会構成主義 社会構成主義について概観し、知識の社会構成主義について考究する。	事前	事前配布資料を読む (3h)		
		事後	コメントペーパーの提出 (1h) 総括討論に向けた資料探索 (1h)		
第 5 週	(第 8 講／第 9 講) 科学社会学 知識の一つの類型として科学をつまえ、科学的知識の社会学／科学者集団の社会学について考究する。	事前	事前配布資料を読む (3h)		
		事後	コメントペーパーの提出 (1h) 総括討論に向けた資料探索 (1h)		
第 6 週	(第 10 講／第 11 講) 知の考古学 人文社会科学の知識をいかに分析するのかを考究する。とくに、知の考古学などの手法について議論をする。	事前	事前配布資料を読む (3h) 総括討論に向けた資料探索 (2h)		
		事後	総括討論に向けた資料作成 (2h) コメントペーパーの提出 (1h)		
第 7 週	(第 12 講／第 13 講) リフレクション 知識の反省理論について考究する。とくに社会システム論の観点から知識を分析する新たな理論枠組みについて議論する。	事前	事前配布資料を読む (3h) 総括討論に向けた資料作成 (3h)		
		事後	総括討論に向けた資料作成 (3h) コメントペーパーの提出 (1h)		
第 8 週	(第 14 講／第 15 講) 総括討論 「知識社会学」にかかわる様々な議論について、履修者の問題関心から報告する。	事前	総括討論に向けた資料作成 (10h)		
		事後	コメントペーパーの提出 (1h) リサーチワーク (3h)		

授業の進め方と方法				
<p>上記目的・到達目標を達成するため、本授業は講義法とグループワーク法ならびにペアワーク法を用いる。本授業については、それぞれの授業週でひとつのトピックを深く考究するため、90分×2コマ連続で実施する。また、授業終了ごとにコメントペーパーを提出することを求め、履修者の関心を維持する。</p> <p>※リサーチワークとは、本授業内容をもとにして履修者の関心に応じて研究活動を実践することである。</p>				
教科書・参考書				
<p>教科書は指定しない。</p> <p>それぞれの授業で、Lecture Notes を配布する。</p> <p>以下、参考図書を列記する。</p> <p>カール・マンハイム著／鈴木二郎訳（1968）『イデオロギーとユートピア』、未来社。</p> <p>ロバート・K・マーソン（1961）『社会理論と社会構造』、みすず書房。</p> <p>ピーター・L.バーガー、トーマス・ルックマン（2003）『現実の社会的構成——知識社会学論考』、新曜社。</p> <p>ケネス・J・ガーゲン（2020）『関係からはじまる——社会構成主義がひらく人間観』、ナカニシヤ出版。</p> <p>金森修（2014）『新装版 サイエンス・ウォーズ』、東京大学出版会。</p> <p>ミシェル・フーコー（2020）『言葉と物〈新装版〉——人文科学の考古学』、新潮社。</p> <p>ニクラス・ルーマン（2009）『社会の科学1・2』、放送大学出版局。</p>				
評価方法				
<p>以下の観点ごとに評価し、100点満点になるように換算する。</p> <p>60点を超えるものに単位を付与する。</p> <p>1. 授業ごとにコメントを書き提出を求める「コメントペーパー」（35%） 本評価は、とくに到達目標の①と②の到達度を測るためのものである。</p> <p>2. 最終授業回でのディスカッションならびに発表（65%） 本評価は、とくに到達目標の③の到達度を測るためのものである。</p>				
その他の重要事項				
<p>コンタクトならびにオフィスアワーについて</p> <p>○メールではなく、Microsoft Teams のチャット機能で連絡をすること（相談内容については問わない）。</p> <p>○授業 Team のタブにオフィスアワー予約ページを作成しているため、そちらから予約を取ること（予約優先）。</p>				
2022年度科目との読替え				
なし。				
本科目と対応するディプロマ・ポリシー	DP ①	DP ②	DP ③	DP ④
	○	○	-	-

授業名称	認知学習論			科目コード	PEPB2206L
担当教員	石崎 友規	実施方法	ハイフレックス	単位数	2 単位
配当年次	1 年次	開講学期	後期	曜日	金 B
年間開講数	1 回	授業種別	講義	授業区分	選択
授業の目的					
<p>本授業の目的は、履修者が人間の認知メカニズムについての理解を基礎として、知識や技能の効果的な習得のためにいかなる手段が求められるか、さらに、そうした手段に適応する形での実践知の体系化はどのように可能か、といった事柄について構想する能力を身につけることにある。本授業では、教育機関におけるフォーマルな学習のみならず、あらゆる知識や技能を身につける過程の総体たる「学習」について、教授-学習論研究の知見に基づき多種多様な場面における認知メカニズムを検討することにより、現代社会における適切な学習のあり方を検討する。</p>					
到達目標					
<p>① 履修者が、人間の認知メカニズムの基礎について説明することができるようになる。 ② 履修者が、認知学習論とその周辺領域について説明することができるようになる。 ③ 履修者が、実際に成立する多様な学習について認知学習論の視点から分析することができるようになる。</p>					
授業計画				授業外の学習	
第 1 週	(第 1 講) オリエンテーション 本授業全体の授業計画を共有するとともに、「学習」の意味や本授業が扱う範囲・立場について理解する。	事前	シラバスの精読 (0.5h)		
		事後	授業内容の再整理 (1h) 紹介された参考書の概観 (2h) ミニットペーパーの提出 (1h)		
第 2 週	(第 2 講) 認知と思考 「認知」と「思考」の関係や「認知科学」の研究が生まれた背景を理解する。関連して、人工知能による学習の概要をつかむ。 (第 3 講) 受講者による「学習」の省察 ディスカッションを通して、自身の「学習」をとらえなおす。	事前	授業資料の確認 (1.5h)		
		事後	ディスカッションの復習 (2h) 授業内容の再整理 (2h) ミニットペーパーの提出 (1h)		
第 3 週	(第 4・5 講) 学びの諸理論と認知学習論の関係 古典的な学習論から現代的な学習論に至るまでの様々な理論を概観し、「学習」を再定義する。	事前	授業資料の確認 (1.5h)		
		事後	授業内容の再整理 (3h) ミニットペーパーの提出 (1h)		
第 4 週	(第 6・7 講) 概念学習のプロセス 「概念」の定義を整理するとともに、典型的な誤概念とその特徴、概念学習のとらえ方について理解する。	事前	授業資料の確認 (1.5h)		
		事後	授業内容の再整理 (3h) ミニットペーパーの提出 (1h)		
第 5 週	(第 8 講) 概念学習プログラムの作成演習 第 4 週までの内容をもとに学習プログラム案を作成してディスカッションを行い、学習論の理解を深める。 (第 9 講) 熟達化のプロセス (1) 熟達者は何を獲得しているか 熟達者は何をどのように見ているのか、それをどのように身に付けていくのかを理解する。	事前	ディスカッションの準備 (2h) 授業資料の確認 (1.5h)		
		事後	ディスカッションの復習 (1h) 授業内容の再整理 (2h) ミニットペーパーの提出 (1h)		
第 6 週	(第 10 講) 熟達化のプロセス (2) 認知的徒弟制 認知的徒弟制の枠組みとその各項目の要点について理解する。	事前	授業資料の確認 (1.5h)		

	(第11講) ことばの学習 母国語学習と外国語学習の特徴とその違いを取り上げ、認知学習の具体像をつかむ。	事後	授業内容の再整理 (3h) ミニットペーパーの提出 (1h)
第7週	(第12・13講) 認知学習論からみたりカレント教育 社会人の認知学習として、メタ認知学習論を手掛かりに、受講者自身の学習を例にその特性や体系化について議論する。	事前	授業資料の確認 (1.5h)
		事後	ディスカッションの復習 (1h) 授業内容の再整理 (2h) ミニットペーパーの提出 (1h)
第8週	(第14・15講) 人は何を学ばばよいのか 自己調整学習論を概観するとともに、本授業全体を振り返り、現代的な学習のあり方について総合的な議論を行う。	事前	授業資料の確認 (1.5h)
		事後	授業内容の再整理 (2h) ミニットペーパーの提出 (1h) 最終レポート課題 (15h)

授業の進め方と方法

本授業は、第2週目以降、90分×2コマ連続の隔週で実施する。

上記目的・到達目標を達成するため、本授業は講義とディスカッションを中心に進行し、テーマに応じてグループワーク等を取り入れる。また、履修者による学習の振り返りを重視し、毎回のミニットペーパーでの感想や質問等を次回の授業冒頭で取り上げ、教員からコメントしていく。

教科書・参考書

教科書は指定しない。

参考書：

- ・今井むつみ・野島久雄・岡田浩之 (2012) 『新・人が学ぶということ：認知学習論の視点から』、北樹出版
- ・日本認知科学会監修 (2016～) 「認知科学のススメ」シリーズ、新曜社
- ・大島純・千代西尾祐司編 (2019) 『学習科学ガイドブック』、北大路書房

その他の参考文献については、各回の授業の中で提示する。

評価方法

- ・ミニットペーパーの内容 (30%)
- ・ディスカッションへの貢献度 (20%)
- ・最終レポート課題 (50%)

その他の重要事項

オフィスアワーおよび予約方法については、初回の授業で説明する。

毎回の授業に対する質問は基本的にはミニットペーパーに記入することとなるが、個別の質問や相談等がある場合には初回の授業で説明する方法にて対応する。

本授業は、ハイフレックスで実施する。

2022年度科目との読替え

なし。

本科目と対応するディプロマ・ポリシー	DP ①	DP ②	DP ③	DP ④
	-	○	○	-

授業名称	教育産業と教育事業			科目コード	PEPB1211L
担当教員	廣政 愁一	実施方法	ハイフレックス	単位数	2 単位
配当年次	1 年次	開講学期	後期	曜日	水 B
年間開講数	1 回	授業種別	講義	授業区分	選択
授業の目的					
本授業の目的は履修者が「教育産業」の現状を理解し、「教育事業」の特殊性についての知見を深め、持続的な教育を実践できることである。					
到達目標					
① 履修者が公教育と私教育の社会的な位置付けや教育産業の歴史的展開と社会の変化により実施されてきた具体的な教育事業について体系的に列挙、分類できる。					
② これまでの歴史を紐解けば教育事業は、採算を度外視した公益性を求められるきらいもあった。しかし、教育も一つの事業であるならば、その事業体で収益性を確保しつつ、公益性に応えなければならない。こうした教育事業特有の事情について、履修者は実務的な視座（ケーススタディ）から持続的な教育事業とはどういうものかを他者に説明できる。					
③ 履修者が取り組む既存の教育事業をアップデートすることや、新たな教育事業をデザインできる。					
授業計画				授業外の学習	
第 1 週	(第 1 講) オリエンテーション 「教育産業・教育事業は教育が主か否か」 授業の進め方と授業計画の確認を行う。あわせて教育産業・教育事業についての概論を講義する。			事前	シラバスを読み、本授業の期待するところを書き出す(3h)
				事後	コメントペーパーの提出(1h)
第 2 週	(第 2・3 講) 教育と教育産業の全体と歴史 教育の歴史を振り返り、公益性から徐々に産業へ広がっていく過程を「教育と社会の関係性」から講義する。あわせて、教育産業の政治的背景も見ていく。			事前	課題配布資料を読む(3h)
				事後	コメントペーパーの提出(1h) リサーチワーク(3h)
第 3 週	(第 4・5 講) 教育ベンチャーの現状 (1) ——マーケットの限界とその規模 日本においてさまざまな教育ベンチャーが生まれてきているが、成功事例を見ながら、なぜ成功したのかを議論する。マーケティングの成功なのか、事業構造の強さなのか、マネジメントなのか。同様な成功の数々を見ながら共通項を探求する。			事前	課題配布資料を読む(3h)
				事後	コメントペーパーの提出(1h) リサーチワーク(3h)
第 4 週	(第 6・7 講) 教育事業の変遷 (2) ——イノベーションから衰退までの過程 前回に続き、ケーススタディを扱って講義する。前回の基本的なイノベーションから衰退までの知識を前提に、さらにハイプサイクルを使ってビジネスとしてどのように対応すべきかを考える。			事前	課題配布資料を読む(3h)
				事後	コメントペーパーの提出 (1h) 総括討論に向けた資料探索(1h)
第 5 週	(第 8・9 講) 教育産業と教育聖域の功罪——教育は保守であるべきか革新であるべきか 学校教育をはじめとして教育には特殊性が存在する。その特殊性はどこから生まれ、どのような功罪があるかを言及する。教育の「聖域」の功罪を理解してはじめて教育全体の動きがつかめる。分かりやすい事例を出しながら、現状の教育産業のできる範囲を明解にしていく。			事前	課題配布資料を読む(3h)
				事後	コメントペーパーの提出(1h) 総括討論に向けた資料探索(1h)

第6週	(第10・11講) ICTの力は教育産業のどこへ向かわせるのか 教育現場では一気にICTの風が吹いてきている。しかし、その風はどこから吹いてきて、どんな意図で吹いているのか。社会の要請なのか、政治の要請なのか、それとも教育的観点からなのか。現状のICT教育を点検していく。	事前	課題配布資料を読む(3h) 総括討論に向けた資料探索(2h)		
		事後	コメントペーパーの提出(1h) 総括討論に向けた資料作成(2h)		
第7週	(第12・13講) 新規教育事業をデザインして革新を起こすことは可能なのか 近年、ITの発達で教育もアイデアさえあれば、事業を興すことが容易になってきた。だからこそ、取るに足らない事業の乱立で教育を混乱させている現状もある。そんな教育の混沌のなかで、王道を走る革新に迫る事業を創造する可能性を考える。	事前	課題配布資料を読む(3h) 総括討論に向けた資料作成(3h)		
		事後	コメントペーパーの提出(1h) 総括討論に向けた資料作成(3h)		
第8週	(第14・15講) 総括討論 これまでの授業をまとめるとともに、履修生に対して現代社会における民間教育の役割とは何かを考え、新規ビジネスを提案する。	事前	総括討論に向けた資料作成(10h)		
		事後	コメントペーパーの提出(1h) リサーチワーク(3h)		
授業の進め方と方法					
上記目的・到達目標を達成するため、本授業は講義法とグループワーク法を用いる。本講義については、それぞれの授業週でひとつのトピックを深く探求するため、90分×2コマ連続で実施する。 また、授業終了ごとにコメントペーパーを提出することを求め、履修者の関心を維持する。 ※リサーチワークとは、本授業内容をもとにして履修者の関心に応じて研究活動を実践することである。					
教科書・参考書					
教科書は指定しない。それぞれの授業で資料を配布する。 以下、参考図書を列記する。 教育政策2020研究会(2016)「公教育の市場化・産業を超えて」八月書館 嶺井正也・中村文夫(2014)「市場化する学校」八月書館 梅野悟(2002)「世界教育史」新評論 川上清市(2021)「教育ビジネスの動向とカラクリがよくわかる本」秀和システム					
評価方法					
以下の観点ごとに評価し、100点満点になるように換算する。 60点を超えるものに単位を付与する。 1. 授業ごとにコメントを書き提出を求める「コメントペーパー」(35%) 本評価は、とくに到達目標の①と②の到達度を測るためのものである。 2. 最終授業回でのディスカッションならびに発表(65%) 本評価は、とくに到達目標の③の到達度を測るためのものである。					
その他の重要事項					
Teamsのチャット機能で連絡をすること。相談内容は問わない。					
2022年度科目との読替え					
なし。					
本科目と対応するディプロマ・ポリシー	DP ①	DP ②	DP ③	DP ④	
	-	-	○	-	

授業名称	教育サービスの現状と未来			科目コード	PEPB1212L
担当教員	荒木 貴之	実施方法	オンライン	単位数	2 単位
配当年次	1 年次	開講学期	春季集中	曜日	-
年間開講数	1 回	授業種別	講義	授業区分	選択

授業の目的

本授業は、行政が意図的計画的に行う学校教育や社会教育などの教育領域と、企業や個人等が行うリスキリングやアップスキリングなどの学習領域という2つの領域を統合して「人材（人的資本）育成」として捉え、国内外の人材育成の現状を把握するとともに、相互の比較対照により、それぞれの特徴や課題の分析を行った上で、履修者自身が実行可能な「人材育成」プログラムを構想し、実践できることを目的とする。そのため、授業には人材育成の第一線で活躍する実務家をゲスト講師として招聘し、担当教員との対談を交えて最先端の知見を紹介するとともに、今後の人材育成のあるべき姿について、履修者とディスカッションする時間を設ける。

到達目標

- ① 履修者が、人材育成の歴史的経緯、有効性、研修プログラムの設計および研修の効果測定の方法について、説明することができる。
- ② 履修者が、自ら携わる実務や組織、産業の領域と深く結びついた人材育成プログラムを構想することができる。
- ③ 履修者が、自ら構想した人材育成プログラムを用いて、実際に自らが所属する組織における研修を実践できるようになる。

授業計画

授業外の学習

授業計画	授業外の学習
第1週 (第1講) わが国の学校教育と社会教育の変遷 キーワード: 総合教育政策、施策の柱、施策、事業	事前 情報の収集 (2h) 学校教育と社会教育に関する文科省、経産省、総務省等の資料を収集し、理解する。
	事後 情報の整理 (2h) 学校教育と社会教育の今後のあり方についてまとめる。
第2週 (第2・3講): 人材育成と人的資本主義 キーワード: リスキリング、アップスキリング、ジョブ型雇用	事前 情報の収集 (4h) 人的資本主義の現状について情報を収集し、理解する。
	事後 情報の整理 (4h) 人的資本主義について、留意点をまとめる。
第3週 (第4・5講): 特色ある学校と教育課程 キーワード: 国際バカロレア、コミュニティスクール	事前 情報の収集 (4h) キーワードに関係がある学校について知り、理解する。
	事後 情報の整理 (4h) 個別最適な学びについて、目指すべき姿をまとめる。
第4週 (第6・7講): 海外事例 (シンガポール、インド) (ゲスト講師) キーワード: SkillsFuture、AI for All、デジタル証明	事前 情報の収集 (4h) シンガポールやインドの教育改革について情報を収集し、理解する。
	事後 情報の整理 (4h) 国家戦略としての人材育成について、目指すべき姿をまとめる。
第5週 (第8・9講): 人材育成プログラム構想発表 (1) キーワード: スキル、コンピテンシー、可視化 ※ 履修者からの構想発表に基づき、授業を行う。	事前 人材育成プログラムの構想 (4h) 人材育成プログラムを構想する。
	事後 人材育成プログラム構想の評価 (4h) プログラム構想の発表を踏まえ、改善点についてまとめ、評価する。
第6週 (第10・11講): 人材育成プログラム構想発表 (2) キーワード: 対話に基づく受講奨励、DX、SMAR モデル ※ 履修者からの構想発表に基づき、授業を行う。	事前 人材育成プログラムの構想 (4h) 人材育成プログラムを構想する。
	事後 人材育成プログラム構想の評価 (4h) プログラム構想の発表を踏まえ、改善点についてまとめ、評価する。

第7週	(第12・13講)：人材育成プログラム構想発表(3) キーワード：PLN (Professional/Personal Learning Network) ※履修者からの構想発表に基づき、授業を行う。	事前	人材育成プログラムの構想(4h) 人材育成プログラムを構想する。		
		事後	人材育成プログラム構想の評価(4h) プログラム構想の発表を踏まえ、改善点についてまとめ、評価する。		
第8週	(第14・15講)：人材育成の未来 キーワード：オープンバッジ、TMS (Talent Management System)	事前	情報の収集(4h) オープンバッジを用いたスキル、コンピテンシーのデジタル証明について資料を収集し、理解する。		
		事後	情報の整理(4h) 人材育成、タレントマネジメントの今後のあり方についてまとめる。		
授業の進め方と方法					
上記目的・到達目標を達成するため、ディスカッション・事例研究・グループプレゼンテーション・個人プレゼンテーションの方法を複合的に用いる。また、第6講・第7講では、海外における教育や人材育成を専門とするゲスト講師を招聘する。ゲスト講師とのディスカッションを通じて、諸外国とわが国における人材育成の現状と課題について理解する。					
教科書・参考書					
教科書は使用しない。 参考書として、「月刊先端教育」(2022年3月号)学校法人先端教育機構 ほか参考となる行政文書や書籍等については、毎回の授業で適宜提示する。					
評価方法					
<ul style="list-style-type: none"> ・授業における貢献(30%) ・ミニットペーパーの内容(20%) ・人材育成プログラムの構想における発表(50%) 					
その他の重要事項					
遅刻や欠席をする場合は、学内のLMS(学習管理システム)などを通じて事前に連絡すること。 担当教員のオフィスアワーおよび予約方法については、初回の授業で説明する。					
2022年度科目との読替え					
(専門基礎科目)現代の教育事情_教育サービスの現状と未来					
本科目と対応するディプロマ・ポリシー	DP①	DP②	DP③	DP④	
	-	-	○	-	

授業名称	生涯学習の理論と発展			科目コード	PEPB1214L
担当教員	眞崎 光司	実施方法	オンライン	単位数	2 単位
配当年次	1 年次	開講学期	前期	曜日	火 A
年間開講数	1 回	授業種別	講義	授業区分	選択

授業の目的

本授業では、生涯学習の定義や社会における位置づけなどの生涯学習の基本的知識を理解すると共に、近年多様な社会的実践の現場において生まれている生涯学習を捉えることで、生涯学習に関する議論の発展可能性を探求するとともに新しい学習支援のあり方についても検討することを目的とする。具体的には、余暇（レジャー）、ボランティア、ビジネス、オンラインコミュニティなど、多様な現場で起きている生涯学習の事例を検討し、生涯学習に関する既存の研究や理論との共通点や相違点を考えることで、新しく生まれつつある生涯学習のありようについて考察する。また併せてそれらの学習を支援するための学習環境や仕組みについても検討する。

到達目標

- ① 履修者がこれまでの生涯学習研究の研究知見をふまえて、生涯学習の定義や社会における位置付けなどの生涯学習の基本的知識について説明することができる。
- ② 履修者が余暇(レジャー)、ボランティア、ビジネス、オンラインコミュニティなどの多様な社会的実践において生まれる学習の特徴を生涯学習に関する既存の議論をふまえながら説明することができる
- ③ 履修者が、多様な社会的実践において生まれる生涯学習を支援するための学習環境や仕組みについて自身の考えを述べることができる。

授業計画

授業外の学習

授業計画	授業外の学習
第 1 週	事前 (第 1 講): 生涯学習の定義や社会的位置付けについて学ぶと共にその概念の出自についても確認する。また、本授業の目的と授業の進め方を理解する。
	事前 授業資料の確認 (1h) ディスカッション準備 (1h)
第 2 週	事後 コメントペーパーの提出 (1h) ディスカッションの復習 (2h)
	事前 授業資料の確認 (2h) ディスカッション準備 (1h)
第 3 週	事後 コメントペーパーの提出 (1h) ディスカッションの復習 (2h)
	事前 授業資料の確認 (2h) ディスカッション準備 (1h)
第 4 週	事後 コメントペーパーの提出 (1h) ディスカッションの復習 (2h)
	事前 文献読解と発表準備 (5h) 授業資料確認 (1h)
第 5 週	事後 コメントペーパーの提出 (1h) ディスカッションの復習 (2h)
	事前 文献読解と発表準備 (5h) 授業資料確認 (1h)
第 6 週	事後 コメントペーパーの提出 (1h) ディスカッションの復習 (2h)
	事前 文献読解と発表準備 (5h) 授業資料確認 (1h)
第 7 週	事後 コメントペーパーの提出 (1h) ディスカッションの復習 (2h)
	事前 文献読解と発表準備 (5h) 授業資料確認 (1h)

第8週	(第14講)：まとめ：講義内容の振り返りと問題提起	事前	授業資料の確認 (2h) ディスカッション準備 (2h)		
	(第15講)：まとめ：振り返りをふまえてのディスカッション	事後	コメントペーパーの提出 (1h) ディスカッションの復習 (2h)		
授業の進め方と方法					
<p>上記目的・到達目標を達成するため、本授業はまず第1週において授業の主題である生涯学習の定義などの基本的知識について概観するとともに、その後の授業の進め方及び評価について理解する。第2週では、生涯学習の支援の中心的な活動である社会教育の意義や現状について学ぶ。第3週では社会教育を支える基本的な機関として公民館、図書館、博物館、美術館を取り上げてその現状と課題について概観する。第4週から第7週は、多様な社会的実践が生涯学習とどのように関係しているのかについて、文献の読解や実践者の講話を元にして検討する。最後の第8週ではそれまでの講義を振り返るとともに、新しい生涯学習のあり方を議論する。なお、必要に応じて社会実践の当事者をゲスト講師に招き、履修者とその実践の可能性や課題を議論する。また、本授業は各回の授業で履修者による文献発表や実践の当事者への質問を基点として進め、ディスカッションを行うので、担当者は責任をもって発表するとともに、それぞれの議論にも積極的に参加してほしい。</p>					
教科書・参考書					
教科書は特に指定しない。参考文献は、馬場祐次朗執筆・編集代表、国立教育政策研究所社会教育実践研究センター [編] (2018) 生涯学習概論, 二訂, ぎょうせい。					
評価方法					
文献発表の内容 (60%)、毎回のコメントペーパー (40%) による総合評価。					
その他の重要事項					
オフィスアワーの予約方法など、詳しくは初回の授業で説明いたします。					
2021年度科目との読替え					
(専門科目)学習社会論					
本科目と対応するディプロマ・ポリシー	DP ①	DP ②	DP ③	DP ④	
	○	○	-	-	

授業名称	生涯学習支援論			科目コード	PEPB1215L
担当教員	眞崎 光司	実施方法	一部ハイフレックス	単位数	2 単位
配当年次	1 年次	開講学期	後期	曜日	火 B
年間開講数	1 回	授業種別	講義	授業区分	選択
授業の目的					
<p>本授業では、生涯学習を支援する社会教育をはじめとした活動に有効なワークショップデザインやコーディネートの方法及び関連する学術的知見を理解するとともに、実際に学習プログラムを設計できるようになることを目的とする。具体的には、地域課題をはじめとした実践的課題の特定、課題解決のためのプロジェクトマネジメント、学習プログラムのデザイン、プログラムの評価など、生涯学習支援の一連の流れを理解する。また生涯学習の領域の中から履修者自身が選択した課題に対してその解決のための学習プログラムと評価方法を作成することで、実践的な知識とスキルを学ぶとともに既存の生涯学習支援の課題についても考察する。</p>					
到達目標					
<p>① 履修者が生涯学習支援の定義や生涯学習の種類など、生涯学習支援に関する基本的知識について説明することができる。</p> <p>② 履修者が生涯学習支援のための有効な学習プログラムの計画を作成することができる。</p> <p>③ 履修者が学習プログラムの内容に合致した評価方法を考案することができる。</p> <p>④ 履修者が生涯学習支援の現状の課題について具体的に述べることができる。</p>					
授業計画				授業外の学習	
第 1 週	(第 1 講)：生涯学習支援の活動を概観し、履修者は生涯学習支援に必要となる知識とスキルを理解すると共に、本授業の目的と授業の進め方を理解する。	事前	授業資料の確認 (1.5h) ディスカッション準備 (1h)		
		事後	コメントペーパーの提出 (0.5h) ディスカッションの復習 (2h)		
第 2 週	(第 2 講)：生涯学習支援の社会的背景 (第 3 講)：生涯学習支援の特徴	事前	授業資料の確認 (2h) ディスカッション準備 (1h)		
		事後	コメントペーパーの提出 (0.5h) ディスカッションの復習 (2h)		
第 3 週	(第 4 講)：生涯学習支援の実際：公的機関・NPO・企業 (第 5 講)：生涯学習支援の実践的課題の特定	事前	生涯学習支援事例の調査 (2h) ディスカッション準備 (1h)		
		事後	コメントペーパーの提出 (0.5h) ディスカッションの復習 (2h)		
第 4 週	(第 6 講)：生涯学習支援を支える理論：成人学習論 (第 7 講)：生涯学習支援を支える方法：参加型学習	事前	授業資料の確認 (2h) ディスカッション準備 (1h)		
		事後	コメントペーパーの提出 (0.5h) ディスカッションの復習 (2h)		
第 5 週	(第 8 講)：生涯学習支援における学習プログラム編成の方法 (第 9 講)：学習プログラム企画及び計画立案演習	事前	授業資料の確認 (2h) ディスカッション準備 (1h)		
		事後	コメントペーパーの提出 (0.5h) 学習プログラム企画案作成 (7h)		
第 6 週	(第 10 講)：参加型学習のためのワークショップデザイン (活動のデザイン・空間のデザイン) (第 11 講)：参加型学習のためのワークショップデザイン (共同体のデザイン・人工物のデザイン)	事前	授業資料の確認 (2h) ディスカッション準備 (1h)		
		事後	コメントペーパーの提出 (0.5h) ワークショップ計画作成 (8.5h)		
第 7 週	(第 12 講)：生涯学習支援の評価 (学習評価) 演習 (第 13 講)：生涯学習支援の評価 (学習支援評価) 演習	事前	授業資料の確認 (2h) ディスカッション準備 (1h)		
		事後	コメントペーパーの提出 (0.5h) 評価計画の作成 (8h)		

第8週	(第14講)：まとめ	事前	授業資料の確認 (1h) ディスカッション準備 (1h)		
	(第15講)：まとめ	事後	コメントペーパーの提出 (0.5h) ディスカッションの復習 (2h)		
授業の進め方と方法					
<p>上記目的・到達目標を達成するため、本授業は第1週において生涯学習支援の基本について概観するとともに、その後の授業の進め方及び評価について理解する。第2週は、第3週では、生涯学習支援を担う機関別に行われている生涯学習支援の現状を理解するとともに、自身が取り組む課題を特定する。第4週では生涯学習支援において考慮される前提知識や理論について学ぶ。第5週から第7週は、具体的に生涯学習支援のプログラムを作成するときのプロセスに沿って、学習プログラムの企画案、ワークショップデザイン、プログラムの評価についてワークに取り組みながら実践的に学んでいく。最後の第8週ではそれまでの講義を振り返るとともに、既存の生涯学習支援の課題を議論する。なお、必要に応じて社会実践の当事者をゲスト講師に招き、履修者とその実践の可能性や課題を議論する。また、本授業は各回の授業で履修者による課題への取り組み内容の発表や、実践の当事者への質問を基点として進め、ディスカッションを行う演習形式の授業になるので、担当者は責任をもって発表するとともに、それぞれの議論にも積極的に参加してほしい。授業実施方法は基本的にオンラインだが、ワークショップデザインを取り扱う際に一部ハイフレックスで実施する可能性がある。</p>					
教科書・参考書					
<p>教科書は特に指定しない。参考文献は、国立教育政策研究所社会教育実践研究センター（清國祐二編集代表）（2020）『生涯学習支援論』，ぎょうせい、山内祐平・森玲奈・安斎勇樹（2021）ワークショップデザイン論第2版，慶應義塾大学出版会。</p>					
評価方法					
ワーク課題（学習プログラム企画案・ワークショップ計画案・作成された評価計画）（60%）、毎回のコメントペーパー（40%）による総合評価					
その他の重要事項					
<p>必須ではないが、事前に専門基礎科目「生涯学習の理論と発展」を受講することを推奨する。オフィスアワーの予約方法など、詳しくは初回の授業で説明する。</p>					
2022年度科目との読替え					
なし。					
本科目と対応するディプロマ・ポリシー		DP ①	DP ②	DP ③	DP ④
		○	○	-	-

授業名称	心理と学習のフロンティア			科目コード	PEPB0216L
担当教員	眞崎 光司	実施方法	一部ハイフレックス	単位数	2 単位
配当年次	2 年次	開講学期	後期	曜日	火 A
年間開講数	1 回	授業種別	講義	授業区分	選択

授業の目的

本授業の目的は、心理学や学習科学をはじめとした多様な研究領域で検討されている社会的実践における学習に関する近年の議論を理解するとともに、それらの議論の学術的な発展可能性および実践的な応用可能性について考えることである。本授業では、学習活動を創造性、コミュニティ、遊びという3つの視点から捉える。この3つの視点は、学校教育や企業の人材育成、リカレント教育など様々な場面における学習活動を捉える視点として近年参照されるようになってきていると共に、新しい教育実践を開発する際の視点としても注目されている。本授業ではこの3つの視点を理解することによって人間の学習活動を捉え直す視点を学ぶとともに、新しい教育実践開発のための手がかりを得ることを目指す。

到達目標

- ① 履修者が近年の心理学や学習科学などの研究知見をふまえた上で、学習活動を捉え直すにあたっての創造性、コミュニティ、遊びという3つの視点の重要性について説明することができる。
- ② 履修者が最新の教育実践や学習活動の特徴を、創造性、コミュニティ、遊びの視点をを用いて説明することができる
- ③ 履修者が、創造性、コミュニティ、遊びという3つの視点をを用いて、自らの実務や研究の領域における学術的な発展可能性や実践的な応用可能性について述べるができる。

授業計画

授業外の学習

授業計画	授業外の学習
第1週 (第1講)：社会的実践における学習に関する近年の研究動向を創造性、コミュニティ、遊びの視点から概観するとともに、本授業の目的と授業の進め方を理解する。	事前 授業資料の確認 (1h) ディスカッション準備 (1h)
	事後 コメントペーパーの提出 (1h) ディスカッションの復習 (0.5h)
第2週 (第2講)：創造性と学習に関する社会的実践1：事例紹介 (第3講)：創造性と学習に関する社会的実践2：解説と議論	事前 文献の読解 (3h) ディスカッション準備 (1h)
	事後 コメントペーパーの提出 (1h) ディスカッションの復習 (1.5h)
第3週 (第4講)：創造性と学習に関する研究動向1：文献発表 (第5講)：創造性と学習に関する研究動向2：解説と議論	事前 文献の読解と発表準備 (7h) ディスカッション準備 (1h)
	事後 コメントペーパーの提出 (1h) ディスカッションの復習 (1.5h)
第4週 (第6講)：コミュニティと学習に関する社会的実践1：事例紹介 (第7講)：コミュニティと学習に関する社会的実践2：解説と議論	事前 文献読解 (3h) ディスカッション準備 (1h)
	事後 コメントペーパーの提出 (1h) ディスカッションの復習 (1.5h)
第5週 (第8講)：コミュニティと学習に関する研究動向1：文献発表 (第9講)：コミュニティと学習に関する研究動向2：解説と議論	事前 文献の読解と発表準備 (7h) ディスカッション準備 (1h)
	事後 コメントペーパーの提出 (1h) ディスカッションの復習 (1.5h)
第6週 (第10講)：遊びと学習に関する社会的実践1：事例紹介 (第11講)：遊びと学習に関する社会的実践2：解説と議論	事前 文献の読解 (3h) ディスカッション準備 (1h)
	事後 コメントペーパーの提出 (1h) ディスカッションの復習 (1.5h)

第7週	(第12講)：遊びと学習に関する研究動向1：文献発表	事前	文献の読解と発表準備 (7h) ディスカッション準備 (1h)
	(第13講)：遊びと学習に関する研究動向2：解説と議論	事後	コメントペーパーの提出 (1h) ディスカッションの復習 (1.5h)
第8週	(第14講)：まとめ：講義内容の振り返り	事前	授業資料の確認 (1h) ディスカッション準備 (2h)
	(第15講)：まとめ：振り返りをふまえてのディスカッション	事後	コメントペーパーの提出 (1h) ディスカッションの復習 (1.5h)

授業の進め方と方法

上記目的・到達目標を達成するため、本授業はまず第1週において授業の主題である社会的実践における学習の研究を創造性、コミュニティ、遊びの三つの視点から概観するとともにその後の授業の進め方及び評価について理解する。その後、第2週以降は創造性、コミュニティ、遊びという3つの視点の可能性を、それぞれ学術的研究動向の検討と、具体的な社会的実践の検討という2つの方法で探究する。学術的研究動向の検討では、近年の研究動向を知ることができる文献を購読する。進め方としては参加者による文献内容の発表と論点提示を元にしてディスカッションを行う。社会的実践の検討に関しては、具体的な社会的実践を紹介している報告書や記事を事前に読んだ上で、授業内ではその実践を検討する。また必要に応じて社会実践の当事者をゲスト講師に招き、履修者とその実践の可能性や課題を議論する。最後の回では3つの視点の相違点や関連性について議論し、自身の実務との関連性について考察する。なお、本授業は各回の授業で履修者による文献発表を基点として進め、ディスカッションを行うので、担当者は責任をもって発表するとともに、それぞれの議論にも積極的に参加してほしい。授業実施方法は基本的にオンラインだが、ゲスト講師を呼ぶ回があり、その際にハイフレックスで行う場合がある。

教科書・参考書

教科書は特に指定しない。参考文献は、阿部慶賀(2019) 創造性はどこからくるか：潜在処理、外的資源、身体性から考える(越境する認知科学 / 日本認知科学会編, 2) 共立出版。その他必要に応じて授業内で紹介する。

評価方法

文献発表の内容(60%)、毎回のコメントペーパー(40%)による総合評価。

その他の重要事項

オフィスアワーの予約方法など、詳しくは初回の授業で説明いたします。

2021年度科目との読替え

なし。

本科目と対応するディプロマ・ポリシー	DP ①	DP ②	DP ③	DP ④
	○	○	-	-

授業名称	実践教育プロジェクト			科目コード	PEPF1501S
担当教員	眞崎 光司	実施方法	オンライン	単位数	2 単位
配当年次	1 年次	開講学期	前期	曜日	土 B (1・2 限)
年間開講数	1 回	授業種別	演習	授業区分	選択

授業の目的

本授業では、実務的内容を主題とした教育プログラム作成に関する基礎的なスキルの習得を目的とする。この目的の達成のために、本授業では (1) 教育プログラム作成に関する一般的理論を理解するとともに、実務的内容を主題とした教育プログラムの作成に関する方法論について理解する。またそれらの理解を元に (2) 実際に履修者が実務的内容を主題とした教育プログラムを開発することができるようになることを目的とする。

到達目標

- ① 教育プログラム作成に関する一般的理論や概念を説明することができる。
- ② 実務的内容を主題とした教育プログラムの作成に関する方法論を説明することができる。
- ③ 教育プログラム作成に関する理論や概念を応用し、履修者自身の教育目的に対して適切な教育プログラムを作成することができる。
- ④ 他者及び自己の作成した教育プログラムを建設的に批判・改善できるようになる。

授業計画

授業外の学習

授業計画	授業外の学習
第 1 週 (第 1 講) イントロダクション:	事前 シラバスの内容確認 (0.5h)
	事後 コメントペーパーの提出 (1h) 授業内容の理解の確認 (1.5h)
第 2 週 (第 2 講) 教育プログラムのコースデザインの説明 (第 3 講) 教育プログラムのコースデザインの演習	事前 参考文献読解・授業資料確認 (3h)
	事後 コメントペーパーの提出 (1h) 教育プログラム (コース) 作成 (5h)
第 3 週 (第 4 講) 教授法の説明 (第 5 講) 教授法の演習	事前 参考文献読解・授業資料確認 (3h)
	事後 コメントペーパー提出 (1h) 授業内容の理解の確認 (2h)
第 4 週 (第 6 講) ワークショップデザインの説明 (第 7 講) ワークショップデザインの演習	事前 参考文献読解・授業資料確認 (3h)
	事後 コメントペーパー提出 (1h) 授業内容の理解の確認 (2h)
第 5 週 (第 8 講) 教材・学習環境デザインの説明 (第 9 講) 教材・学習環境デザインの演習	事前 参考文献読解・授業資料確認 (3h)
	事後 コメントペーパー提出 (1h) 授業内容の理解の確認 (2h)
第 6 週 (第 10 講) 学習評価の説明 (第 11 講) 学習評価の演習	事前 参考文献読解・授業資料確認 (3h)
	事後 コメントペーパー提出 (1h) 授業内容の理解の確認 (2h)
第 7 週 (第 12 講) 実務的教育プログラム設計の方法と課題 (第 13 講) クラスデザイン演習	事前 参考文献読解・授業資料確認 (3h)
	事後 コメントペーパー提出 (1h) 授業内容の理解の確認 (2h) 教育プログラム (クラス) 作成 (11h)
第 8 週 (第 14 講) コースデザイン・クラスデザイン発表と議論 (第 15 講) まとめと振り返り	事前 コース・クラスデザイン作成・発表準備 (3h)
	事後 コメントペーパー提出 (1h) 発表内容・ディスカッションの復習 (3h)

授業の進め方と方法				
上記目的・到達目標を達成するため、本授業は、教育プログラムを適切にデザインするための一般的な理論や方法論について説明するとともに、実践に応用するための演習を行う。はじめに教育プログラム全体（コース）のデザインについて学んだ後に、プログラム内の各授業や研修の詳細なクラスデザインの方法を学ぶ。最終的には履修者はコースおよびクラスのプランを作成し発表するとともに、その内容について議論し吟味する。				
教科書・参考書				
教科書は使用しない。代表的な参考書として以下のものを紹介するが、その他いくつかの参考書を用いる予定であり授業中に適宜提示する。 実務家教員 COE プロジェクト編（2021）『実務家教員の理論と実践』，社会情報大学院大学出版部。				
評価方法				
コメントペーパー：30% コースデザインのプラン：35% クラスデザインのプラン：35%				
その他の重要事項				
初回授業時にオフィスアワーについて説明する。				
2022 年度科目との読替え				
実践教育プロジェクト演習				
本科目と対応するディプロマ・ポリシー	DP ①	DP ②	DP ③	DP ④
	○	-	○	○

授業名称	インストラクショナル・デザイン			科目コード	PEPF1502S
担当教員	伴野 崇生	実施方法	ハイフレックス	単位数	2 単位
配当年次	1 年次	開講学期	後期	曜日	月 B
年間開講数	1 回	授業種別	演習	授業区分	選択

授業の目的

本授業の目的は、履修者が「インストラクショナル・デザイン (ID)」に関連する理論やモデルについて理解するとともに、それを用いた効果的な学習や研修のデザインを実現するための方法を身につけることにある。上記目的を達成するため、本授業では、ID に基づく効果的な知識の普及・活用を実現するための実践的な方法について検討する。授業の実施にあたっては、ID に関連する理論についての解説とディスカッションを中心に進行し、適宜ワークショップによる実践的な授業を取り入れることで、知識と方法の定着を促す。さらに、あらゆる知識修得の文脈で注目される ID の理論と方法について、歴史的変遷を踏まえつつ、知識基盤社会の成熟に伴う今後の展開についても検討する。

到達目標

- ① ID の主要な理論やモデルについて理解し、他者に説明することができる。
- ② ID を用いた効果的な学習や研修のデザインをすることができる。
- ③ 知識基盤社会の成熟に伴って、ID の理論や方法が今後どのように発展していくと考えられるか、自分の考えを述べることができる。

授業計画

授業計画		授業外の学習	
第 1 週	【講義・ガイダンス・グループワーク】 (第 1 講) 「いい教育」「優れた教育実践」像を見つめ直す・インストラクショナル・デザイン(ID)とは	事前	シラバスの内容確認 (0.5h)
		事後	コメントペーパーの提出 (1h) 授業内容の理解の確認 (1.5h)
第 2 週	【講義・グループワーク・討論】 (第 2 講) メーガの 3 つの質問、9 教授事象 (第 3 講) ID 第一原理、TOTE モデル、アンドラゴジー	事前	参考文献読解・授業資料確認 (3h)
		事後	コメントペーパーの提出 (1h)
第 3 週	【講義・グループワーク・討論】 (第 4 講) 学習の時間モデル、学習成果 5 分類、4 段階評価モデル、ARCS モデル、ADDIE モデル (第 5 講) 学習理論の変遷と協同・協働的な学びのデザイン	事前	参考文献読解・授業資料確認 (3h)
		事後	コメントペーパー提出 (1h) 授業内容の理解の確認 (2h)
第 4 週	【個人発表・講義・グループワーク・討論】 (第 6 講) 発表：ID を通して振り返る授業実践・授業案 (第 7 講) ID と学習環境のデザイン：ICT の利用を中心に	事前	参考文献読解・授業資料確認 (3h) 個人発表準備・レポート① (5h)
		事後	コメントペーパー提出 (1h) 授業内容の理解の確認 (2h)
第 5 週	【講義・グループワーク・討論】 (第 8 講) ID と学習評価のデザイン：多様な学習観・学力観、目標と方法と評価の連動 (第 9 講) 授業・研修デザイン演習：実践(案)の改善、(再)設計	事前	参考文献読解・授業資料確認 (3h)
		事後	コメントペーパー提出 (1h) レポート②作成 (1h) 授業内容の理解の確認 (2h)
第 6 週	【講義・グループワーク・討論・マイクロティーチング】 (第 10 講) 教師の役割と教師に求められる資質・能力 (第 11 講) マイクロティーチング実践演習	事前	マイクロティーチングプラン作成 (9h) 参考文献読解・授業資料確認 (3h)
		事後	コメントペーパー提出 (1h) レポート②作成つづき (1h) 授業内容の理解の確認 (2h)
第 7 週	【講義・グループワーク・討論・リフレクション】 (第 12 講) マイクロティーチング実践の録画を通したリフレクション	事前	参考文献読解・授業資料確認 (3h)

	(第13講) ID とシラバス・コース・カリキュラム・プログラムのデザイン	事後	コメントペーパー提出 (1h) 授業内容の理解の確認 (2h)	
第8週	【講義・グループワーク・討論・リフレクション】 (第14講) まとめ① 「私はこの授業を通じて何を学んだのか」 (第15講) まとめ② 「私は教育者として何をを目指すか。ID をどう活用するのか」	事前	コース・クラスデザイン作成・発表準備 (3h)	
		事後	レポート③提出 (4h)	
授業の進め方と方法				
本授業は、第2週目以降、2講(90分×2)連続で実施する。上記目的・到達目標を達成するため、授業は討論や発表などを中心に行うが、基礎的な知識に関して講義を行い、教員からの話題提供に基づいてクラス内でディスカッションを行う。個人発表やマイクロティーチングにかかる時間や実施形態はクラスの履修者数を見て調整を行う。クラスでは毎回、様々なアクティブラーニングの手法を用いて授業を進める。積極的な参加を期待する。				
教科書・参考書				
教科書は指定しない。初回および毎回の授業で参考書・参考資料を提示する。受講者自身がより自律的な学習者となっていくために、以下の書籍は手元において参照することを推奨する。				
<ul style="list-style-type: none"> 鈴木克明・美馬のゆり編著 (2018) 『学習設計マニュアル：「おとな」になるためのインストラクショナルデザイン』, 北大路書房. 				
評価方法				
<ul style="list-style-type: none"> 授業貢献度 (ディスカッションへの貢献度、グループワーク等での積極性) (20%) コメントペーパー (ミニットペーパー) の内容 (20%) レポート① (授業実践報告または授業計画案と ID とクラス内での議論に基づく改善計画案) (20%) レポート② (マイクロティーチングの実施計画作成・実施・振り返り) (20%) レポート③ (「この科目を通じて何を学んだのか」または「私が本科目を担当するなら —— ID に基づく提案」) (20%) 				
その他の重要事項				
受講にあたり、何か特別な配慮を必要とする場合にはメール等で担当者に連絡し、相談をすること。				
2022年度科目との読替え				
(専門基礎科目) インストラクショナル・デザイン				
本科目と対応するディプロマ・ポリシー	DP ①	DP ②	DP ③	DP ④
	-	○	○	○

授業名称	成人教育・学習論			科目コード	PEPF2503S
担当教員	伴野 崇生	実施方法	ハイフレックス	単位数	2 単位
配当年次	2 年次	開講学期	前期	曜日	木 B
年間開講数	1 回	授業種別	演習	授業区分	選択

授業の目的

本授業の目的は、成人教育・学習論について理解し、自らの教育実践に活かすことができるようになることである。「教育」といった際、その対象としては幼児・児童・生徒が想起されがちであるが、成人もまた学習の主体であり、生涯を通じて学び続けることができる存在である。成人教育・学習については様々な研究者がその特性や学習支援の方法等について研究を行ってきた。本授業では、そのような成人の教育と学習に関する様々な視点を学び、さらにクラス内での議論を通じて授業内容を「自分ごと」にしていく中で（受講者自身も成人学習者である）、知識の定着および理解の促進を図りつつ、学習者・教育者としての成長を目指す。

成人教育・学習論は社会構造が変化し続け、さらには平均寿命も伸び続けている中で、教育者にとって、成人の教育と学習は当然理解していなければならない領域である。地域社会も変化し、日本国内においても多言語多文化化がより一層進む中で、成人がどのように変容し、適応し、言語文化的「他者」との間でいかによりよい関係を構築していけるかも重要な課題となってきた。本授業では成人学習者が地域社会で直面する多様な課題についても取り上げる。

到達目標

- ① 成人教育・学習の特性について理解し、説明することができる。
- ② 生涯学習としての成人教育について考え、あらゆる年齢層の成人学習者に対応することができる。
- ③ 地域社会の変化に対応した成人のあり方について考え、その教育についても考えることができる。
- ④ 成人学習者である自身の学習を理論によって位置付け、自らの学びを促進することができる。

授業計画

授業計画		授業外の学習	
第 1 週	(第 1 講) おとなを対象とした教育と学習	事前	シラバスの内容確認 (0.5h)
		事後	コメントペーパーの提出 (1h) 授業内容の理解の確認 (1.5h)
第 2 週	(第 2 講) 成人学習者とアンドラゴジー (第 3 講) 成人学習者とアンドラゴジー (演習)	事前	参考文献読解・授業資料確認 (3h)
		事後	コメントペーパーの提出 (1h) 教育プログラム (コース) 作成 (5h)
第 3 週	(第 4 講) リカレント教育と大学機関 (第 5 講) リカレント教育と大学機関 (演習)	事前	参考文献読解・授業資料確認 (3h)
		事後	コメントペーパー提出 (1h) 授業内容の理解の確認 (2h)
第 4 週	(第 6 講) 発達・エイジングと教育・学習 (第 7 講) 発達・エイジングと教育・学習 (演習)	事前	参考文献読解・授業資料確認 (3h)
		事後	コメントペーパー提出 (1h) 授業内容の理解の確認 (2h)
第 5 週	(第 8 講) 自律学習・自己決定学習・自己調整学習 (第 9 講) 自律学習・自己決定学習・自己調整学習 (演習)	事前	参考文献読解・授業資料確認 (3h)
		事後	コメントペーパー提出 (1h) 授業内容の理解の確認 (2h)
第 6 週	(第 10 講) おとなの教育・学習とマジョリティ特権 (第 11 講) おとなの教育・学習とマジョリティ特権 (演習)	事前	参考文献読解・授業資料確認 (3h)
		事後	コメントペーパー提出 (1h) 授業内容の理解の確認 (2h)
第 7 週	(第 12 講) おとなの教育・学習と多文化間コミュニケーション (第 13 講) おとなの教育・学習と多文化間コミュニケーション (演習)	事前	参考文献読解・授業資料確認 (3h)
		事後	コメントペーパー提出 (1h) 授業内容の理解の確認 (2h) 教育プログラム (クラス) 作成 (9h)

第 8 週	(第 14 講) 個人発表	事前	コース・クラスデザイン作成・発表準備 (3h)		
	(第 15 講) 今学期のまとめと今後に向けて	事後	レポート提出 (3h) 発表内容・ディスカッションの復習 (3h)		
授業の進め方と方法					
上記目的・到達目標を達成するため、本授業は、第 2 週目以降、2 講 (90 分×2) 連続で実施する。毎回の教員からの話題提供 (授業内容) に基づいてクラス内でディスカッションを行う。第 2 回以降は毎回授業開始時に小テストを実施する。小テストの内容は、その前の回の授業内容から基本的な知識を出題するものとする。					
教科書・参考書					
教科書は指定しない。初回および毎回の授業で参考書・参考資料を提示する。					
評価方法					
<ul style="list-style-type: none"> コメントペーパー (ミニットペーパー) の内容 (30%) 授業貢献度 (ディスカッションへの貢献度、グループワーク等での積極性、演習など) (20%) 教育プログラム (コース・クラス) 作成 (30%) レポート課題 (20% : 教員評価 10%、自己評価 10%) 					
その他の重要事項					
受講にあたり、何か特別な配慮を必要とする場合にはメール等で担当者に連絡し、相談をすること。					
2022 年度科目との読替え					
(専門基礎科目) アンドラゴジー					
本科目と対応するディプロマ・ポリシー	DP ①	DP ②	DP ③	DP ④	
	-	○	○	○	

授業名称	実務家教員のキャリア開発			科目コード	PEPF2504S
担当教員	伴野 崇生	実施方法	オンライン	単位数	2 単位
配当年次	2 年次	開講学期	後期	曜日	火 B
年間開講数	1 回	授業種別	演習	授業区分	選択

授業の目的

本授業では、実務経験の言語化に基づいて体系的に形成された教育プログラムによる効率的・効果的な人材育成を実現するための実践的なスキルの習得を目的とする。この目的の達成のために、本授業では、(1)その教育プログラムに基づいた授業・研修実践を行い、(2)授業・研修実践を通じて発見した可能性や課題は何かを省察し、相互に議論する実習形式の授業を行う。模擬授業・研修実践を通じて、教育実践スキルの向上を図るとともに、効率的・効果的な教育実践の在り方を検討する能力を身につける。報告のディスカッションや授業・研修実践の聴講とフィードバックを履修者が相互に行うことで、互いの実践の優れている点や改善点、課題を主体的、批判的に発見し、伝達する能力を伸長させることも目指す。

到達目標

- ① 作成した教育プログラム、及び理論や枠組みに基づいた授業・研修実践を行うことができる。
- ② 履修者相互の議論を踏まえつつ、自らの授業・研修実践をリフレクションすることで、授業・研修を自ら改善することができる。
- ③ 授業・研修実践の経験を踏まえて、より効果的・効率的・魅力的な教育実践のあり方について考え、それについて説明することができる。

授業計画

授業計画		授業外の学習	
第1週	(第1講) イントロダクション —実務家教員のキャリア開発という視点から考える—	事前	シラバスの精読 (0.5h) 授業での質問事項の検討 (0.5h)
		事後	ミニットペーパーの提出 (2h) 授業内容の整理 (1h)
第2週	(第2・3講) 教育実践方法の多様性 —どのような教育方法があるのか、その効果は何か—	事前	ディスカッションの準備 (2h)
		事後	ミニットペーパーの提出 (2h) 授業内容の整理 (2h)
第3週	(第4・5講) 授業・研修実践とディスカッション 1	事前	授業・研修実践の準備 (2h)
		事後	ミニットペーパーの提出 (2h) 授業内容の整理 (2h)
第4週	(第6・7講) 授業・研修実践とディスカッション 2	事前	授業・研修実践の準備 (2h)
		事後	ミニットペーパーの提出 (2h) 授業内容の整理 (2h)
第5週	(第8・9講) 授業・研修実践とディスカッション 3	事前	授業・研修実践の準備 (2h)
		事後	ミニットペーパーの提出 (2h) 授業内容の整理 (2h)
第6週	(第10・11講) 授業・研修実践とディスカッション 4	事前	授業・研修実践の準備 (2h)
		事後	ミニットペーパーの提出 (2h) 授業内容の整理 (2h)
第7週	(第12・13講) 授業・研修実践とディスカッション 5	事前	授業・研修実践の準備 (2h)
		事後	ミニットペーパーの提出 (2h) 授業内容の整理 (2h)
第8週	(第14・15講) ふりかえりと今後の教育実践に向けた論点整理	事前	授業・研修実践の準備 (2h)
		事後	ミニットペーパーの提出 (2h) 授業内容の整理 (2h)
		事後	期末レポートの執筆 (14h)

授業の進め方と方法				
<p>上記目的・到達目標を達成するため、まず、第 2 週は担当教員が講義を行い、履修者同士でディスカッションを行い、第 3 週以降の授業・研修実践に向けた準備を行う。第 3 週以降は履修者自身が作成した教育プログラムに基づいて授業資料を作成し、授業・研修実践を行う。また、各週担当の履修者が行った授業・研修実践に基づき履修者同士のディスカッションを行う。担当教員からもコメント、フィードバック、ディスカッションを行う。第 8 週では、これまでの授業を振り返り、授業・研修実践で受けたコメントを踏まえ、教育プログラムのブラッシュアップに向けて、どのような工夫が必要か、どのような課題があったかについてディスカッションを行う。</p>				
教科書・参考書				
<p>教科書は指定しない。参考書として以下の 2 点を挙げる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 栗田佳代子・日本教育研究イノベーションセンター編著(2017)『インタラクティブ・ティーチング—アクティブ・ラーニングを促す授業づくり』河合出版 ● 中村長史・栗田佳代子編著(2021)『インタラクティブ・ティーチング 実践編 1 学びを促す授業設計 -クラスデザインの作法と事例集』河合出版 				
評価方法				
<ul style="list-style-type: none"> ● 授業中のディスカッションへの貢献度 (20%) ● 教育プログラム案の内容 (10%) ● 授業・研修実践の完成度 (30%) ● ミニットペーパー・期末レポート (40%) 				
その他の重要事項				
<ul style="list-style-type: none"> ● この授業では第 3 週から模擬授業・模擬研修実践を行うことになる。カリキュラムやシラバス、授業案については学期開始前にある程度できていることが求められるため、事前に「実践教育プロジェクト」「成人教育・学習論」「インストラクショナル・デザイン」を履修しておくことを強く推奨する。 ● 模擬授業・模擬研修の時間や実施頻度は履修者数によって調整を行う。学期中に必ず 1 度は模擬授業・模擬研修を行うことが求められる。履修者数に応じて、授業スケジュールは大きく変更する可能性がある。 ● やむを得ない事情で授業を欠席する場合、事前に担当教員まで連絡すること。 ● 授業でわからないこと、不明なこと、担当教員に知っておいて欲しいこと等あれば、遠慮なく担当教員まで連絡すること。 				
2022 年度科目との読替え				
(展開科目)実践教育プロジェクト演習				
本科目と対応するディプロマ・ポリシー	DP ①	DP ②	DP ③	DP ④
	○	-	○	○

授業名称	省察的実践			科目コード	PEPC1301S
担当教員	伴野 崇生	実施方法	オンライン	単位数	2 単位
配当年次	1 年次	開講学期	後期	曜日	木 A
年間開講数	1 回	授業種別	演習	授業区分	選択

授業の目的

「省察的実践」は教育のみならず、幅広い分野で注目され、実践・研究が行われてきた。「省察」はあらゆる実践者にとって重要なものであるが、「省察的実践」の提唱者であるドナルド・A・ショーンの主著『省察的実践とは何か』が難解なこともあってか、「省察」を単なる振り返りや反省としか理解していない人も少なくない。そこで、本授業では『省察的実践とは何か』を輪読と討論を通じて丁寧に読み進め、理解することを通じて「行為の中の省察」を行い続け、自己成長を常に促すことができるようになることを目的とする。

到達目標

- ① 「技術的合理性」の限界および「行為の中の省察」の意義について理解し、他者に説明できる。
- ② 対話、振り返り、個人発表、期末レポート等を通じて省察を深め、その結果や過程を他者に説明できる。
- ③ 「行為の中の省察」を続けることで自らの成長を促し続ける態度を身につけ、

授業計画

授業計画		授業外の学習	
第 1 週	【ガイダンス・講義】 (第 1 講)：省察的実践(家)とは、なぜ実践を省察するのか 1 章：専門的知識に対する信頼の危機	事前	授業資料・シラバスの確認 (1.5h) ディスカッション準備 (1h)
		事後	コメントペーパーの提出 (0.5h) 講義の復習 (2h)
第 2 週	【輪読・討論】 (第 2 講) 2 章：技術的合理性から行為の中の省察へ (第 3 講) 3 章：状況との省察的な対話としての建築デザイン	事前	文献の読解 (2h) ディスカッション準備 (1h)
		事後	コメントペーパーの提出 (0.5h) ディスカッションの復習 (1.5h)
第 3 週	【輪読・討論】 (第 4 講) 4 章：精神療法—固有の宇宙をもつ患者 (第 5 講) 5 章：行為の中の省察の構造	事前	文献の読解 (2h) ディスカッション準備 (1h)
		事後	コメントペーパーの提出 (0.5h) ディスカッションの復習 (1.5h)
第 4 週	【輪読・討論】 (第 6 講) 6 章：科学に基礎を置く専門的職業の省察的実践 (第 7 講) 7 章：都市計画—行為の中の省察を制約するもの	事前	文献読解 (2h) ディスカッション準備 (1h)
		事後	コメントペーパーの提出 (0.5h) ディスカッションの復習 (1.5h)
第 5 週	【輪読・討論】 (第 8 講) 8 章：マネジメントの〈わざ〉 (第 9 講) 9 章：行為の中の省察の類型と制約	事前	文献の読解 (2h) ディスカッション準備 (1h)
		事後	コメントペーパーの提出 (0.5h) ディスカッションの復習 (2h)
第 6 週	【輪読・討論】 (第 10 講) 10 章：専門的職業の意味と社会における位置づけ (第 11 講) 解説・あとがき	事前	文献の読解 (2h) ディスカッション準備 (1h)
		事後	コメントペーパーの提出 (0.5h) ディスカッションの復習 (2h)
第 7 週	【省察に関する先行研究・参考文献に関する講義・討論】 (第 12 講) 『わかりやすい省察的実践 実践・学び・研究をつなぐために』 (第 13 講) 『ビデオによるリフレクション入門：実践の多義創発性を拓く』	事前	文献の読解 (2h) ディスカッション準備 (1h)
		事後	コメントペーパーの提出 (0.5h) ディスカッションの復習 (2h)
第 8 週	【省察に関する個人発表・討論】 (第 14 講) 個人発表・討論 (第 15 講) 個人発表・討論	事前	発表準備 (10h) ディスカッション準備 (1h)
		事後	コメントペーパーの提出 (0.5h) ディスカッションの復習 (2h) 学期末レポート課題 (10h)

授業の進め方と方法				
<p>本授業では、『省察的实践とは何か』の輪読を行いながら、ショーンの主張を丁寧に読み解き理解することを目指す。また、それぞれの回の後に「省察についてレポートにまとめながらさらに省察を進める」ことを通じて、自らの実践における「暗黙知」や「わざ」を言語化し、それらを他者とも共有可能な「知」としていく。さらに、その内容に基づいてクラス内でディスカッションを行い、省察に関してミニットペーパーや期末発表、期末レポートとして言語化することで言語化・意識化する。</p>				
教科書・参考書				
<p>【教科書】</p> <ul style="list-style-type: none"> ドナルド・A. ショーン（著）、柳沢昌一・三輪建二（訳）（2007）『省察的实践とは何か——プロフェッショナルの行為と思考』、鳳書房。 <p>【参考書】</p> <ul style="list-style-type: none"> 佐伯胖・刑部育子・苅宿俊文（2018）『ビデオによるリフレクション入門：実践の多義創発性を拓く』、東京大学出版会。 三輪建二（2023）『わかりやすい省察的实践 実践・学び・研究をつなぐために』、医学書院。 				
評価方法				
<ul style="list-style-type: none"> 授業貢献度（20%）：ディスカッションへの貢献度、グループワーク等での積極性 コメントペーパーの内容（30%）：毎回の授業について自身の意見とそう考える理由・根拠を書くこと 輪読発表（25%） 学期末発表・レポート（25%） 				
その他の重要事項				
発表時間や発表形態はクラスの履修者数を見て調整を行う。また、輪読の回数は、履修者数等を考慮して変更する可能性がある。初回のクラスで履修者と相談のうえで決定する。				
2022年度科目との読替え				
なし。				
本科目と対応するディプロマ・ポリシー	DP ①	DP ②	DP ③	DP ④
	○	○	-	-

授業名称	実践と理論の融合			科目コード	PEPC2302S
担当教員	川山 竜二	実施方法	ハイフレックス	単位数	2 単位
配当年次	2 年次	開講学期	前期	曜日	月 A
年間開講数	1 回	授業種別	演習	授業区分	選択

授業の目的

本授業の目的は、専門職大学院などの制度目的にも謳われている「理論と実践の融合」について理解し、それぞれの履修者が「理論と実践の融合」について自分なりの見解をもち、実践の場において提言ができるようになることである。とくに本授業では、実践と理論をつなぐ新たな理論枠組みである「実践の理論」の確立にむけて、「理論」や「実践」を説明するための諸概念の検討をおこなう。そのうえで履修者のそれぞれの問題関心から「実践の理論化」と「理論の実践化」の往還ができるようにトピックにもとづいた考究をおこなう。

到達目標

- ① 履修者が実践と理論を捉えるための概念やモデルを理解し、自らの言葉で実践を論理的に説明することができる。
- ② 履修者が「理論」と呼ばれるものの構造や機能を理解し、理論と呼ばれるものの射程と限界を踏まえて比較検討することができる。
- ③ 履修者が「実践の理論」の基本的な概念について、自分の具体的な実務経験等と結びつけて説明することができる。

授業計画

授業外の学習

授業計画	授業外の学習
第 1 週 (第 1 講) Positioning for the Journey 本授業の探究の旅路を深めるとともに、本授業でも一つのメルクマールとなる「実践の理論」について概観する。	事前 シラバスを読み、参考文献リストを見て本授業の見取り図を描く (3h) 事後 コメントペーパーの提出 (1h)
第 2 週 (第 2 講／第 3 講) 実践と理論をとりまく概念 暗黙知や形式知、あるいは実践知など「実践と理論の融合」をとりまく諸概念の布置について概観する。	事前 事前配布資料を読む (3h) 事後 コメントペーパーの提出 (1h) リサーチワーク (3h)
第 3 週 (第 4 講／第 5 講) 実践をどのように捉えるのか 実践を捉えるための技法について、省察や概念化の手法について考究する。	事前 事前配布資料を読む (3h) 事後 コメントペーパーの提出 (1h) リサーチワーク (3h)
第 4 週 (第 6 講／第 7 講) 理論とはなにか 理論とはいかなるものなのか、概念・構造・機能などの視点から考究する。	事前 事前配布資料を読む (3h) 事後 コメントペーパーの提出 (1h) 総括討論に向けた資料探索 (1h)
第 5 週 (第 8 講／第 9 講) 中範囲理論／特定状況理論 理論の一つのあり方としての中範囲理論、ある特定の状況のもとで理論として機能する特定状況理論について考究する。	事前 事前配布資料を読む (3h) 事後 コメントペーパーの提出 (1h) 総括討論に向けた資料探索 (1h)
第 6 週 (第 10 講／第 11 講) 実践の理論 実践の理論とはいかなるものかを、プラグマティズム思想から説き起こし、実践の理論について考究する。	事前 事前配布資料を読む (3h) 総括討論に向けた資料探索 (2h) 事後 総括討論に向けた資料作成 (2h) コメントペーパーの提出 (1h)
第 7 週 (第 12 講／第 13 講) 実践と理論の往還 実践と理論を行き来することはいかにして可能となるのかを検討する。	事前 事前配布資料を読む (3h) 総括討論に向けた資料作成 (3h) 事後 総括討論に向けた資料作成 (3h) コメントペーパーの提出 (1h)
第 8 週 (第 14 講／第 15 講) 総括討論 「実践と理論」にかかわる様々な議論について、履修者の問題関心から報告する。	事前 総括討論に向けた資料作成 (10h) 事後 コメントペーパーの提出 (1h) リサーチワーク (3h)

授業の進め方と方法				
<p>上記目的・到達目標を達成するため、本授業は講義法とグループワーク法ならびにペアワーク法を用いる。本授業については、それぞれの授業週でひとつのトピックを深く考究するため、90分×2コマ連続で実施する。また、授業終了ごとにコメントペーパーを提出することを求め、履修者の関心を維持する。</p> <p>※リサーチワークとは、本授業内容をもとにして履修者の関心に応じて研究活動を実践することである。</p>				
教科書・参考書				
<p>教科書は指定しない。それぞれの授業で Lecture Note を配布する。以下、参考図書を列記する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 実務家教員 COE プロジェクト (2021) 『実務家教員の理論と実践』、社会情報大学院大学出版部。 ・ G.E.M.アンスコム (2022) 『インテンション：行為と実践知の哲学』、岩波書店。 ・ A.F.ファーナム (2005) 『しろうと理論——日常性の社会心理学』、北大路書房。 ・ A.クラーク (2005) 『理論心理学の方法——論理・哲学的アプローチ』、北大路書房。 ・ 市川伸一 (2004) 『科学としての心理学——理論とは何か？なぜ必要か？どう構築するか？』、培風館。 ・ 金井壽宏・楠見孝 (2012) 『実践知——エキスパートの知性』、有斐閣。 ・ 野中郁次郎・紺野登 (2003) 『知識創造の方法論——ナレッジワーカーの技法』、東洋経済新報社。 				
評価方法				
<p>以下の観点ごとに評価し、100点満点になるように換算する。60点を超えるものに単位を付与する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 授業ごとにコメントを書き提出を求める「コメントペーパー」(35%) 本評価は、とくに到達目標の①と②の到達度を測るためのものである。 2. 最終授業回でのディスカッションならびに発表(65%) 本評価は、とくに到達目標の③の到達度を測るためのものである。 				
その他の重要事項				
<p>コンタクトならびにオフィスアワーについて</p> <p>○メールではなく、Microsoft Teams のチャット機能で連絡をすること(相談内容については問わない)。</p> <p>○授業 Team のタブにオフィスアワー予約ページを作成しているので、そちらから予約を取ること(予約優先)。</p>				
2022年度科目との読替え				
なし。				
本科目と対応するディプロマ・ポリシー	DP ①	DP ②	DP ③	DP ④
	-	○	-	-

授業名称	知識・教育・社会			科目コード	PEPC2303L
担当教員	川山 竜二	実施方法	ハイフレックス	単位数	2 単位
配当年次	2 年次	開講学期	前期	曜日	金 A
年間開講数	1 回	授業種別	講義	授業区分	選択

授業の目的

本授業の目的は、現代社会における知識と教育をそれぞれの社会領域として独立の事象として捉えるのではなく、相互に作用することを理解し、知識、教育、社会に関する分析、考察、提案する能力を高めることである。社会のなかに知識や教育が存在しており、それぞれの領域が独立して存在しているわけではない。社会領域のなかでもとくに知識と教育は、密接にかかわり影響しあっている。知識と教育は社会の部分を構成しているが、社会もまた知識と教育を構成しているのである。本授業では、知識あるいは教育を構想する上で、知識・教育・社会の織り成す視線で物事をいかに捉えていくのかをいくつかのトピックを通じて考究していく。

到達目標

- ① 履修者が少なくとも現代社会における「知識」あるいは「教育」の領域において、それぞれの関心から一つのトピックを説明することができる。
- ② 履修者が「知識」や「教育」の社会領域の相互作用性を理解し、それぞれの社会領域の相互作用のメカニズムを理解する。
- ③ 履修者が本授業で得られた知見を基礎にして、重層的な視点から現代社会における知識や教育の在り方に対して提言をすることができる。

授業計画

授業外の学習

第 1 週	(第 1 講) Positioning for the Journey 本授業の探究の旅路を深めるとともに、社会における学問的知の役割を俯瞰する。	事前	シラバスを読み、参考文献リストを見て本授業の見取り図を描く (3h)
		事後	コメントペーパーの提出 (1h)
第 2 週	(第 2 講／第 3 講) 知識社会論／学習社会論 現代社会の一側面として知識社会あるいは学習社会の側面があることを概説する。	事前	事前配布資料を読む (3h)
		事後	コメントペーパーの提出 (1h)
第 3 週	(第 4 講／第 5 講) 現代社会における知識論 現代社会において「知識」がどのように捉えられているのかを概観する。	事前	事前配布資料を読む (3h)
		事後	コメントペーパーの提出 (1h)
第 4 週	(第 6 講／第 7 講) 知識と教育の結節点としての大学 知識制度と教育制度の結節点として大学の装置を検討する。あわせて、大学史と大学論の系譜を概観する。	事前	事前配布資料を読む (3h)
		事後	コメントペーパーの提出 (1h) 総括討論に向けた資料探索 (1h)
第 5 週	(第 8 講／第 9 講) 能力と雇用可能性の社会学 現代社会において「能力」がどのように語られてきたのかを社会学的な観点から考究する。	事前	事前配布資料を読む (3h)
		事後	コメントペーパーの提出 (1h) 総括討論に向けた資料探索 (1h)
第 6 週	(第 10 講／第 11 講) 教養の変遷 現代社会における「教養」の概念がどのように変遷してきたのかを教育論的／知識論的観点から考究する。	事前	事前配布資料を読む (3h) 総括討論に向けた資料探索 (2h)
		事後	総括討論に向けた資料作成 (2h) コメントペーパーの提出 (1h)
第 7 週	(第 12 講／第 13 講) 社会システムのなかの知識と教育 社会システム論の観点から、知識と教育をどのように捉えられるのかを考究する。	事前	事前配布資料を読む (3h) 総括討論に向けた資料作成 (5h)
		事後	総括討論に向けた資料作成 (5h) コメントペーパーの提出 (1h)

第8週	(第14講/第15講) 総括討論 「知識・教育・社会」にまつわる様々な議論について、履修者の問題関心から報告する。	事前	総括討論に向けた資料作成 (15h)		
		事後	コメントペーパーの提出 (1h)		
授業の進め方と方法					
上記目的・到達目標を達成するため、本授業は講義法とグループワーク法ならびにペアワーク法を用いる。本授業については、それぞれの授業週でひとつのトピックを深く考究するため、90分×2コマ連続で実施する。また、授業終了ごとにコメントペーパーを提出することを求め、履修者の関心を維持する。					
教科書・参考書					
教科書は指定しない。それぞれの授業で Lecture Note を配布する。以下、参考図書を列記する。					
<ul style="list-style-type: none"> ● 小林康夫、船曳建夫 (1994) 『知の技法：東京大学教養学部「基礎演習」テキスト』 東京大学出版会。 ● ピーター・F・ドラッカー (2007) 『断絶の時代』、ダイヤモンド社。 ● 西垣通 (2013) 『集合知とは何か——ネット時代の「知」のゆくえ』、中公新書。 ● イマニュエル・カント (2002) 『カント全集 (18) 諸学部の争い・遺稿集』、岩波書店。 ● 本田由紀ほか (2010) 『労働再審 (1) 転換期の労働と「能力」』、大月書店 ● レジー (2022) 『ファスト教養 10分で答えが欲しい人たち』、集英社新書。 ● ニクラス・ルーマン (2004) 『社会の教育システム』、東京大学出版会。 					
評価方法					
以下の観点ごとに評価し、100点満点になるように換算する。60点を超えるものに単位を付与する。					
1. 授業ごとにコメントを書き提出を求める「コメントペーパー」(35%) 本評価は、とくに到達目標の①と②の到達度を測るためのものである。					
2. 最終授業回でのディスカッションならびに発表 (65%) 本評価は、とくに到達目標の③の到達度を測るためのものである。					
その他の重要事項					
<p>コンタクトならびにオフィスアワーについて</p> <p>○メールではなく、Microsoft Teams のチャット機能で連絡をすること (相談内容については問わない)。</p> <p>○授業 Team のタブにオフィスアワー予約ページを作成しているので、そちらから予約を取ること (予約優先)。</p>					
2022年度科目との読替え					
(専門科目) 知識と大学					
本科目と対応するディプロマ・ポリシー	DP ①	DP ②	DP ③	DP ④	
	○	-	○	-	

授業名称	専門職教育論			科目コード	PEPC2304S
担当教員	川山 竜二	実施方法	ハイフレックス	単位数	2 単位
配当年次	2 年次	開講学期	後期	曜日	金 A
年間開講数	1 回	授業種別	講義	授業区分	選択

授業の目的

本授業の目的は、現代社会における専門職教育（ひろくは職業教育）の総合的理解をはかり、履修者自身が専門職教育も含めた職業教育についての研究を進めることである。本授業では、とくに現代社会における「専門職」と「専門職育成」のための教育の社会的な布置について考究する。本授業では、現代社会における知の変容とともに、その使い手である「専門職」の変容とそれに対応する教育をいかにして可能としていくのかに焦点が当てられる。

到達目標

- ① 履修者が専門職とそれにかかわる専門職教育制度を理論的側面と実践的側面から理解し、自らの言葉で説明することができる。
- ② 履修者が我が国の専門職教育の射程と限界を理解し、すくなくとも1つ以上のある特定の専門職と専門職教育の状況を自らの言葉で説明することができる。
- ③ 履修者が自身の関心のある領域から、社会発展に資する専門職のあり方とその教育に対する提言をすることができる。

授業計画

授業外の学習

授業計画	授業外の学習
第1週 (第1講) Positioning for the Journey 本授業の探究の旅路を深めるとともに、現代社会における専門職と職業専門知識について概観する。	事前 シラバスを読み、参考文献リストを見て本授業の見取り図を描く (3h)
	事後 コメントペーパーの提出 (1h)
第2週 (第2講/第3講) 専門職とはなにか 専門職とは何か。これまでの専門職研究を概観し、これからの専門職のあり方について考究する。	事前 事前配布資料を読む (3h)
	事後 コメントペーパーの提出 (1h) リサーチワーク (3h)
第3週 (第4講/第5講) 専門教育と専門職教育 職業教育学や産業教育学の知見を踏まえつつ、専門職教育のありようを専門教育に位置づける。	事前 事前配布資料を読む (3h)
	事後 コメントペーパーの提出 (1h) リサーチワーク (3h)
第4週 (第6講/第7講) 教育法規と専門職教育制度 専門職教育にかかわる教育法規や職業能力開発促進法などの関連法規について理解を深め、各国の制度を比較する。	事前 事前配布資料を読む (3h)
	事後 コメントペーパーの提出 (1h) 総括討論に向けた資料探索 (1h)
第5週 (第8講/第9講) プロフェSSIONALスクール論 我が国における大学などの学校種とサーティフィケートプログラムなどの専門職教育を考究する。	事前 事前配布資料を読む (3h)
	事後 コメントペーパーの提出 (1h) 総括討論に向けた資料探索 (1h)
第6週 (第10講/第11講) MBA 論 高度専門職業教育の一つとして MBA を取り上げ、職業教育の高度化と教育手法について考究する。	事前 事前配布資料を読む (3h) 総括討論に向けた資料探索 (2h)
	事後 総括討論に向けた資料作成 (2h) コメントペーパーの提出 (1h)
第7週 (第12講/第13講) 教育設計と構想 新たな教育を構想するためには、どのような要件が必要となるのか考究する。	事前 事前配布資料を読む (3h) 総括討論に向けた資料作成 (3h)
	事後 総括討論に向けた資料作成 (3h) コメントペーパーの提出 (1h)
第8週 (第14講/第15講) 総括討論 「専門職と専門職教育」にかかわる様々な議論について、履修者の問題関心から報告する。	事前 総括討論に向けた資料作成 (10h)
	事後 コメントペーパーの提出 (1h) リサーチワーク (3h)

授業の進め方と方法				
<p>上記目的・到達目標を達成するため、本授業は講義法とグループワーク法ならびにペアワーク法を用いる。本授業については、それぞれの授業週でひとつのトピックを深く考究するため、90分×2コマ連続で実施する。また、授業終了ごとにコメントペーパーを提出することを求め、履修者の関心を維持する。</p> <p>※リサーチワークとは、本授業内容をもとにして履修者の関心に応じて研究活動を実践することである。</p>				
教科書・参考書				
<p>教科書は指定しない。それぞれの授業ごとに、Lecture Notes を配布する。以下、参考図書を列記する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 石村善助（1969）『現代のプロフェッション』、至誠堂。 日本産業教育学会（2013）『産業教育・職業教育学ハンドブック』、大学教育出版。 文部科学省（2021）『諸外国の高等教育（文部科学省「教育調査」シリーズ第158集）』、明石書店。 吉田文（2014）『「再」取得学歴を問う——専門職大学院の教育と学習』、東信堂。 山田礼子（1998）『プロフェSSIONALスクール——アメリカの専門職養成』玉川大学出版部。 ドナルド・A. ショーン（2017）『省察的実践者の教育——プロフェSSIONAL・スクールの実践と理論』、鳳書房。 				
評価方法				
<p>以下の観点ごとに評価し、100点満点になるように換算する。60点を超えるものに単位を付与する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 授業ごとにコメントを書き提出を求める「コメントペーパー」（35%） 本評価は、とくに到達目標の①と②の到達度を測るためのものである。 最終授業回でのディスカッションならびに発表（65%） 本評価は、とくに到達目標の③の到達度を測るためのものである。 				
その他の重要事項				
<p>コンタクトならびにオフィスアワーについて</p> <p>○メールではなく、Microsoft Teams のチャット機能で連絡をすること（相談内容については問わない）。</p> <p>○授業 Team のタブにオフィスアワー予約ページを作成しているので、そちらから予約を取ること（予約優先）。</p>				
2022年度科目との読替え				
(専門科目) プロフェSSIONとプロフェSSIONALスクール				
本科目と対応するディプロマ・ポリシー	DP ①	DP ②	DP ③	DP ④
	○	-	○	-

授業名称	学習する組織			科目コード	PEPC1305S
担当教員	田原 祐子	実施方法	オンライン	単位数	2 単位
配当年次	1 年次	開講学期	後期	曜日	月 B
年間開講数	1 回	授業種別	演習	授業区分	選択

授業の目的

本授業の目的は、履修者が「学習する組織」に関する理論を学ぶとともに、「学習する組織」を形成するためにどのような視点や方法が必要かを理解し、自らが組織を変革するための知見を身につけることである。上記目的を達成するため、本授業では、ピーター・M、センゲによるオリジナルの議論を端緒として、計6冊の課題図書を読み、組織のレジリエンスを育むために必要な、「学習する組織」に関連する理論を理解し、学習する組織の根幹をなす概念たるシステム思考について実践的に学修する。また、「学習する組織」を形成するための理論的素地を養うとともに、さまざまな組織に散在する課題を理解・分析・解決する方法を検討していく。

到達目標

- ① 履修者が、「学習する組織」に関連する理論や視点を説明できるようになる。
- ② 履修者が、所属する組織を「学習する組織」へと発展させるために何が必要かを理解し、実践および、課題解決のための思考法を身につけることができる。
- ③ 履修者が、修得した理論や視点をもとに、「学習する組織」について説得的に分析できるようになる。

授業計画

授業計画		授業外の学習	
第1週	(第1講) ガイダンス: 「学習する組織」が必要とされる背景	事前	シラバスの精読 (0.5h) 授業での質問事項の検討 (0.5h)
		事後	ミニットペーパーの提出 (1h) 講義・ディスカッションの復習 (2h)
第2週	(第2講) 「学習する組織」5つのディシプリン: システム思考、自己マスタリー、メンタル・モデル、共有ビジョン、チーム学習の理解 (第3講) 5つのディシプリンによって解決できる組織の課題 課題図書: ピーター・センゲ (2011) 『学習する組織—システム思考で未来を創造する』, 英治出版.	事前	授業資料の確認 (1.5h) ディスカッションの準備 (1h) 参考図書の読み込み (1.5h)
		事後	ミニットペーパーの提出 (1h) 講義・ディスカッションの復習 (2h)
第3週	(第4講) システム思考: システム思考の概要、原因と結果、ループ図、時系列、パターン、レバレッジ・ポイントの理解 (第5講) システム思考によって解決できる組織の課題 課題図書: 枝廣淳子、小田理一郎 (2007) 『なぜあの人の解決策はいつもうまくいくのか?』, 東洋経済新報社.	事前	授業資料の確認 (1.5h) ディスカッションの準備 (1h) 参考図書の読み込み (1.5h)
		事後	ミニットペーパーの提出 (1h) 講義・ディスカッションの復習 (2h)
第4週	(第6講) 変革リーダーシップ: 変わらない理由、免役システム (不安管理システム)、チェンジマネジメントの理解 (第7講) 変革リーダーシップによって解決できる組織の課題 課題図書: ロバート・キーガン他 (2013) 『なぜ人と組織は変わらないのか—ハーバード流自己変革の理論と実践』, 英治出版.	事前	授業資料の確認 (1.5h) ディスカッションの準備 (1h) 参考図書の読み込み (1.5h)
		事後	ミニットペーパーの提出 (1h) 講義・ディスカッションの復習 (2h)
第5週	(第8講) コミュニティによる実践学習: 実践共同体、コミュニティ形成、実践学習、経験学習、実践知、集合知、ナレッジマネジメントの理解	事前	授業資料の確認 (1.5h) ディスカッションの準備 (1h) 参考図書の読み込み (1.5h)

	(第9講) コミュニティによる実践学習によって解決できる組織の課題 課題図書: エティエンヌ・ウェンガー他著 (2002) 『コミュニティ・オブ・プラクティス—ナレッジ社会の新たな知識形態の実践』, 翔泳社.	事後	ミニットペーパーの提出 (1h) 講義・ディスカッションの復習 (2h)	
第6週	(第10講) 対話(ダイアログ)とエンゲージメント: ダイアログの本質とオープンコミュニケーションの理解 (第11講) 対話とエンゲージメントによって解決できる組織の課題 課題図書: デビッド・ボーム (2007) 『ダイアログ 対立から共生へ 議論から対話へ』, 英治出版.	事前	授業資料の確認 (1.5h) ディスカッションの準備 (1h) 参考図書の読み込み (1.5h)	
		事後	ミニットペーパーの提出 (1h) 講義・ディスカッションの復習 (2h)	
第7週	(第12講) 学習力と実行力を高める組織学習: チーミング、心理的安全性、失敗からの学習アプローチの理解 (第13講) 組織学習によって解決できる組織の課題、最終発表の計画立案・準備 課題図書: エイミー・C・エドモンドソン (2014) 『チームが機能するとはどういうことか—「学習力」と「実行力」を高める実践アプローチ』, 英治出版.	事前	授業資料の確認 (1.5h) ディスカッションの準備 (1h) 参考図書の読み込み (1.5h)	
		事後	ミニットペーパーの提出 (1h) 講義・ディスカッションの復習 (2h) 最終発表の計画立案 (5h)	
第8週	(第14講) (第15講) 発表~プレゼンテーション: これまで学修した内容を活用し、履修者が所属する組織を題材とした組織課題の解決、および、「学習する組織」実現のためのアプローチ、講評と総合ディスカッション	事前	最終発表の準備 (2h)	
		事後	ミニットペーパーの提出 (1h) 講義・ディスカッションの復習 (1h) 最終発表フィードバックの復習 (1h) 最終レポート課題 (4h)	
授業の進め方と方法				
上記目的・到達目標を達成するため、本授業では、毎回一冊の課題図書を通読してくることを求め、課題図書で議論されている内容をもとに、講義と発表、ディスカッション、グループワークを中心に進行する。また、履修者は、学んだ内容が自らの実務とどう関係する、どのように役立つ可能性があるか、といった事柄についてミニットペーパーに記入し、毎回の授業後の課題として提出する。				
教科書・参考書				
教科書は指定しない。課題図書以外の参考書は、授業中に紹介する。				
評価方法				
① ミニットペーパーの提出 (15%) : 毎回の授業後、履修者の意見と、そう考える理由を記す。 ② 発表・ディスカッション・グループワークへの貢献度 (35%) ③ 最終プレゼンテーション (30%) ④ 最終レポート課題 (800字) (20%)				
その他の重要事項				
遅刻や欠席をする場合は、学内の LMS (学習管理システム) またはメール等を通じて事前に連絡すること。本授業に関する疑問点や不明点については、担当教員まで問合せること。				
2022年度科目との読替え				
なし。				
本科目と対応するディプロマ・ポリシー	DP ①	DP ②	DP ③	DP ④
	○	-	○	-

授業名称	ナレッジ・マネジメント			科目コード	PEPC2307S
担当教員	田原 祐子	実施方法	オンライン	単位数	2 単位
配当年次	2 年次	開講学期	前期	曜日	火 B
年間開講数	1 回	授業種別	演習	授業区分	選択

授業の目的

本授業の目的は、人・組織・企業・社会に潜む、知恵やノウハウという「暗黙知」に気づき、それらを「形式知化」しながら組織～社会でスパイラルアップしていくという、ダイナミックでエキサイティングなプロセスを通じて、実践的なナレッジ・マネジメント（Knowledge Management）の導入・活用法を理解・修得することである。さらに、2018年に公示された ISO30401（Knowledge management systems - Requirements）、SFA（Sales Force Automation）、MA（Marketing Automation）等、先端ビジネスの知識も取り入れ、ナレッジ・マネジメントを活用することで、新しい知恵やビジネスを創造する力を醸成する。

また、社会における知的資本経営の必要性と、企業価値創造における無形資産（インタンジブル・アセット）の重要性等を理解し、ナレッジを戦略的に活用する一方で、人材の流動化による知恵・知財の消滅・流出といった課題への対応法も同時に修得する。

本授業では、理論と実践を融合させるため、講師がコンサルティングの現場において 20 年以上、実際にナレッジ・マネジメントを手掛けた事例、および、履修者が直面している実際の課題等を取り上げ、自らの手で職場や社会に潜在する暗黙知を形式知化し研究に役立てられるよう、再現性を重視しつつ検討していく。

到達目標

- ① 履修者が、ナレッジ・マネジメントの視座から、自らの研究に結びつく課題を発見できるようになる。
- ② 履修者が、ナレッジ・マネジメントを活用して、社会における課題を取り上げ、解決案を提案できるようになる。
- ③ 履修者が、ナレッジ・知的資本を活用して、社会・業界における競争力を高める戦略を立案できるようになる。

授業計画

授業計画		授業外の学習	
第 1 週	(第 1 講) ガイダンス: 「暗黙知と形式知」と「ナレッジ・マネジメント」「ISO30401」	事前	シラバスの精読 (0.5h) 授業での質問事項の検討 (0.5h)
		事後	ミニットペーパーの提出 (1h) 講義・ディスカッションの復習 (2h)
第 2 週	(第 2 講) (第 3 講) 「ナレッジ・マネジメントの理論とモデル」: SECI モデル、DIKW モデル、KW モデル、暗黙知を形式知化する 7 つの Step (フレーム&ワークモジュール) の理解と応用	事前	授業資料の確認 (1.5h) ディスカッションの準備 (1h) 参考図書該当部分の読み込み (1.5h)
		事後	ミニットペーパーの提出 (1h) 講義・ディスカッションの復習 (2h)
第 3 週	(第 4 講) (第 5 講) 「ケーススタディ」 I : ナレッジ・マネジメントによる、新規事業、組織開発と、チャネル、クラスター、エコシステム、ビジネスモデルの構築 ① エネルギー会社②介護施設③法律事務所の事例分析・検証	事前	授業資料の確認 (1.5h) ケーススタディ考察 (1.5h) ディスカッションの準備 (1h)
		事後	ミニットペーパーの提出 (1h) 講義・ディスカッションの復習 (2h)
第 4 週	(第 6 講) (第 7 講) : 「ケーススタディ」 II : ナレッジ・マネジメントによる課題解決 ① 営業 (SFA) ②マーケティング (MA) ③設計開発 ④人材育成・開発の事例分析・検証	事前	授業資料の確認 (1.5h) ケーススタディ考察 (1.5h) ディスカッションの準備 (1h)
		事後	ミニットペーパーの提出 (1h) 講義・ディスカッションの復習 (2h)
第 5 週	(第 8 講) (第 9 講) 「実践課題・演習 I」: 発表計画の概要と検討 (各自の課題抽出～分析～仮説～導入計画)	事前	授業資料の確認 (1.5h) ディスカッションの準備 (1h) 発表計画立案 (1.5h)
		事後	ミニットペーパーの提出 (1h) 講義・ディスカッションの復習 (2h)

第6週	(第10講)(第11講)「実践課題・演習Ⅱ」:中間報告(分析結果～仮説検証～導入計画、および、手順の確認)	事前	授業資料の確認(1.5h) ディスカッションの準備(1h) 発表計画修正(1.5h)		
		事後	ミニットペーパーの提出(1h) 講義・ディスカッションの復習(2h) 最終発表の計画立案(5h)		
第7週	(第12講)(第13講)発表・プレゼンテーション～これまで学修した内容を活用し、履修者が所属する組織を題材としたナレッジ・マネジメント実現のためのアプローチ、講評～総合ディスカッション	事前	最終発表の準備(2h)		
		事後	ミニットペーパーの提出(1h) 最終発表フィードバックの復習(1h) 講義・ディスカッションの復習(2h)		
第8週	(第14講)(第15講)ナレッジ・マネジメントの仮想プロジェクト導入模擬体験:導入～実践～PDCA、定着支援、スパイラルアップまでのアプローチ	事前	授業資料の確認(1.5h) ディスカッションの準備(1h) 仮想プロジェクト関連の調査(1.5h)		
		事後	ミニットペーパーの提出(1h) 講義・ディスカッションの復習(1h) 最終レポート課題(4h)		
授業の進め方と方法					
上記目的・到達目標を達成するため、本授業は講義とディスカッション、グループワークを中心に進行する。また、履修者は、学んだ内容が自らの実務とどう関係する、どのように役立つ可能性があるか、といった事柄についてミニットペーパーに記入し、毎回の授業後の課題として提出する。					
教科書・参考書					
教科書は指定しない。参考書は以下の通り。					
<ul style="list-style-type: none"> 野中郁次郎・竹内弘高(2020)『知識創造企業』,東洋経済新報社. 入山章栄(2019)『世界標準の経営理論』,ダイヤモンド社. その他、授業中に適宜参考図書を紹介する。 					
評価方法					
① ミニットペーパーの提出(15%):毎回の授業後、履修者の意見と、そう考える理由を記す。					
② ディスカッション・グループワークへの貢献度(25%)					
③ 最終プレゼンテーション(40%)					
④ 最終レポート課題(800字)(20%)					
その他の重要事項					
遅刻や欠席をする場合は、学内のLMS(学習管理システム)を通じて事前に連絡すること。 本授業に関する疑問点や不明点については、担当教員まで問い合わせること。					
2022年度科目との読替え					
なし。					
本科目と対応するディプロマ・ポリシー	DP ①	DP ②	DP ③	DP ④	
	-	○	○	-	

授業名称	現代社会と人的資本			科目コード	PEPC2308S
担当教員	川山 竜二	実施方法	ハイフレックス	単位数	2 単位
配当年次	1・2 年次	開講学期	後期	曜日	木 B
年間開講数	1 回	授業種別	講義	授業区分	選択

授業の目的

本授業の目的は、現代社会の潮流と人的資本の関係性について理解することである。そのために本授業では、会計学上で議論されている「人的資本」の諸説だけでなく、社会学や経済学の知見を敷衍することで複眼的な観点から「人的資本」について理解することを目指す。本授業では、人的資本そのものの議論だけでなく、人的資本から能力開発や社会的投資国家まで、人的資本という考え方がどのように社会制度に影響を与えるのかという観点もふくめて考究することを予定している。

到達目標

- ① 履修者が現代社会と人的資本の基礎的な知識を身につけており、人的資本の考え方を理解することができる。
- ② 履修者が、本授業でとりあげる現代社会と人的資本の理論枠組みを理解し、すくなくとも2つの観点から現代社会と人的資本を説明することができる。
- ③ 履修者が現代社会の潮流と人的資本の関係性を捉えた上で、自らの所属している組織あるいは我が国における人的資本政策に対する提言ができる。

授業計画

授業外の学習

授業計画	授業外の学習
第1週 (第1講) Positioning for the Journey 本授業の探究の旅路を深めるとともに、現代社会においてなぜ人的資本が着目されるに至ったのかを検討する。	事前 シラバスを読み、参考文献リストを見て本授業の見取り図を描く (3h) 事後 コメントペーパーの提出 (1h)
第2週 (第2講/第3講) 経済社会学 現代社会と人的資本を論ずるにあたり、社会における経済システムあるいは労働についての知識を概観する。	事前 事前配布資料を読む (3h) 事後 コメントペーパーの提出 (1h) リサーチワーク (3h)
第3週 (第4講/第5講) 人的資本論概説 人的資本に関わる諸学説について考究し、人的資本の考え方について議論する。	事前 事前配布資料を読む (3h) 事後 コメントペーパーの提出 (1h) リサーチワーク (3h)
第4週 (第6講/第7講) 労働経済学 人的資本を労働経済学 (とりわけシグナル理論との比較) の観点から概観する。	事前 事前配布資料を読む (3h) 事後 コメントペーパーの提出 (1h) 総括討論に向けた資料探索 (1h)
第5週 (第8講/第9講) 教育経済学 人的資本を教育経済学の観点から概観する。あわせて認知資本主義論についても考究する。	事前 事前配布資料を読む (3h) 事後 コメントペーパーの提出 (1h) 総括討論に向けた資料探索 (1h)
第6週 (第10講/第11講) 能力開発論 企業や組織における人的資本投資の一つとしての能力開発について、特にOJTとOff-JTの比較について考究する。	事前 事前配布資料を読む (3h) 総括討論に向けた資料探索 (2h) 事後 総括討論に向けた資料作成 (2h) コメントペーパーの提出 (1h)
第7週 (第12講/第13講) 社会的投資国家 人的資本と社会的投資国家の関係性について概観し、今後の人への投資のありようについて考究する。	事前 事前配布資料を読む (3h) 総括討論に向けた資料作成 (3h) 事後 総括討論に向けた資料作成 (3h) コメントペーパーの提出 (1h)
第8週 (第14講/第15講) 総括討論 人的資本にかかわる様々な議論において、履修者の問題関心から報告する。	事前 総括討論に向けた資料作成 (10h) 事後 コメントペーパーの提出 (1h) リサーチワーク (3h)

授業の進め方と方法				
<p>上記目的・到達目標を達成するため、本授業は講義法とグループワーク法ならびにペアワーク法を用いる。本授業については、それぞれの授業週でひとつのトピックを深く考究するため、90分×2コマ連続で実施する。また、授業終了ごとにコメントペーパーを提出することを求め、履修者の関心を維持する。</p> <p>※リサーチワークとは、本授業内容をもとにして履修者の関心に応じて研究活動を実践することである。</p>				
教科書・参考書				
<p>教科書は指定しない。それぞれの授業で Lecture Note を配布する。以下、参考図書を列記する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● マーク・グラノヴェター (2019) 『社会と経済：枠組みと原則』、ミネルヴァ書房。 ● 伊藤邦雄編著 (2006) 『無形資産の会計』、中央経済社。 ● ゲーリー・ベッカー (1976) 『人的資本——教育を中心とした理論的・経験的分析』、東洋経済新報社。 ● 猪木武徳 (2017) 『モダン・エコノミクス 24 経済思想』、岩波オンデマンドブックス。 ● ジョナサン・ハスケル (2020) 『無形資産が経済を支配する』、東洋経済新報社。 ● 清家篤・風神佐知子 (2020) 『労働経済』、東洋経済新報社。 ● 三浦まり (2018) 『社会への投資——〈個人〉を支える〈つながり〉を築く』、岩波書店。 				
評価方法				
<p>以下の観点ごとに評価し、100点満点になるように換算する。60点を超えるものに単位を付与する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 授業ごとにコメントを書き提出を求める「コメントペーパー」(35%) 本評価は、とくに到達目標の①と②の到達度を測るためのものである。 2. 最終授業回でのディスカッションならびに発表(65%) 本評価は、とくに到達目標の③の到達度を測るためのものである。 				
その他の重要事項				
<p>コンタクトならびにオフィスアワーについて</p> <p>○メールではなく、Microsoft Teams のチャット機能で連絡をすること(相談内容については問わない)。</p> <p>○授業 Team のタブにオフィスアワー予約ページを作成しているので、そちらから予約を取ること(予約優先)。</p>				
2022年度科目との読替え				
(専門科目) 人材開発マネジメント				
本科目と対応するディプロマ・ポリシー	DP ①	DP ②	DP ③	DP ④
	-	-	○	-

授業名称	コーチングとファシリテーション			科目コード	PEPC2313S
担当教員	本間 正人	実施方法	オンライン	単位数	2 単位
配当年次	2 年次	開講学期	後期	曜日	金 B
年間開講数	1 回	授業種別	演習	授業区分	選択

授業の目的

本授業の目的は、実務家教員として必要なコーチングとファシリテーションの力の基礎を身につけること。旧来型の学校教育においては、学習者の共通性を前提とした講義形式の「一斉授業（ティーチング）」が主流だったが、「個別具体的な学び」が求められる現在、個々の学生の強みや意欲を引き出すコーチとしての技能が求められている。また「協働的な学び」を実現するためには、心理的に安全な学習環境を設け、学び合いを促進するファシリテーターとしての力が不可欠である。本授業では、コーチングとファシリテーションに関する知識の習得と同時に、参加型のエクササイズを通じて、実践的な技能を体得するところに主眼を置く。

到達目標

- ① 履修者が、コーチングとファシリテーションの理論的背景や特徴について説明できる。
- ② 履修者が、傾聴・質問・承認などコーチングの基本スキルを効果的に使って、学生の指導に活用できる。
- ③ 履修者が、学習目的に合ったエクササイズを選択（開発）し、ワークショップ形式の授業を進行できる。

授業計画

授業計画		授業外の学習	
第 1 週	(第 1 講) コーチングとファシリテーションの理論の概説	事前	シラバスの精読(2h)
		事後	クライアントを観察する(2h)
第 2 週	(第 2 講) コーチングの基本スキル (傾聴、質問) (第 3 講) コーチングの基本スキル (GROW モデル)	事前	教科書 A を読む(4h)
		事後	ペアでコーチング実践(4h)
第 3 週	(第 4 講) コーチングの基本スキル (観察、承認) (第 5 講) コーチングの基本スキル (目標設定、行動促進)	事前	教科書 A を読む(4h)
		事後	ペアでコーチング実践(4h)
第 4 週	(第 6 講) コーチングのロールプレイ (1) (第 7 講) コーチングのロールプレイ (2)	事前	予め解決したい課題、達成したい目標を言語化しておく(4h)
		事後	ペアでコーチング実践(4h)
第 5 週	(第 8 講) ファシリテーションの基本、グループコーチング (第 9 講) エクササイズとインストラクション	事前	教科書 B を読む(4h)
		事後	グループコーチングの実践(4h)
第 6 週	(第 10 講) ワークショップの組立て方、心理的安全性の確保 (第 11 講) 個人ワーク、ペアワーク、グループワークの活用法	事前	教科書 B を読む(4h)
		事後	自分のワークショップを設計する(4h)
第 7 週	(第 12 講) フードバックの手法、緊張のほぐし方 (第 13 講) ワークショップ実践 (1)	事前	自分のワークショップを準備する(4h)
		事後	自分のワークショップを振り返る(4h)
第 8 週	(第 14 講) ワークショップ実践 (2) (第 15 講) 全体のふりかえりとまとめ	事前	自分のワークショップを準備する(4h)
		事後	自分のワークショップを振り返る最終レポート(4h)

授業の進め方と方法				
<p>本授業は、第2週目以降、2講（90分×2）連続で実施する。</p> <p>上記目的・到達目標を達成するため、ディスカッション・事例研究・グループプレゼンテーション・個人プレゼンテーションの方法を複合的に用いる。また、第8講・第9講では、教育DXに関する研究・実践を行っているゲスト講師を招聘する。ゲスト講師とのディスカッションを通じて、ICTが広範な教育領域に適用しうることを理解する。</p>				
教科書・参考書				
<p>教科書は指定しない。</p> <p>参考書として、日本教育工学会監修(2018)『初等中等教育におけるICT活用』ミネルヴァ書房。 ほか参考となる行政文書や書籍等については、毎回の授業で適宜提示する。</p>				
評価方法				
<ul style="list-style-type: none"> ・ 授業における貢献（30%） ・ ミニットペーパーの内容（20%） ・ 授業構想における発表（50%） 				
その他の重要事項				
担当教員のオフィスアワーおよび予約方法については、初回の授業で説明する。				
2022年度科目との読替え				
なし。				
本科目と対応するディプロマ・ポリシー	DP ①	DP ②	DP ③	DP ④
	○	-	○	-

授業名称	グローバル・ラーニングイノベーション			科目コード	PEPC2314S
担当教員	本間 正人	実施方法	オンライン	単位数	2 単位
配当年次	1 年次	開講学期	前期	曜日	金 B
年間開講数	1 回	授業種別	演習	授業区分	選択

授業の目的

本授業は、実務家教員として旧来型の学校教育の「常識」をアンラーン（棄却）し、日本国内および世界各地の先進的な実践事例から学び、そのイノベティブなエッセンスを履修者自らの実務家教員としての取り組みに活かすことを目的とする。具体的には、Kahn Academy やミネルバ大学、N 高、さとのぼ大学、など、注目を集める教育機関の実務家や、異文化感受性発達理論や多重知性理論、対話型鑑賞などの研究者をゲストに招き、最新の状況を紹介していただく。双方向の質疑応答やダイアログを通じて、個人や組織が時代・社会環境の変化にどのように対応していくかを考察し、また、その力を育む方法を編み出していく。

到達目標

- ① 履修者が、教育、学習のイノベーションの本質について理論的に語れる。
- ② 履修者が、様々な教育実践の事例に触れることで、視野を広げ、柔軟な思考力を獲得する。
- ③ 履修者が、自らの未来をイノベティブに開拓し、構想できる。

授業計画

授業外の学習

授業計画	授業外の学習
第 1 週 (第 1 講) 教育のイノベーションとグローバルな視点 (概説)	事前 シラバスを精読し、本授業に期待するところを書き出す (1h)
	事後 授業内容のふりかえり (1h)
第 2 週 (第 2 講) 個別最適な学びと E ラーニング (第 3 講) 事例 1 Kahn Academy、N 高、ミネルバ大学	事前 資料を読む (3h)
	事後 授業内容のふりかえり (3h)
第 3 週 (第 4 講) 協働的な学びと探究学習 (第 5 講) 事例 2 ラーンネットグローバルスクール、探究学舎	事前 資料を読む (3h)
	事後 授業内容のふりかえり (3h)
第 4 週 (第 6 講) 地域課題の解決と高校魅力化 (第 7 講) 事例 3 島根県立島前高校、さとのぼ大学、こゆ財団	事前 資料を読む (3h)
	事後 授業内容のふりかえり (3h)
第 5 週 (第 8 講) 異文化感受性開発理論と国際理解教育 (第 9 講) 事例 4 Interculturalist、内閣府国際交流、UNESCO	事前 資料を読む (3h)
	事後 授業内容のふりかえり (3h)
第 6 週 (第 10 講) STEAM 教育と対話型鑑賞 (第 11 講) 事例 5 Social Compass、国立アトリサーチセンター	事前 資料を読む (3h)
	事後 授業内容のふりかえり (3h) 個人発表に向けた準備 (3h)
第 7 週 (第 12 講) 個人発表とフィードバック (1) (第 13 講) 個人発表とフィードバック (2)	事前 資料を読む (3h) 個人発表に向けた準備 (3h)
	事後 個人発表のふりかえり (3h)

第8週	(第14講) 個人発表とフィードバック(3) (第15講) 全体のふりかえりと総括	事前	資料を読む(3h) 個人発表に向けた準備(3h)		
		事後	個人発表のふりかえり(3h) 最終レポート作成(7h)		
授業の進め方と方法					
上記目的・到達目標を達成するため、本授業はイノベティブな現場の最前線で活躍するゲストを招聘し、生の声を聴く機会を多く設定する。履修者は、事前にゲストの属する機関などのHPなどで予め概要を把握し、イノベーションの本質に切り込む質問を発することを期待する。					
教科書・参考書					
教科書は使用しない。 参考書A：太刀川英輔（2020）『進化思考』海土の風 参考書B：本間正人、山本ミッシェールのぞみ（2021）『やさしい英語でSDGs』合同出版 参考書C：稲庭彩和子（編著）（2022）『こどもと大人のためのミュージアム思考』左右社 参考書D：甲野善紀、方条遼雨（2021）『上達論』PHP 研究所					
評価方法					
個人発表 40%（第7-8週に予定。本授業で獲得した知見を自分自身の未来にどう活かしていくか） 最終レポート 60%（本授業から何を学び、どのように活かしていこうと考えているか）					
その他の重要事項					
オンラインで実施するので、MSTeamsの扱いに慣れておくこと。個別の質問もMSTeamsで行う。 履修者の専門分野や方向性に配慮し、各講の内容が前後したり、変更される場合もある。					
2022年度科目との読替え					
(専門基礎科目) グローバル教育実践、(専門科目) ラーニング・イノベーション					
本科目と対応するディプロマ・ポリシー	DP ①	DP ②	DP ③	DP ④	
	○	○	-	-	

授業名称	教育コンテンツ開発			科目コード	PEPC2310S
担当教員	廣政愁一	実施方法	ハイフレックス	単位数	2 単位
配当年次	2 年次	開講学期	前期	曜日	水 B
年間開講数	1 回	授業種別	演習	授業区分	選択

授業の目的

本授業の目的は、履修者が知識を社会へと効果的に普及する新たな「教育コンテンツ」「教育サービス」を構想するための能力を身につけることにある。

教育事業や新たなスクール運営を立ち上げようとするならば、マネジメントなどの運営のみならず、何を教えようとするのか教育コンテンツや学習サービスの設計が必要となる。本授業では、塾や予備校、大学・大学院・ビジネススクール、あるいは教育ベンチャーや人材研修といった主体についての学習サービスの設計を通じて、持続可能な教育コンテンツがどのような条件で実現できるのかを検討し、独自の教育コンテンツを創造できるようにする。

到達目標

- ① 履修者が現代社会から生じる教育への需要を満たすことのできる「コンテンツ」を創り出せる。
- ② 履修者が教育コンテンツビジネスとは何かを理解し、既存の教育コンテンツがどのようなビジネスモデルになっているかを説明することができる。
- ③ 履修者が最新の教育コンテンツを作っている主なベンチャーの動向を知り、その成否の原因を経営側から説明することができる。

授業計画

授業外の学習

授業計画	授業外の学習	
第 1 週	事前 (1 講) オリエンテーション 「教育コンテンツがなぜ今大切なのか」 授業の進め方と授業計画の確認を行う。あわせて教育コンテンツについての概論を講義する。	事前 シラバスを読み、本授業の期待するところを書き出す(3h)
	事後 コメントペーパーの提出(1h)	事後 コメントペーパーの提出(1h)
第 2 週	事前 (2・3 講) 教育コンテンツ・事業の全体像概観 現在の教育事業にどのようなものがあるかを検証し、それぞれの教育事業分野がどの程度成長していく可能性があるのか、それとも飽和、あるいは衰退しているのかを議論していく。その中で、経営でもっとも大切な教育ビジネスの勘所を鍛える。	事前 課題配布資料を読む(3h)
	事後 コメントペーパーの提出(1h) リサーチワーク(3h)	事後 コメントペーパーの提出(1h) リサーチワーク(3h)
第 3 週	事前 (4・5 講) 教育ベンチャーの現状 (1) ——マーケットの限界とその規模 日本においてさまざまな教育ベンチャーが生まれてきているが、成功事例を見ながら、なぜ成功したのかを議論する。マーケティングの成功なのか、事業構造の強さなのか、マネジメントなのか。同様な成功の数々を見ながら共通項を探求する。	事前 課題配布資料を読む(3h)
	事後 コメントペーパーの提出(1h) リサーチワーク(3h)	事後 コメントペーパーの提出(1h) リサーチワーク(3h)
第 4 週	事前 (6・7 講) 教育ベンチャーの現状 (2) ——マーケットの可能性とその規模 前回に続き、豊富なケーススタディを扱って講義する。日本においてさまざまな教育ベンチャーが生まれてきているが、前回とは反対に失敗事例を見ながら、どうして失敗したのかを議論する。マーケティングの失敗なのか、事業構造の弱さなのか、マネジメントなのか。同様な失敗の数々を見ながら共通項を探求する。	事前 課題配布資料を読む(3h)
	事後 コメントペーパーの提出 (1h) 総括討論に向けた資料探索(1h)	事後 コメントペーパーの提出 (1h) 総括討論に向けた資料探索(1h)

第5週	(8・9講) 教育業界でのマーケティング——顧客はだれなのか 教育ビジネスの中でもっとも大切なことは「顧客の対象」である。BtoBなのかBtoCなのかあるいはBtoBtoCなのか。また、塾や予備校の顧客ははたして誰なのかを議論していく。その議論は顧客を明解にした戦略を生み出す元となる。	事前	課題配布資料を読む(3h)
		事後	コメントペーパーの提出(1h) 総括討論に向けた資料探索(1h)
第6週	(10・11講) 教育コンテンツ開発—経営戦略の基本に当てはめる 教育コンテンツの中でも大学・大学院・ビジネススクールは新たなサービス局面に入っている。そのコンテンツ戦略を議論する。	事前	課題配布資料を読む(3h) 総括討論に向けた資料探索(2h)
		事後	コメントペーパーの提出(1h) 総括討論に向けた資料作成(2h)
第7週	(12・13講) 教育コンテンツの設計—骨太な事業計画の作り方 履修者が独自に開発する教育コンテンツをつくる際の「ヒト・モノ・カネ・情報」を検証し、現実的なものにするのを教授する。	事前	課題配布資料を読む(3h) 総括討論に向けた資料作成(3h)
		事後	コメントペーパーの提出(1h) 総括討論に向けた資料作成(3h)
第8週	(14・15講) 総括討論 これまでの授業をまとめるとともに、履修生に対して独自の 新規の教育コンテンツの口頭発表を課す。	事前	総括討論に向けた資料作成(10h)
		事後	コメントペーパーの提出(1h) リサーチワーク(3h)

授業の進め方と方法

上記目的・到達目標を達成するため、本授業は講義法とグループワーク法を用いる。本講義については、それぞれの授業週でひとつのトピックを深く探求するため、90分×2コマ連続で実施する。

また、授業終了ごとにコメントペーパーを提出することを求め、履修者の関心を維持する。

※リサーチワークとは、本授業内容をもとにして履修者の関心に応じて研究活動を実践することである。

教科書・参考書

教科書は指定しない。それぞれの授業で配布する。以下、参考図書を列記する。授業中に適宜、下記のほか参考文献を紹介する。

- 嶋田真貴・西村克之・松本晃・為田裕行・山田未知之・松本暁,2019,『学習塾白書』株式会社私塾界。
- 中室牧子,2015,『学力の経済学』ディスカヴァー・トゥエンティワン。
- 田所雅之,2017,『起業の科学』日経BP。

評価方法

以下の観点ごとに評価し、100点満点になるように換算する。

60点を超えるものに単位を付与する。

1. 授業ごとにコメントを書き提出を求める「コメントペーパー」(35%)

本評価は、とくに到達目標の①と②の到達度を測るためのものである。

2. 最終授業回でのディスカッションならびに発表(65%)

本評価は、とくに到達目標の③の到達度を測るためのものである。

その他の重要事項

Teamsのチャット機能で連絡をすること。相談内容は問わない。

2022年度科目との読替え

なし。

本科目と対応するディプロマ・ポリシー	DP ①	DP ②	DP ③	DP ④
	-	-	○	-

授業名称	教育のマネジメントの理論と実践			科目コード	PEPC2311L
担当教員	藏田 實	実施方法	一部ハイフレックス	単位数	2 単位
配当年次	2 年次	開講学期	前期	曜日	土 A (1・2 限)
年間開講数	1 回	授業種別	講義	授業区分	選択
授業の目的					
<p>本授業の目的は、教育のマネジメントに関する議論を今日的な教育状況に即して読み解き、それに基づく国の施策や先進的な事例を検討することで、教育プログラムの質保証をそれぞれの教育関連機関の水準で担保することについて考察する。教育のマネジメントをめぐる議論の広がりや学修者本位の内在的な観点到留意し、あるべき実践的な教育のマネジメントに関する手法を修得する。本授業では、中央教育審議会が作成した高等教育における「教学マネジメント指針」についても多面的な分析を行い、教育現場からの事例報告も踏まえ、履修者が独自の教育プログラム作りに取り組み、教育のマネジメントの在り方について理解を図る。</p>					
到達目標					
<p>① 履修者が教育のマネジメントをめぐる主要な課題について理解し、説明することができる。</p> <p>② 履修者が教育のマネジメントの方法論を実践の水準に落とし込む方策について提案することができる。</p> <p>③ 履修者が教育のマネジメントの手法を用いて自らが取り組む教育プログラムを設計することができる。</p>					
授業計画				授業外の学習	
第 1 週	(第 1 講) ガイダンス及びイントロダクション ——授業はだれのものか?	事前	シラバスの精読 (0.5h) 授業での質問事項の検討 (0.5h)		
		事後	ミニットペーパーの提出 (1h) 授業内容の整理 (2h)		
第 2 週	(第 2 講) 高等教育の今日的な課題について整理する (第 3 講) 高等教育をめぐる改革を検証する	事前	授業資料の確認 (1h) ディスカッションの準備 (1h)		
		事後	ミニットペーパーの提出 (1h) 授業内容の整理 (2h)		
第 3 週	(第 4 講) 大学の組織と運営について考える (第 5 講) 教員と学生の現状を理解する	事前	授業資料の確認 (1h) ディスカッションの準備 (1h)		
		事後	ミニットペーパーの提出 (1h) 授業内容の整理 (2h)		
第 4 週	(第 6 講) 「教学マネジメント指針」を読み解く① ——3つのポリシー (DP・CP・AP) について (第 7 講) 「教学マネジメント指針」を読み解く② ——PDCA サイクルについて	事前	授業資料の確認 (1h) ディスカッションの準備 (1h)		
		事後	ミニットペーパーの提出 (1h) 授業内容の整理 (2h)		
第 5 週	(第 8・9 講) 教育のマネジメントに係る教育行政の考え方 ——文部科学省前担当官からの報告 (予定)	事前	授業資料の確認 (1h) ディスカッションの準備 (1h)		
		事後	ミニットペーパーの提出 (1h) 授業内容の整理 (2h)		
第 6 週	(第 10 講) 教育のマネジメントに係る教育現場からの先進的事例① ——大学学長からの報告 (予定) (第 11 講) 教育のマネジメントに係る教育現場からの先進的事例② ——大学教員からの報告 (予定)	事前	授業資料の確認 (1h) ディスカッションの準備 (1h)		
		事後	ミニットペーパーの提出 (1h) 授業内容の整理 (2h)		
第 7 週	(第 12・13 講) 教育プログラムの作成① ——3つのポリシーを考える	事前	授業資料の確認 (1h) 発表の準備 (7h)		
		事後	ミニットペーパーの提出 (1h) 授業内容の整理 (1.5h) 発表内容のレポート提出 (5h)		
第 8 週	(第 14・15 講) 教育プログラムの作成② ——カリキュラムツリーを作成する	事前	授業資料の確認 (1h) 発表の準備 (7h)		
		事後	ミニットペーパーの提出 (1h) 授業内容の整理 (1.5h) 発表内容のレポート提出 (5h)		

授業の進め方と方法				
<p>本授業は、第2週目以降、2講（90分×2）連続で実施する。</p> <p>上記目的・到達目標を達成するため、本授業は、第2週～4週は担当教員による講義と履修者とのディスカッションを交えた演習方法で行う。第5・6週はゲスト講師を招聘し、実践的な内容についてディスカッションを含め実施する。第7・8週には、それまで学修した知見を生かし、各履修者が作成した教育プログラムの発表を行う。</p>				
教科書・参考書				
<p>教科書は指定しない。</p> <p>参考資料：中央教育審議会大学分科会（2020）『教学マネジメント指針』https://www.mext.go.jp/content/20200206-mxt_daigakuc03-000004749_001r.pdf</p> <p>参考書：濱名篤著（2018）『学修成果への挑戦 地方大学からの教育改革』，東信堂。 永田恭介・山崎光悦編著（2021）『教学マネジメントと内部質保証の実質化』，東信堂。</p>				
評価方法				
<p>① ミニットペーパー（30%）</p> <p>② 授業への貢献度（30%）</p> <p>③ 第7・8週での発表内容及び発表レポート（40%）</p>				
その他の重要事項				
<p>① 担当教員のオフィスアワーおよび予約の方法については、初回の授業で説明する。</p> <p>② 来校日は原則として土曜日となっており、必要に応じて授業外での相談に応じる。</p>				
2022年度科目との読替え				
（専門科目）教学マネジメントの理論と実践				
本科目と対応するディプロマ・ポリシー	DP ①	DP ②	DP ③	DP ④
	○	○	-	-

授業名称	ICT と教育			科目コード	PEPC2312S
担当教員	荒木 貴之	実施方法	オンライン	単位数	2 単位
配当年次	2 年次	開講学期	後期	曜日	月 A
年間開講数	1 回	授業種別	演習	授業区分	選択
授業の目的					
<p>本授業の目的は、ICT 教育の歴史的経緯および ICT 教育で「できること」と「できないこと」の理解を前提に、履修者が ICT 教育の現状と展望について検討するための素養を身につけることにある。ICT を用いた教育実践については、主に初等・中等教育の場において実施されてきたが、それ以外の学びの場、たとえば社会人のリスキングにおいても高い効果が期待される。一方で、既存の教具や教材は技術革新によりアップデートされ続けるものであり、「ICT を教育に適用すること」の本質を理解しない限り、目先の新技術への対応に腐心することになる。本授業では、履修者による課題報告の時間を設けることで、表層的理解を超えて、ICT 教育の未来について考える契機を提供する。</p>					
到達目標					
<p>① 履修者が、ICT を用いた教育の歴史的経緯、有効性、授業設計および効果測定の方法について、説明することができる。</p> <p>② 履修者が、ICT を用いた大学あるいは大学院の授業で用いる教育コンテンツを構想することができる。</p> <p>③ 履修者が、自ら構想した教育コンテンツを用いて授業を構成し、実際に大学あるいは大学院における授業を運営できるようになる。</p>					
授業計画				授業外の学習	
第 1 週	(第 1 講) オリエンテーション キーワード: ICT 教育の歴史的展開、教育工学	事前	情報の収集 (2h) 教育 DX に関する文科省、経産省、総務省等の資料を収集し、理解する。		
		事後	情報の整理 (2h) 教育 DX の今後のあり方についてまとめる。		
第 2 週	(第 2 講) (第 3 講) 「ICT と教育」の現状 キーワード: 教具、e-learning、メディア教育、情報モラル教育、プログラミング教育	事前	情報の収集 (4h) e-learning の現状について情報を収集し、理解する。		
		事後	情報の整理 (4h) 情報モラルについて、留意点をまとめる。		
第 3 週	(第 4 講) (第 5 講): ICT による協働学習 キーワード: 未来の教室、探究学習、PBL、PLN	事前	情報の収集 (4h) 教育 DX について、SAMR モデルについて知り、理解する。		
		事後	情報の整理 (4h) 教育 DX における教育の再定義について、目指すべき姿をまとめる。		
第 4 週	(第 6 講) (第 7 講): ICT を用いた教育のデザイン キーワード: ID、ARCS モデル、ガニエ、メーガー	事前	情報の収集 (4h) ID の手法について、情報を収集し、理解する。		
		事後	情報の整理 (4h) ID を用いた大学・大学院の授業構想について、実践案を作成する。		
第 5 週	(第 8 講) (第 9 講): 教育 DX (ゲスト講師) キーワード: メタバース、動画、AR/VR、AI	事前	情報の収集 (4h) 最新の教育 DX の事例について、情報を収集し、理解する。		
		事後	情報の整理 (4h) 最新の教育 DX を大学・大学院の授業に導入することによる効果についてまとめる		
第 6 週	(第 10 講) (第 11 講): 「ICT と教育」に関する事例研究 ※ 履修者からの課題報告に基づき、授業を行う。	事前	授業構想案の評価 (4h) 授業構想案について、ID の観点から評価する。		
		事後	授業構想の評価 (4h) 授業構想について、改善点についてまとめ、評価する。		

第7週	(第12講)(第13講):「ICTと教育」に関する事例研究 ※履修者からの課題報告に基づき、授業を行う。	事前	授業構想案の評価(4h) 授業構想案について、IDの観点から評価する。		
		事後	授業構想の評価(4h) 授業構想について、改善点についてまとめ、評価する。		
第8週	(第14講)(第15講):「ICTと教育」に関する事例研究 ※履修者からの課題報告に基づき、授業を行う。	事前	授業構想案の評価(4h) 授業構想案について、IDの観点から評価する。		
		事後	授業構想の評価(4h) 授業構想について、改善点についてまとめ、評価する。		
授業の進め方と方法					
<p>本授業は、第2週目以降、2講(90分×2)連続で実施する。</p> <p>上記目的・到達目標を達成するため、ディスカッション・事例研究・グループプレゼンテーション・個人プレゼンテーションの方法を複合的に用いる。また、第8講・第9講では、教育DXに関する研究・実践を行っているゲスト講師を招聘する。ゲスト講師とのディスカッションを通じて、ICTが広範な教育領域に適用しうることを理解する。</p>					
教科書・参考書					
<p>教科書は指定しない。</p> <p>参考書として、日本教育工学会監修(2018)『初等中等教育におけるICT活用』ミネルヴァ書房。</p> <p>ほか参考となる行政文書や書籍等については、毎回の授業で適宜提示する。</p>					
評価方法					
<ul style="list-style-type: none"> ・授業における貢献(30%) ・ミニットペーパーの内容(20%) ・授業構想における発表(50%) 					
その他の重要事項					
担当教員のオフィスアワーおよび予約方法については、初回の授業で説明する。					
2022年度科目との読替え					
なし。					
本科目と対応するディプロマ・ポリシー	DP ①	DP ②	DP ③	DP ④	
	-	-	○	-	

授業名称	探究基礎演習			科目コード	PEPD1401S
担当教員	川山 竜二 富井 久義 伴野 崇生	実施方法	ハイフレックス	単位数	2単位・2単位
配当年次	1年次	開講学期	前期・後期	曜日	火A/水A/土A(3・4限)
年間開講数	2回	授業種別	演習	授業区分	必修

授業の目的

本授業は、2年次に専門職学位論文を執筆するための基盤として、現代社会における知識のあり方を理解し、社会に遍在する暗黙知と学術的知見を体系化し、普及・活用するための基礎的な能力の醸成をめざす。

(川山 竜二) 川山は、知識社会学、知の理論、専門職と専門職教育を専門とし、実務家教員養成の制度設計に携わっている。担当する基礎演習では、とくに「実践の理論(自らの知見を構造化することを含む)」や職業教育の制度化や高度化、あるいは「学習社会論」やリカレント教育に関心をよせる学生の履修を主に想定している。

(富井 久義) 富井は、現代社会論、市民社会論、学習社会論、社会調査方法論(質的研究)を専門としている。担当する基礎演習では、質的研究の方法をもちいて教育・人材育成にかんする調査研究や構想を検討していくことに関心のある学生の履修を主に想定している。

(伴野 崇生) 伴野は、文化心理学、成人教育学、インストラクショナル・デザイン、難民研究、コミュニケーション研究を専門としている。担当する基礎演習では、広くおとなの学びに関する実証分析(質的研究)、人の成長や変容、インストラクショナル・デザイン、学習環境デザインに関心のある学生の履修を主に想定している(サブテーマは問わない)。

到達目標

本授業の具体的な到達目標は、以下のとおりである。

- これから実施していく研究の社会的布置やその意義について、研究の社会的布置、自らが携わる実務や組織、産業の領域と関連づけながら他者に説明することができる。
- 研究における基本である先行研究レビューの意義を理解し、適切に実践することができる。
- 多様な研究・分析手法の特性を理解し、自らの課題にあった手法を用いて研究を進めることができる。
- 研究に関する倫理、コンプライアンス等を理解し、それらを遵守しながら研究を進めることができる。
- 自らが携わる実務や組織、産業の領域と関連2年次に執筆する専門職学位論文のプロットを作成することができる。

授業計画

授業外の学習

【前期】	【前期】(第1講): 本演習の目的・グランドルール等の確認、前期の進め方について	事前	シラバスおよび授業資料の確認(1h)
第1週		事後	プロGRESSレポートの執筆(2h)
第2週	(第2・3講): 入学時点における研究計画報告	事前	資料確認・ディスカッション準備(1h)
		事後	履修者同士の相互レビュー(1h) リサーチワーク(3h)
第3週	(第4・5講): 研究計画の報告とディスカッション 1	事前	資料確認・ディスカッション準備(1h) プロGRESSレポートの執筆(2h)
		事後	履修者同士の相互レビュー(1h) リサーチワーク(3h)
第4週	(第6・7講): 研究計画の報告とディスカッション 2	事前	資料確認・ディスカッション準備(1h) プロGRESSレポートの執筆(2h)
		事後	履修者同士の相互レビュー(1h) リサーチワーク(3h)

第5週	(第8・9講)：研究計画の報告とディスカッション 3	事前	資料確認・ディスカッション準備 (1h) プログレスレポートの執筆 (2h)
		事後	履修者同士の相互レビュー (1h) リサーチワーク (3h)
第6週	(第10・11講)：研究の進捗報告とディスカッション①-1	事前	資料確認・ディスカッション準備 (1h) プログレスレポートの執筆 (2h)
		事後	履修者同士の相互レビュー (1h) リサーチワーク (3h)
第7週	(第12・13講)：研究の進捗報告とディスカッション①-2	事前	資料確認・ディスカッション準備 (1h) プログレスレポートの執筆 (2h)
		事後	履修者同士の相互レビュー (1h) リサーチワーク (3h)
第8週	(第14・15講)：研究の進捗報告とディスカッション①-3	事前	資料確認・ディスカッション準備 (1h) プログレスレポートの執筆 (2h)
		事後	履修者同士の相互レビュー (1h) リサーチワーク (3h) 学期末レポート執筆 (6h)
【後期】 第1週	【後期】(第1講)：本演習の目的・グランドルール等の再確認、後期の進め方について	事前	シラバスおよび授業資料の確認 (1h)
		事後	プログレスレポートの執筆 (2h)
第2週	(第2・3講)：研究の進捗報告とディスカッション②-1	事前	資料確認・ディスカッション準備 (1h)
		事後	履修者同士の相互レビュー (1h) リサーチワーク (3h)
第3週	(第4・5講)：研究の進捗報告とディスカッション②-2	事前	資料確認・ディスカッション準備 (1h) プログレスレポートの執筆 (2h)
		事後	履修者同士の相互レビュー (1h) リサーチワーク (3h)
第4週	(第6・7講)：研究の進捗報告とディスカッション②-3	事前	資料確認・ディスカッション準備 (1h) プログレスレポートの執筆 (2h)
		事後	履修者同士の相互レビュー (1h) リサーチワーク (3h)
第5週	(第8・9講)：研究の進捗報告とディスカッション③-1	事前	資料確認・ディスカッション準備 (1h) プログレスレポートの執筆 (2h)
		事後	履修者同士の相互レビュー (1h) リサーチワーク (3h)
第6週	(第10・11講)：研究の進捗報告とディスカッション③-2	事前	資料確認・ディスカッション準備 (1h) プログレスレポートの執筆 (2h)
		事後	履修者同士の相互レビュー (1h) リサーチワーク (3h)
第7週	(第12・13講)：研究の進捗報告とディスカッション③-3	事前	資料確認・ディスカッション準備 (1h) プログレスレポートの執筆 (2h)
		事後	履修者同士の相互レビュー (1h) リサーチワーク (3h) 1年次中間報告会提出資料(専門職学位論文のプロット)執筆 (6h)
第8週	(第14・15講)：1年間の学びのまとめとふりかえり、1年次中間報告会に向けて	事前	資料確認・ディスカッション準備 (1h) プログレスレポートの執筆 (2h)
		事後	履修者同士の相互レビュー (1h) 1年次中間報告会提出資料(専門職学位論文のプロット)修正 (11h)

授業の進め方と方法

本授業は、履修者の研究テーマ及び教員の専門領域を踏まえて、履修者を担当教員ごとに割り当てた複数の少人数ゼミ形式で進めることとし、前期・後期それぞれ、第2週目以降は2講(90分×2)連続で実施する。上記目的・到達目標を達成するため、本授業では前期の第1週から第4週までは、学術研究の基本的な考え方について具体的な事例も踏まえて解説する。その上で、第5週から第8週は代表的な研究手法を各分野における代表的な論文等を用いながら概説する。後期は、前期のふりかえりを行った上で、第1週から第4週まで各履修者が自身の関心に基づいてリサーチ・クエスションの設定からデータの収集・分析までを行い、それに基づいて執筆した小論文を第5週から第7週にかけて発表し、担当教員及び他の履修者と討論する。第8週は、次年度に執筆する専門職学位論文のプロットを作成・発表し、2年次の研究計画を具体化する。

教科書・参考書				
教科書は特に指定しない。参考書については必要に応じて適宜演習内で紹介するが、以下の文献は手元に用意することを推奨する。				
<ul style="list-style-type: none"> • ウェイン・C・ブース (2018) 『リサーチの技法』、ソシム。 • 上野千鶴子 (2018) 『情報生産者になる』、筑摩書房。 • 小熊英二(2022) 『基礎からわかる 論文の書き方』、講談社。 				
評価方法				
<ul style="list-style-type: none"> • 毎時のディスカッションへの貢献 (30%) • 毎時の発表内容・方法 (30%) • プロGRESSレポート (20%) • 学期末レポート[前期]、1年次中間報告会提出資料(専門職学位論文のプロット)[後期] (20%) 				
その他の重要事項				
オフィスアワーの予約方法など、詳しくは初回の授業で説明する。				
2022年度科目との読替え				
なし。				
本科目と対応するディプロマ・ポリシー	DP ①	DP ②	DP ③	DP ④
	○	○	○	○

授業名称	探究演習（知識社会学）			科目コード	PEPD2402S
担当教員	川山 竜二	実施方法	ハイフレックス	単位数	2単位・2単位
配当年次	2年次	開講学期	前期・後期	曜日	土A（1・2限）
年間開講数	2回	授業種別	演習	授業区分	選択必修

授業の目的

本授業の目的は、履修者が実務教育研究科の修了要件となっている「専門職学位論文」を執筆し完成させること（の支援・教育研究指導）である。この演習では、履修者の問題関心に基づいて議論することにくわえて、自身が実践の場において還元しようとする「実践の理論」を履修者自身の手で創造することを目指している。

想定されるテーマとしては、知識社会学、知の体系化、学習社会論、高等教育機関の構想、リカレント教育などに関するものなどは特に歓迎するが上記の限りではない。履修を希望する者は、あらかじめ相談すること。

到達目標

- 履修者が「専門職学位論文」を執筆し完成させること、また口頭試問に耐えうる知見を蓄えること。
- 履修者の「専門職学位論文」を第三者が読んだときに「この専門職学位論文の書き手は、実務教育に関する高度専門職業人である」と認識させるような実務的な研究能力を身につけていること。

授業計画

授業計画		授業外の学習	
【前期】 第1週	（第1講）前期イントロダクション 現在の問題関心や各履修者の研究構想を確認する。また、研究進捗状況の共有や1年間のスケジュールを確認する。	事前	前期研究計画書の執筆（3h）
		事後	履修生同士の相互レビュー（1h）
第2週	（第2講／第3講）専門職学位論文の研究計画 各履修者の研究計画をレビューし、今後の研究の方向性について討議する。	事前	プログレスレポートの執筆（3h）
		事後	履修者同士の相互レビュー（1h） リサーチワーク（4h）
第3週	（第4講／第5講）先行研究レビュー1 各履修者の問題関心に応じて、一編の論文・報告書（それに相当する書籍の1章分相当）を読み、発表する。	事前	プログレスレポートの執筆（3h）
		事後	履修者同士の相互レビュー（1h） リサーチワーク（4h）
第4週	（第6講／第7講）先行研究レビュー2 各履修者の問題関心に応じて、一編の論文・報告書（それに相当する書籍の1章分相当）を読み、討議する。	事前	プログレスレポートの執筆（3h）
		事後	履修者同士の相互レビュー（1h） リサーチワーク（4h）
第5週	（第8講／第9講）専門職学位論文のスケルトン1 各履修者の専門職学位論文のスケルトンを発表し、論文の構造をより精緻なものにするために討議する。	事前	プログレスレポートの執筆（3h）
		事後	履修者同士の相互レビュー（1h） リサーチワーク（4h）
第6週	（第10講／第11講）専門職学位論文のスケルトン2 各履修者の専門職学位論文のスケルトンを発表し、論文の構造をより精緻なものにするために討議する。	事前	プログレスレポートの執筆（3h）
		事後	履修者同士の相互レビュー（1h） リサーチワーク（4h）
第7週	（第12講／第13講）主要仮説の検討1 専門職学位論文における主要な仮説を整理し、その妥当性について議論する。	事前	プログレスレポートの執筆（3h）
		事後	履修者同士の相互レビュー（1h） リサーチワーク（4h）
第8週	（第14講／第15講）主要仮説の検討2 専門職学位論文における主要な仮説を整理し、その妥当性について議論する。	事前	プログレスレポートの執筆（3h）
		事後	履修者同士の相互レビュー（1h） リサーチワーク（4h）
【後期】 第1週	（第1講）後期イントロダクション 夏季休暇や中間報告会などでの助言を踏まえ、研究成果を共有する。	事前	後期研究計画書の執筆（3h）
		事後	履修生同士の相互レビュー（1h）

第2週	(第2講／第3講) 専門職学位論文のスケルトン再検討1 各履修者の専門職学位論文のスケルトンについての変更状況について検討する。	事前	プログレスレポートの執筆 (3h)
		事後	履修者同士の相互レビュー (1h) リサーチワーク (4h)
第3週	(第4講／第5講) 専門職学位論文のスケルトン再検討2 各履修者の専門職学位論文のスケルトンについての変更状況について検討する。	事前	プログレスレポートの執筆 (3h)
		事後	履修者同士の相互レビュー (1h) リサーチワーク (4h)
第4週	(第6講／第7講) 専門職学位論文指導1 各履修者の残された課題を抽出し、具体的にどのように論文に落とし込むのかを検討する。	事前	プログレスレポートの執筆 (3h)
		事後	履修者同士の相互レビュー (1h) リサーチワーク (4h)
第5週	(第8講／第9講) 専門職学位論文指導2 各履修者の残された課題を抽出し、具体的にどのように論文に落とし込むのかを検討する。	事前	プログレスレポートの執筆 (3h)
		事後	履修者同士の相互レビュー (1h) リサーチワーク (4h)
第6週	(第10講／第11講) 専門職学位論文指導3 各履修者の残された課題を抽出し、具体的にどのように論文に落とし込むのかを検討する。	事前	プログレスレポートの執筆 (3h)
		事後	履修者同士の相互レビュー (1h) リサーチワーク (4h)
第7週	(第12講／第13講) 専門職学位論文指導4 各履修者の残された課題を抽出し、具体的にどのように論文に落とし込むのかを検討する。	事前	プログレスレポートの執筆 (3h)
		事後	履修者同士の相互レビュー (1h) リサーチワーク (4h)
第8週	(第14講／第15講) 研究発表準備 口頭発表練習を通じて、1年間の成果を確認しつつ、自身の研究を他者に伝える。	事前	プログレスレポートの執筆 (3h)
		事後	履修者同士の相互レビュー (1h) リサーチワーク (4h)

授業の進め方と方法

上記目的・到達目標を達成するため、本授業はそれぞれの履修者の関心にあわせた研究の進捗状況の管理と助言指導が主となる。専門職学位論文は、演習に出席すれば自動的に完成するものではなく履修者が自律的に執筆するものである。履修者の人数により変動はあるものの、9回は発表することになる。初回授業で詳しく述べるが、授業ごとにプログレスレポート(A4サイズ1~2枚)を作成することを求める。また、自身の発表だけでなく、他者の発表に対してもコメントをすること。くわえて演習の進行は、履修者が行う。課外指導として、月1回30分の研究指導日を設ける。

教科書・参考書

教科書は指定しない。以下、研究手法や論文執筆についての参考図書を列記する。

- ウェイン・C・ブースら (2018) 『リサーチの技法』、ソシム。
- デイビッド・コフラン (2021) 『実践アクションリサーチ』、碩学舎。
- 松浦年男・田村早苗 (2022) 『日本語パラグラフ・ライティング入門』、研究社。
- 小熊英二 (2022) 『基礎からわかる 論文の書き方』、講談社現代新書。
- 近江幸治 (2022) 『学術論文の作法 第3版』、成文堂。
- スティーヴン・ヴァン・エヴェラ (2009) 『政治学のリサーチ・メソッド』、勁草書房。
- 川崎剛 (2010) 『社会科学系のための「優秀論文」作成術——プロの学術論文から卒論まで』、勁草書房。

評価方法

「専門職学位論文」にあわせた研究、執筆について評価をする。前期の評価については、発表時に用意したレジュメに基づいて評価する。精確(精密で的確)なレジュメを評価する。

- 報告担当週の報告内容・方法 (30%)
- プログレスレポート (20%)

- 授業中のディスカッションへの貢献 (20%)
- 各報告会・審査会時点での専門職学位論文の完成度 (30%)

その他の重要事項

コンタクトならびにオフィスアワーについて

- メールではなく、Microsoft Teams のチャット機能で連絡をすること (相談内容については問わない)。
- 授業 Team のタブにオフィスアワー予約ページを作成しているので、そちらから予約を取ること (予約優先)。

2022 年度科目との読替え

なし。

本科目と対応するディプロマ・ポリシー	DP ①	DP ②	DP ③	DP ④
	○	○	○	○

授業名称	探究演習（学校経営デザイン）			科目コード	PEPD2403S
担当教員	藏田 實	実施方法	一部ハイフレックス	単位数	2単位・2単位
配当年次	2年次	開講学期	前期・後期	曜日	土A（3・4限）
年間開講数	2回	授業種別	演習	授業区分	選択必修

授業の目的

今日、学習指導要領の大幅な改訂をはじめ、高大接続システム改革の実施や専門職大学制度の導入など、教育改革がこれまでにないスピードで進行している。これに対応し、学校経営（マネジメント）にも大胆な変革が求められている。このことは、初等・中等教育や高等教育のみならず、多様な教育プログラムに取り組んでいる教育関連機関にも、大胆な発想の転換やシステム改革が必要となっている。

本授業の目的は、学校経営（マネジメント）の諸課題を整理しながら、すでに行われている先駆的な取り組みを考察し、今日的な学校経営（マネジメント）の在り方を探求する。いわゆる「経営」という枠組みにとどまらず、教育目標はもとよりカリキュラム、人材育成、組織の管理・運営、地域連携などを総合的に考察する。この観点から、履修者一人ひとりが学校経営（マネジメント）をデザインしながら研究を進め、専門職学位論文にまとめる。

到達目標

- ① 履修者が学校経営（マネジメント）の諸課題について整理し、その課題解決の方策について提案できる。
- ② 履修者が今日的な学校経営（マネジメント）をデザインすることができる。
- ③ 履修者が専門職学位論文を執筆し、完成させることができる。

授業計画

授業計画		授業外の学習	
【前期】 第1週	(第1講) ガイダンス：本演習の位置付け	事前	シラバスの精読 (0.5h) 授業での質問事項の検討 (0.5h)
		事後	ミニットペーパーの提出 (1h) 授業内容の整理 (2h)
第2週	(第2・3講) 「リサーチペーパー」の発表とディスカッション	事前	発表準備 (2h) ディスカッションの準備 (1h)
		事後	ミニットペーパーの提出 (1h) 発表内容の整理 (2h)
第3週	(第4・5講) 研究論文の手法と論文執筆のプロセス	事前	授業資料の確認 (2h) ディスカッションの準備 (1h)
		事後	ミニットペーパーの提出 (1h) 授業内容の整理 (2h)
第4週	(第6・7講) 研究構想の発表とディスカッション①	事前	発表準備 (2h) ディスカッションの準備 (1h)
		事後	ミニットペーパーの提出 (1h) 発表内容の整理 (2h)
第5週	(第8・9講) 研究構想の発表とディスカッション②	事前	発表準備 (2h) ディスカッションの準備 (1h)
		事後	ミニットペーパーの提出 (1h) 発表内容の整理 (2h)
第6週	(第10・11講) 専門職学位論文のテーマ・構成の発表とディスカッション①	事前	発表準備 (2h) ディスカッションの準備 (1h)
		事後	ミニットペーパーの提出 (1h) 発表内容の整理 (2h)
第7週	(第12・13講) 専門職学位論文のテーマ・構成の発表とディスカッション②	事前	発表準備 (2h) ディスカッションの準備 (1h)
		事後	ミニットペーパーの提出 (1h) 発表内容の整理 (2h)
第8週	(第14・15講) 中間報告会に向けての相互レビュー	事前	中間報告会発表資料の作成 (10h) ディスカッションの準備 (1h)
		事後	ミニットペーパーの提出 (1h) 授業内容の整理 (2h) 中間報告会発表資料整理 (6h)

【後期】 第1週	(第1講) 中間報告会のリフレクションと研究内容の確認	事前	リフレクションの整理 (1h) 研究内容の検討 (2h)
		事後	ミニットペーパーの提出 (1h) 授業内容の整理 (2h)
第2週	(第2・3講) 研究内容の整理と進捗状況の発表とディスカッション①	事前	発表準備 (2h) ディスカッションの準備 (1h)
		事後	ミニットペーパーの提出 (1h) 発表内容の整理 (2h)
第3週	(第4・5講) 研究内容の整理と進捗状況の発表とディスカッション②	事前	発表準備 (2h) ディスカッションの準備 (1h)
		事後	ミニットペーパーの提出 (1h) 発表内容の整理 (2h)
第4週	(第6・7講) 専門職学位論文執筆の進捗報告とディスカッション①	事前	発表準備 (2h) ディスカッションの準備 (1h)
		事後	ミニットペーパーの提出 (1h) 授業内容の整理 (2h)
第5週	(第8・9講) 専門職学位論文執筆の進捗報告とディスカッション②	事前	発表準備 (2h) ディスカッションの準備 (1h)
		事後	ミニットペーパーの提出 (1h) 授業内容の整理 (2h)
第6週	(第10・11講) 専門職学位論文執筆の進捗報告とディスカッション③	事前	発表準備 (2h) ディスカッションの準備 (1h)
		事後	ミニットペーパーの提出 (1h) 授業内容の整理 (2h)
第7週	(第12・13講) 専門職学位論文執筆の進捗報告とディスカッション④	事前	発表準備 (2h) ディスカッションの準備 (1h)
		事後	ミニットペーパーの提出 (1h) 授業内容の整理 (2h)
第8週	(第14・15講) 最終審査会に向けての研究発表とディスカッション	事前	発表準備 (2h) ディスカッションの準備 (1h)
		事後	ミニットペーパーの提出 (1h) 授業内容の整理 (2h) 最終審査会発表資料整理 (12h)

授業の進め方と方法

本授業は、前期・後期それぞれ、第2週目以降は2講(90分×2)連続で実施する。上記目的・到達目標を達成するため、本授業は、第2週で1年次の「リサーチペーパー」学修成果をもとに、各履修者の研究のねらいを共有化する。第3週では、論文執筆にあたって基本的な留意事項について、具体的な事例をもとに解説する。第4週以降は、専門職学位論文執筆に向けた研究の取組みについて各履修者が発表を行い、それをもとに担当教員および他の履修者とのディスカッションにより授業を進める。要望があれば、授業時間外に個別指導を実施する。

教科書・参考書

教科書は指定しない。履修者の研究テーマにより参考文献を紹介する。

参考書：本岡愛実・末富芳編著(2015)『新・教育の制度と経営』、学事出版

永田恭介・山崎光悦編著(2021)『教学マネジメントと内部質保証の実質化』、東信堂

評価方法

- 報告担当週の報告内容・方法 30%
- 授業中のディスカッションへの貢献 20%
- 授業後・授業外に書き込んだコメントの内容 20%
- 各報告会・審査会時点での専門職学位論文の完成度 30%

その他の重要事項

① 担当教員のオフィスアワーおよび予約の方法については、初回の授業で説明する。

② 受講者の人数や論文執筆の進捗状況に応じて、授業形態・授業スケジュールを変更することもある。

③ 来校日は原則として土曜日となっており、必要に応じて授業外での相談に応じる。

2022年度科目との読替え				
なし。				
本科目と対応するディプロマ・ポリシー	DP ①	DP ②	DP ③	DP ④
	○	○	○	○

授業名称	探究演習（インストラクショナル・デザイン）			科目コード	PEPD2404S
担当教員	伴野 崇生	実施方法	ハイフレックス	単位数	2単位・2単位
配当年次	2年次	開講学期	前期・後期	曜日	金 A
年間開講数	2回	授業種別	演習	授業区分	選択必修

授業の目的

本演習では、インストラクショナル・デザインおよび質的心理学、文化心理学の観点から授業や研修等について研究を遂行し、その成果を専門職学位論文としてまとめることができるようになることを目的とする。自らの研究の社会的意義と研究成果の社会実装可能性を強く意識し、単に反省したり改善について提案したりするというのではなく、研究として昇華させていくという視点を常に強く持って各自取り組んでほしい。

到達目標

- ① なぜそのテーマ・目的で研究を行うのか、なぜ自分が行う必要がある／価値があるのか、研究の動機や社会的背景、社会的意義等を整理し、他者に説明することができる。
- ② 専門職学位論文執筆に向け、研究テーマや目的にあった対象や研究方法を設定し、インストラクショナル・デザインや質的心理学、文化心理学の理論やモデルを適切に参照しながら執筆を進めることができる。
- ③ インストラクショナル・デザインや質的心理学、文化心理学の理論やモデル、自らの実務経験に基づいた専門職学位論文を執筆し、完成させることができる。

授業計画

授業計画		授業外の学習	
【前期】 第1週	(第1講) 前期イントロダクション、前期研究計画の共有	事前	前期研究計画書の執筆 (1h)
		事後	相互レビュー (1h)
第2週	(第2講/第3講) 専門職学位論文の構造に関する検討	事前	発表準備・専門職学位論文執筆 (2h)
		事後	相互レビュー (1h) 研究・調査 (4h)
第3週	(第4講/第5講) 研究進捗報告・相互レビュー	事前	発表準備・専門職学位論文執筆 (2h)
		事後	授業外相互レビュー (1h) 研究・調査 (4h)
第4週	(第6講/第7講) 研究進捗報告・相互レビュー	事前	発表準備・専門職学位論文執筆 (2h)
		事後	授業外相互レビュー (1h) 研究・調査 (5h)
第5週	(第8講/第9講) 研究進捗報告・相互レビュー	事前	発表準備・専門職学位論文執筆 (2h)
		事後	授業外相互レビュー (1h) 研究・調査 (5h)
第6週	(第10講/第11講) 研究進捗報告・相互レビュー	事前	発表準備・専門職学位論文執筆 (2h)
		事後	授業外相互レビュー (1h) 研究・調査 (5h)
第7週	(第12講/第13講) 研究進捗報告・相互レビュー	事前	発表準備・専門職学位論文執筆 (2h)
		事後	授業外相互レビュー (1h) 研究・調査 (5h)
第8週	(第14講/第15講) 中間報告会に向けた準備・相互レビュー	事前	発表準備・専門職学位論文執筆 (2h)
		事後	研究・調査 (6h) 学期末レポート執筆(5h)
【後期】 第1週	(第1講) 後期イントロダクション、後期研究計画の共有	事前	後期研究計画書の執筆 (2h)
		事後	授業外相互レビュー (1h)

第2週	(第2講/第3講) 専門職学位論文の構造に関する検討	事前	発表準備・専門職学位論文執筆 (5h)
		事後	授業外相互レビュー (1h) 研究・調査 (2h)
第3週	(第4講/第5講) 研究進捗報告・相互レビュー	事前	発表準備・専門職学位論文執筆 (5h)
		事後	授業外相互レビュー (1h) 研究・調査 (2h)
第4週	(第6講/第7講) 研究進捗報告・相互レビュー	事前	発表準備・専門職学位論文執筆 (5h)
		事後	授業外相互レビュー (1h) 研究・調査 (2h)
第5週	(第8講/第9講) 研究進捗報告・相互レビュー	事前	発表準備・専門職学位論文執筆 (5h)
		事後	授業外相互レビュー (1h) 研究・調査 (2h)
第6週	(第10講/第11講) 研究進捗報告・相互レビュー	事前	発表準備・専門職学位論文執筆 (5h)
		事後	授業外相互レビュー (1h) 専門職学位論文第1稿完成 (2h)
第7週	(第12講/第13講) 研究進捗報告・相互レビュー	事前	発表準備・専門職学位論文執筆 (5h)
		事後	授業外相互レビュー (1h) 専門職学位論文第2稿完成 (2h)
第8週	(第14講/第15講) 最終審査会に向けた準備・相互レビュー	事前	専門職学位論文の完成 (2h)
		事後	授業外相互レビュー (1h) 専門職学位論文提出稿完成 (5h)

授業の進め方と方法

上記目的・到達目標を達成するため、本授業では履修者自身による研究・執筆経過報告を行う。また、履修者同士のディスカッション、相互レビューを踏まえて担当教員からもコメント・指導を行う。必要に応じて演習時間外にも個別に指導を行うことがある。各学期の初回はガイダンスとして1コマ、以降は2コマ(2講)連続の演習を実施する。

教科書・参考書

教科書は指定しない。参考書は以下の通り。その他、個々人の計画や状況にあわせて適宜参考文献・先行研究等を紹介する。

- C.M.ライゲル、B.J.ビーティ、R.D.マイヤーズ (著・編集) 鈴木克明 (監訳)(2020)『学習者中心の教育を実現するインストラクショナルデザイン理論とモデル』北大路書
- スーザン・マッケニー、トーマス・C・リーブス (著)、鈴木克明 (監訳) (2021)『教育デザイン研究の理論と実践』北大路書房
- 中山実・鈴木克明(編著)(2016)『職業人教育と教育工学』ミネルヴァ書房
- 清水康敬(2012)『教育工学論文執筆の要点』ミネルヴァ書房
- 西之園晴夫・生田孝至・小柳和喜雄(2012)『教育工学における教育実践研究』ミネルヴァ書房

評価方法

- 報告担当週の報告内容・方法 30%
- 授業中のディスカッションへの貢献 20%
- 授業後・授業外に書き込んだコメントの内容 20%
- 各報告会・審査会時点での専門職学位論文の完成度 30%

その他の重要事項

- 経過報告の回数や時間は履修者数によって変わる。
- 必要に応じて、演習時間外に指導を行うことがある。
- 詳細については第1回演習時に履修者とともに話し合いながら決定する。
- 履修にあたって何か特別な配慮が必要な場合にはチャット等で担当者に連絡し、相談をすること。

2022年度科目との読替え				
なし。				
本科目と対応するディプロマ・ポリシー	DP ①	DP ②	DP ③	DP ④
	○	○	○	○

授業名称	探究演習（産業社会学）			科目コード	PEPD2405S
担当教員	富井 久義	実施方法	ハイフレックス	単位数	2単位・2単位
配当年次	2年次	開講学期	前期・後期	曜日	木B
年間開講数	2回	授業種別	演習	授業区分	選択必修

授業の目的

本授業の目的は、履修者が産業社会学の理論や社会学的思考などの関連する諸領域における知見を理解し、みずからが有する課題に応用して専門職学位論文を執筆するための能力を身につけることにある。

各履修者の問題関心に基ついた報告とそれにかんする討論をおこなう演習に取り組むことで、みずからの実践が産業社会においてどのような社会的位置づけを有するのかを明らかにするとともに、専門職学位論文の執筆のために必要な産業社会学および周辺領域の知識や批判的分析の方法を身につけることをめざす。

到達目標

- ① 実現可能で具体的な研究計画を立てることができる
- ② 適切な先行研究や先行事例を挙げ、内在的に読み解いたうえで批判的に検討することができる
- ③ 適切な手法、分析枠組みを用いて調査や実践をおこなうことができる
- ④ 産業社会学の理論や社会学的思考にもとづき、調査や実践の社会的位置づけやそのもつ意味を解釈することができる
- ⑤ 専門職学位論文を論理的に構成して書くことができる
- ⑥ 他者の報告を内在的に読み、討論することができる

授業計画

授業外の学習

授業計画	授業外の学習
【前期】 第1週	事前 (第1講) 現代における産業社会学と社会学的思考の応用可能性 (イントロダクション)
	事後 春休みの研究成果のとりまとめ (3h)
第2週	事前 春休みの研究成果のとりまとめ (3h)
	事後 前期の研究計画の立案 (3h)
第3週	事前 報告資料の準備 (3h)
	事後 履修者間の相互レビュー (1h)、調査研究・論文執筆の進行 (2h)
第4週	事前 報告準備または調査研究・論文執筆の進行 (2h)、報告資料の予習 (1h)
	事後 履修者間の相互レビュー (1h)、調査研究・論文執筆の進行 (2h)
第5週	事前 履修者間の相互レビュー (1h)、調査研究・論文執筆の進行 (2h)
	事後 報告準備または調査研究・論文執筆の進行 (2h)、報告資料の予習 (1h)
第6週	事前 履修者間の相互レビュー (1h)、調査研究・論文執筆の進行 (2h)
	事後 報告準備または調査研究・論文執筆の進行 (2h)、報告資料の予習 (1h)
第7週	事前 履修者間の相互レビュー (1h)、調査研究・論文執筆の進行 (2h)
	事後 報告準備または調査研究・論文執筆の進行 (2h)、報告資料の予習 (1h)
第8週	事前 履修者間の相互レビュー (1h)、調査研究・論文執筆の進行 (2h)
	事後 報告準備または調査研究・論文執筆の進行 (2h)、報告資料の予習 (1h)

【後期】 第1週	(第1講) 2年次中間報告会のレビューと進捗共有	事前	夏休みの研究成果のとりまとめ (3h)
		事後	後期の研究計画の立案 (3h)
第2週	(第2・3講) 研究進捗状況と批判的検討1	事前	報告準備または調査研究・論文執筆の進行 (2h)、報告資料の予習 (1h)
		事後	履修者間の相互レビュー (1h)、調査研究・論文執筆の進行 (2h)
第3週	(第4・5講) 研究進捗状況と批判的検討2	事前	報告準備または調査研究・論文執筆の進行 (4h)、報告資料の予習 (1h)
		事後	履修者間の相互レビュー (1h)、調査研究・論文執筆の進行 (4h)
第4週	(第6・7講) 専門職学位論文の進捗報告 ——自身の課題と社会的布置1	事前	報告準備または調査研究・論文執筆の進行 (4h)、報告資料の予習 (1h)
		事後	履修者間の相互レビュー (1h)、調査研究・論文執筆の進行 (4h)
第5週	(第8・9講) 専門職学位論文の進捗報告 ——自身の課題と社会的布置2	事前	報告準備または調査研究・論文執筆の進行 (4h)、報告資料の予習 (1h)
		事後	履修者間の相互レビュー (1h)、調査研究・論文執筆の進行 (4h)
第6週	(第10・11講) 専門職学位論文の進捗報告 ——産業社会へのインパクト1	事前	報告準備または調査研究・論文執筆の進行 (4h)、報告資料の予習 (1h)
		事後	履修者間の相互レビュー (1h)、調査研究・論文執筆の進行 (4h)
第7週	(第12・13講) 専門職学位論文の進捗報告 ——産業社会へのインパクト2	事前	報告準備または調査研究・論文執筆の進行 (4h)、報告資料の予習 (1h)
		事後	履修者間の相互レビュー (1h)、調査研究・論文執筆の進行 (4h)
第8週	(第14・15講) 最終審査会に向けた相互レビュー	事前	報告準備または調査研究・論文執筆の進行 (4h)、報告資料の予習 (1h)
		事後	履修者間の相互レビュー (1h)、調査研究・論文執筆の進行 (4h)

授業の進め方と方法

本授業は、第1週をのぞき、2講連続で実施する。前期第1週については、社会学的な調査研究の方法論や論文執筆の発想法・具体的な方法論についての話題提供を担当教員がおこない、それにもとづく討論を行う。

第2週目以降は、履修者による専門職学位論文執筆に向けた計画や成果についての報告と、それについての他の履修者および担当教員をまじえた討論によって進行する。討論のなかで、社会学的な理論や調査研究の方法についての解説を担当教員が適宜おこなう。履修者にたいしては、標準的には2週につき1回の報告を求める。毎週の授業終了時には、他の履修者の報告にたいするコメントと、授業全体へのコメントの書き込みを求める。

教科書・参考書

【教科書】 指定しない

【参考書】 履修者の調査研究や実践の課題に即して、適宜文献を紹介する

* 調査研究や構想を進める方法に関連する参考書

- 荻谷剛彦・石澤麻子, 2019, 『教え学ぶ技術』 筑摩書房.
- 上野千鶴子, 2018, 『情報生産者になる』 筑摩書房.
- 小熊英二, 2022, 『基礎からわかる論文の書き方』 講談社.

* 産業社会と実践に関連する参考書

- 永田大輔・松永伸太郎, 2022, 『産業変動の労働社会学』 晃洋書房.
- 大倉季久, 2017, 『森のサステイナブル・エコノミー』 晃洋書房.

評価方法				
●	報告担当週の報告内容・方法	30%		
●	授業中のディスカッションへの貢献	20%		
●	授業後・授業外に書き込んだコメントの内容	20%		
●	各報告会・審査会時点での専門職学位論文の完成度	30%		
その他の重要事項				
担当教員のオフィスアワーおよび授業時間外での相談方法については、第1週の授業で説明する。				
2022年度科目との読替え				
なし。				
本科目と対応するディプロマ・ポリシー	DP ①	DP ②	DP ③	DP ④
	○	○	○	○

授業名称	探究演習（教育学）			科目コード	PEPD2406S
担当教員	眞崎光司	実施方法	オンライン	単位数	2単位・2単位
配当年次	2年次	開講学期	前期・後期	曜日	水A
年間開講数	2回	授業種別	演習	授業区分	選択必修

授業の目的

本授業では、教育学に関連する理論や研究方法論、実践例、研究例を学ぶこと、さらに論文執筆上の作法について習得することを目的とする。授業の過程で、各履修者の研究テーマ、進捗状況に関して、履修者同士でのディスカッションを通じて、互いの研究の優れている点や改善点、課題を主体的、批判的に発見する能力、及び学術上のディスカッションの技法を習得することを目指す。さらに論文の構成内容や執筆方法、分析方法について習得することを通じて、学術的に、社会的に水準の高い教育学に関連する専門職学位論文を執筆できるようになることを目指す。

到達目標

- ① 教育学に関連する理論や研究方法論について説明することができる。
- ② 自らの研究テーマに対して教育学に関連する理論や研究方法論を用いることができる。
- ③ 論文執筆のルールを守り、読み手に説得的に伝わりやすい専門職学位論文を執筆することができる。
- ④ 専門職学位論文を執筆し、完成させることができる。

授業計画

授業計画		授業外の学習	
【前期】 第1週	(第1講) イントロダクション—授業方針、内容、スケジュールに関する説明—	事前	シラバス内容を確認する (1h)
		事後	授業内容の復習 (3h)
第2週	(第2・3講) 論文を書くということ—何が構成要素として必要か?どのように伝えるか?—	事前	論文構想作成作業 (3h)
		事後	授業内容の復習 (1h) 論文構想作成作業 (4h)
第3週	(第4・5講) 量的、質的研究方法—数値で表せるものと表せないものをどう扱うか?—	事前	論文構想作成作業 (3h)
		事後	授業内容の復習 (1h) 論文構想作成作業 (4h)
第4週	(第6・7講):教育学分野での研究例の紹介とディスカッション	事前	論文構想作成作業 (3h)
		事後	授業内容の復習 (1h) 論文構想作成作業 (4h)
第5週	(第8・9講):専門職学位論文構想報告1	事前	論文構想作成作業 (3h)
		事後	授業内容の復習 (1h) 論文構想作成作業 (4h)
第6週	(第10・11講):専門職学位論文構想報告2	事前	論文構想作成作業 (3h)
		事後	授業内容の復習 (1h) 論文構想作成作業 (4h)
第7週	(第12・13講):中間報告会に向けた相互レビューとディスカッション1	事前	論文構想作成作業 (3h)
		事後	授業内容の復習 (1h) 論文構想作成作業 (4h)
第8週	(第14・15講):中間報告会に向けた相互レビューとディスカッション2	事前	論文構想作成作業 (3h)
		事後	授業内容の復習 (1h) 論文構想作成作業 (4h)
【後期】 第1週	(第1講):中間報告会の振り返りと今後の研究方針の策定	事前	中間報告会振り返り (2h)
		事後	授業内容の復習 (2h)

第2週	(第2・3講):専門職学位論文執筆の進捗報告とディスカッション1	事前	論文作成及び発表準備作業 (3h)
		事後	授業内容の復習 (1h) 論文執筆作成作業 (4h)
第3週	(第4・5講):専門職学位論文執筆の進捗報告とディスカッション2	事前	論文作成及び発表準備作業 (3h)
		事後	授業内容の復習 (1h) 論文執筆作成作業 (4h)
第4週	(第6・7講):専門職学位論文執筆の進捗報告とディスカッション3	事前	論文作成及び発表準備作業 (3h)
		事後	授業内容の復習 (1h) 論文執筆作成作業 (4h)
第5週	(第8・9講):専門職学位論文執筆の進捗報告とディスカッション4	事前	論文作成及び発表準備作業 (3h)
		事後	授業内容の復習 (1h) 論文執筆作成作業 (4h)
第6週	(第10・11講):専門職学位論文執筆の進捗報告とディスカッション5	事前	論文作成及び発表準備作業 (3h)
		事後	授業内容の復習 (1h) 論文執筆作成作業 (4h)
第7週	(第12・13講):専門職学位論文執筆の進捗報告とディスカッション6	事前	論文作成及び発表準備作業 (3h)
		事後	授業内容の復習 (1h) 論文執筆作成作業 (4h)
第8週	(第14・15講):最終審査会に向けた研究発表とディスカッション	事前	論文作成及び発表準備作業 (3h)
		事後	最終審査会準備 (5h)

授業の進め方と方法

前期、後期ともに2週目以降は2講義(90分×2)で実施する。

上記目的、到達目標を達成するために第2週~第4週については担当教員が授業前に指定した文献をもとに講義、解説を行い、そのうえで、履修生同士でディスカッションを行う。

第5週以降は研究方法論や理論の習得をふまえ、各履修生の研究テーマの選定に入る。各週の報告担当者を各授業前に決定し、報告担当者には専門職学位論文執筆に向けたレジュメを作成してもらい、報告をふまえ、履修生同士でのディスカッションを行い、担当教員からもコメントを行う。なお、必要に応じて授業時間外にも研究に関する相談に応じる。また本授業はオンラインで実施する。

教科書・参考書

教科書は指定しないが、科学的な思考方法や論文執筆方法を身に付けるための参考書として、下記のものを紹介する。

- 戸田山和久 (2022) 最新版 論文の教室: レポートから卒論まで (NHK ブックス 1272), NHK 出版。

そのほか、個々人のテーマに応じて興味関心の近い文献を紹介する。

評価方法

- 報告担当週の報告内容・方法 30%
- 授業中のディスカッションへの貢献 20%
- 授業後・授業外に書き込んだコメントの内容 20%
- 各報告会・審査会時点での専門職学位論文の完成度 30%

その他の重要事項

- ・ オフィスアワーについて、授業の初回で説明する。
- ・ やむを得ない事情で演習を欠席する場合、事前に担当教員まで連絡すること。
- ・ 受講者の人数や興味関心に応じて、授業スケジュールは変更する可能性がある。
- ・ 授業でわからないこと、不明なこと等あれば、遠慮なく担当教員まで連絡すること。

2022年度科目との読替え				
なし。				
本科目と対応するディプロマ・ポリシー	DP ①	DP ②	DP ③	DP ④
	○	○	○	○

授業名称	探究演習（教育産業と教育事業）			科目コード	PEPD2407S
担当教員	廣政愁一	実施方法	ハイフレックス	単位数	2単位・2単位
配当年次	2年次	開講学期	前期・後期	曜日	月B
年間開講数	2回	授業種別	演習	授業区分	選択必修

授業の目的

本授業の目的は、履修者が「実務教育学修士（専門職）」を授与されるにふさわしい専門職学位論文を完成させることにある。専門職大学院において説得力のある専門職学位論文を作成するにあたり、本授業では、教育事業と教育産業にまつわる発想や視点を提供する。

実現可能かつ持続可能な教育事業を展開するためには、当該領域に関連する教育産業の正確な把握が必要不可欠である。そこで本授業の序盤では、履修者各自が構想している新たな教育事業について、先行事例や産業動向の分析を通じて理解を深める機会を設ける。

到達目標

- ① 履修者が先行事例や産業動向の分析を行うことができる。
- ② 履修者が 実現可能性・持続可能性の担保された教育事業を構想することができる。
- ③ 履修者が専門職学位論文を執筆し、完成させることができる。

授業計画

授業外の学習

授業計画	授業外の学習
【前期】 第1週 (1 講) オリエンテーション 履修者各自が 1 年次の「探究基礎演習」で作成した「リサーチペーパー」の内容を全体で共有するとともに、専門職学位論文の完成に至るまでのスケジュールを検討する。	事前 シラバスの精読 (0.5h) 「リサーチペーパー」の内容をもとにした発表準備 (1.5h)
	事後 参考書の精読 (4h)
第2週 (2・3 講) 教育事業と教育産業の視点 履修者各自の研究テーマに関連する教育事業について、先行事例の探し方や分析方法を解説する。	事前 教育事業と教育産業に関する事前学習 (2h)
	事後 フィードバック事項の整理 (1h) 参考書の精読 (3h)
第3週 (4・5 講) 先行事例研究 履修者が、自らの研究テーマに関連する教育事業の事例や教育産業の動向について調査を行い、発表する。	事前 先行事例に関する事前学習 (2h)
	事後 フィードバック事項の整理 (1h) 参考書の精読 (3h)
第4週 (6・7 講) : 論点整理・先行研究・研究方法の検討とディスカッション I 専門職学位論文の内容に関する履修者各自の発表に基づき、意見交換を行う。また、それぞれの研究に関連する先行研究について調査するとともに、それぞれの研究にふさわしい研究方法を検討する。「研究の背景」「先行研究・先行事例」のパートについては、前期の段階で概ね完成させることが望ましいため、そのための指導を行う。	事前 発表資料の準備 (2h) 他のゼミ生資料の事前確認 (1h)
	事後 フィードバック事項の整理 (1h) 参考書の精読 (3h)
第5週 (8・9 講) : 論点整理・先行研究・研究方法の検討とディスカッション II	事前 発表資料の準備 (2h) 他のゼミ生資料の事前確認 (1h)
	事後 フィードバック事項の整理 (1h)
第6週 (10・11 講) : 中間報告会に向けた準備とディスカッション I	事前 発表資料の準備 (2h) 他のゼミ生資料の事前確認 (1h)
	事後 フィードバック事項の整理 (3h)

第7週	(12・13 講)：中間報告会に向けた準備とディスカッションⅡ	事前	発表資料の準備 (2h) 他のゼミ生資料の事前確認 (1h)
		事後	ディスカッション内容の整理 (1h)
第8週	(14・15 講)：模擬報告会・後期に向けたガイダンス 8月に実施される中間報告会に向けて、模擬プレゼンテーションを行う。	事前	模擬報告会の準備 (4h)
		事後	フィードバック事項の整理 (2h) 夏休み中の研究計画作成・共有 (2h) 中間報告会に向けた最終調整 (2h)
【後期】 第1週	(1 講) オリエンテーション 中間報告会・夏季休暇を経て履修者が研究した事柄について全体で共有するとともに、専門職学位論文の執筆スケジュールを検討する。	事前	研究成果の発表準備 (2h)
		事後	フィードバック事項の整理 (4h)
第2週	(2・3 講) 教育事業の実現可能性に関するディスカッションⅠ	事前	研究発表の準備 (4h)
		事後	フィードバック事項の整理 (4h)
第3週	(4・5 講) 教育事業の実現可能性に関するディスカッションⅡ これまでに履修者各自が検討してきた教育事業について内容および実現可能性、さらには持続可能性を精査し、それを専門職学位論文に落とし込むための方法についてディスカッションを行う。	事前	研究発表の準備 (4h)
		事後	これまでのフィードバック事項を踏まえた専門職学位論文執筆 (4h)
第4週	(6・7 講) 模擬中間審査 11月に実施される中間審査会に向けて、模擬審査を行う。	事前	模擬中間審査の準備 (4h)
		事後	学位論文の執筆・検討 (4h)
第5週	(8・9 講) 専門職学位論文 執筆指導Ⅰ 履修者からの進捗報告をもとに、専門職学位論文の完成に向けたディスカッションを行う。	事前	調査・研究の遂行 (4h)
		事後	学位論文の執筆 (7h)
第6週	(10・11 講) 専門職学位論文 執筆指導Ⅱ	事前	調査・研究の遂行 (4h)
		事後	学位論文の執筆・検討 (7h)
第7週	(12・13 講) 専門職学位論文 執筆指導Ⅲ	事前	調査・研究の遂行 (4h)
		事後	学位論文の執筆・検討 (9h)
第8週	(14・15 講) 模擬最終審査 2月に実施される最終審査会に向けて、模擬審査を行う。	事前	模擬最終審査の準備 (3h)
		事後	フィードバック事項の整理 (3h)

授業の進め方と方法

上記目的・到達目標を達成するため、本授業は、第3週までの時間を使って、履修者各自の研究テーマに関連する事例研究を行う。その後、第4週からは、研究の進捗状況に関する各自の発表に基づき、全体でのディスカッションにより進行する。また、報告会・審査会の直前には模擬審査を実施することで、研究発表のクオリティを担保する。本授業は、前期・後期とも第2週目以降は2講(90分×2)連続で実施する。

教科書・参考書

教科書は指定しない。

参考書：

小熊英二 (2022) 『論文の書き方』、講談社現代新書

評価方法				
<ul style="list-style-type: none"> ● 報告担当週の報告内容・方法 30% ● 授業中のディスカッションへの貢献 20% ● 授業後・授業外に書き込んだコメントの内容 20% ● 各報告会・審査会時点での専門職学位論文の完成度 30% 				
その他の重要事項				
担当教員のオフィスアワーおよび予約の方法については、初回の授業で説明する。				
2022 年度科目との読替え				
なし。				
本科目と対応するディプロマ・ポリシー	DP ①	DP ②	DP ③	DP ④
	○	○	○	○

授業名称	探究演習（組織論）			科目コード	PEPD2408S
担当教員	坂本 文武	実施方法	オンライン	単位数	2単位・2単位
配当年次	2年次	開講学期	前期・後期	曜日	火 A
年間開講数	2回	授業種別	演習	授業区分	選択必修
授業の目的					
<p>本授業は、2年次生を対象として、履修者自らが選定したテーマに関して、教員による個別の指導・助言のもと、専門職学位論文の作成に向けた個別研究を推進することを目的とする。指導対象とする主な研究領域は、組織内での人材育成や組織学習、組織変革などである。また、行政や非営利組織等、営利組織以外の主体組織に関する研究も歓迎する。</p>					
到達目標					
<p>① 履修者が研究者として必要な批判的思考を獲得し、自らおよび他者に対して行使することができる。</p> <p>② 履修者が選定したテーマに関して研究を自律的に推進する手法を理解し、活用できるようになる。</p> <p>③ 履修者が専門職学位論文の執筆し、完成することができる。</p>					
授業計画				授業外の学習	
【前期】 第1週	（第1講）研究の意義と進め方—リサーチペーパーをもとに社会人が研究することの意義と論文の役割、今後の進め方の基礎を確認する。また今後一読を期待したい参考図書を提示する。	事前	シラバスの精読および授業の準備（1h）		
		事後	参考図書の精読（6h）		
第2週	（第2・3講）研究課題の構造化—論理的で客観的に課題を構造化するための思考法を、履修者の研究テーマに関する発表をもとに確認、獲得する	事前	研究テーマに関する発表準備（2h）		
		事後	フィードバック事項の整理（1h） 参考図書の精読（6h）		
第3週	（第4・5講）批判的思考の涵養—意味や論理展開の課題を見極め、思考を深める問いかけを生み出す思考術に関して、演習目的の題材にて議論し確認する	事前	演習テーマに関する事前学習（2h）		
		事後	参考図書の精読（6h）		
第4週	（第6・7講）リサーチクエスチョンを磨く—履修者によるリサーチクエスチョンの発表を通して、リサーチクエスチョンの本質とそこに至るための視点を獲得する	事前	リサーチクエスチョンに関する発表準備（2h）		
		事後	フィードバック事項の整理（1h） 参考図書の精読（6h）		
第5週	（第8・9講）問題意識の背景説明—論文第1章で扱うだろう問題意識の背景にある事象を整理、分析する方法に関して、履修者による発表を通して確認する	事前	問題意識の背景説明に関する発表準備（3h）		
		事後	フィードバック事項の整理（1h）		
第6週	（第10・11講）先行研究のレビューⅠ—論文第2章で扱うだろう先行研究のレビューの意義や手法、注意点に関して、履修者による発表を通して検討する	事前	先行研究レビューに関する発表準備（5h）および他のゼミ生資料の事前確認（2h）		
		事後	フィードバック事項の整理と再構築（3h）		
第7週	（第12・13講）先行研究のレビューⅡ—前週に引き続き発表を通して考察を深める	事前	ゼミ生の発表資料の事前確認および指摘の準備（2h）		
		事後	ディスカッション内容の整理（1h）		
第8週	（第14・15講）調査設計—夏休み以降に実施する可能性のある定量および定性調査に関して、履修者の発表を通して設計の注意点等を確認する	事前	調査設計に関する発表準備（6h）		
		事後	フィードバック事項の整理（2h） 夏休み中の研究計画作成と Teams での共有（2h）		

【後期】 第1週	(第1講) 研究成果の共有—中間報告会以降の研究の進捗および成果に関して発表し、今後の研究課題や計画を確認する	事前	研究成果の発表準備 (2h)
		事後	フィードバック事項の整理と再構築 (4h)
第2週	(第2・3講) 研究課題の深化Ⅰ—履修者の専門職学位論文を発表し、さらなる研究課題を明らかにする	事前	研究発表の準備 (4h)
		事後	フィードバック事項の整理と再構築 (4h)
第3週	(第4・5講) 研究課題の深化Ⅱ—履修者の専門職学位論文を発表し、さらなる研究課題を明らかにする	事前	研究発表の準備 (4h)
		事後	フィードバック事項の整理と再構築 (4h)
第4週	(第6・7講) 専門職学位論文執筆指導Ⅰ—履修者の研究進捗や課題に応じて相談、討論する	事前	研究内容の検討 (4h)
		事後	学位論文の執筆検討 (4h)
第5週	(第8・9講) 専門職学位論文執筆指導Ⅱ—履修者の研究進捗や課題に応じて相談、討論する	事前	研究内容の検討 (4h)
		事後	学位論文の執筆検討 (4h)
第6週	(第10・11講) 専門職学位論文執筆指導Ⅲ—履修者の研究進捗や課題に応じて相談、討論する	事前	研究内容の検討 (4h)
		事後	学位論文の執筆検討 (4h)
第7週	(第12・13講) 専門職学位論文執筆指導Ⅳ—履修者の研究進捗や課題に応じて相談、討論する	事前	研究内容の検討 (4h)
		事後	学位論文の執筆検討 (4h)
第8週	(第14・15講) 研究発表の準備—履修者の研究成果を実装もしくは社会普及させるための課題や計画を討議する	事前	実装や普及の計画発表準備 (3h)
		事後	フィードバック事項の整理 (3h)

授業の進め方と方法

上記目的・到達目標を達成するため、本授業は各自の研究経過の報告と、参加者相互の批判的討議を通して、研究に多角的検討を加え、厚みを増す進行を予定している。また、研究の段階に即して個別に協議のうえ、指導・助言を行う。授業外において履修者は各自の責任において研究を自主的に進捗させることを期待する。

教科書・参考書

教科書は指定しない。

参考書：

伊丹 敬之 (2001) 『創造的論文の書き方』、有斐閣

高橋 昌一郎 (2007) 『哲学ディベート〈倫理〉を〈論理〉する』、NHK ブックス ほか

評価方法

- 報告担当週の報告内容・方法 30%
- 授業中のディスカッションへの貢献 20%
- 授業後・授業外に書き込んだコメントの内容 20%
- 各報告会・審査会時点での専門職学位論文の完成度 30%

その他の重要事項

担当教員のオフィスアワーおよび予約の方法については、初回の授業で説明する。授業は原則オンラインのみにて開講する予定だが、履修者の希望により変更する可能性がある。また前期一部週はハイフレックスにて開講する計画。

2022年度科目との読替え				
なし。				
本科目と対応するディプロマ・ポリシー	DP ①	DP ②	DP ③	DP ④
	○	○	○	○

授業名称	探究演習（教育社会学）			科目コード	PEPD2409S
担当教員	吉岡 三重子	実施方法	一部オンライン	単位数	2単位・2単位
配当年次	2年次	開講学期	前期・後期	曜日	土A（3・4限）
年間開講数	2回	授業種別	演習	授業区分	選択必修

授業の目的

本授業は、1年次に行う探究基礎演習をふまえ、履修者が教育社会学の理論や手法を理解し、そのアプローチを通じて自らの研究を進め、その成果を専門職学位論文として完成させることを目的とする。授業の多くの時間で、履修者が実務を行う中で感じる課題や関心を履修者や教員と共有し、それに関するディスカッションを行う。これらを通じて、履修者が自身の抱える課題や関心を広げ、また深めていき、実務教育研究科の修了要件に適う専門職学位論文としてまとめることを目指す。

到達目標

- ① 履修者が自身の実務経験等にもとづき、専門職学位論文としてふさわしい課題を設定することができる。
- ② 履修者が教育社会学の理論や手法を理解し、そのアプローチを通じて研究を進めることができる。
- ③ 履修者が専門職学位論文を執筆し、完成させることができる。

授業計画

授業計画		授業外の学習	
【前期】 第1週	(第1講) イントロダクション	事前	これまでの研究成果のまとめ (4h)
		事後	研究計画の執筆 (2h)
第2週	(第2・3講) 研究計画の報告とディスカッション	事前	資料の準備 (4h)
		事後	調査・研究、論文執筆の進行 (2h)
第3週	(第4・5講) 論文執筆の手法とプロセス	事前	配布資料の確認 (2h) 研究計画の確認 (2h)
		事後	調査・研究、論文執筆の進行 (2h)
第4週	(第6・7講) 課題の設定	事前	報告準備または調査・研究、論文執筆の進行 (2h)、報告資料の予習 (2h)
		事後	調査・研究、論文執筆の進行 (4h)
第5週	(第8・9講) 研究の構想発表とディスカッション①	事前	報告準備または調査・研究、論文執筆の進行 (2h)、報告資料の予習 (2h)
		事後	調査・研究、論文執筆の進行 (4h)
第6週	(第10・11講) 研究の構想発表とディスカッション②	事前	報告準備または調査・研究、論文執筆の進行 (2h)、報告資料の予習 (2h)
		事後	調査・研究、論文執筆の進行 (4h)
第7週	(第12・13講) 研究の構想発表とディスカッション③	事前	報告準備または調査・研究、論文執筆の進行 (2h)、報告資料の予習 (2h)
		事後	調査・研究、論文執筆の進行 (4h)
第8週	(第14・15講) 2年次中間報告会に向けてのレビュー	事前	2年次中間報告会発表資料の作成 (2h) 報告資料の予習 (2h)
		事後	調査・研究、論文執筆の進行 (2h) 2年次中間報告会発表資料の準備 (2h)
【後期】 第1週	(第1講) 2年次中間報告会のレビューと進捗報告	事前	長期休暇中の研究成果のまとめ (2h)
		事後	研究計画の見直しと立案 (4h)
第2週	(第2・3講) 研究の進捗確認と研究計画の見直し	事前	報告準備または調査・研究、論文執筆の進行 (2h)、報告資料の予習 (2h)
		事後	調査・研究、論文執筆の進行 (4h)

第3週	(第4・5講) 専門職学位論文の進捗報告とディスカッション①	事前	報告準備または調査・研究、論文執筆の進行 (2h)、報告資料の予習 (2h)
		事後	調査・研究、論文執筆の進行 (4h)
第4週	(第6・7講) 専門職学位論文の進捗報告とディスカッション②	事前	報告準備または調査・研究、論文執筆の進行 (2h)、報告資料の予習 (2h)
		事後	調査・研究、論文執筆の進行 (4h)
第5週	(第8・9講) 専門職学位論文の進捗報告とディスカッション③	事前	報告準備または調査・研究、論文執筆の進行 (2h)、報告資料の予習 (2h)
		事後	調査・研究、論文執筆の進行 (4h)
第6週	(第10・11講) 専門職学位論文の進捗報告とディスカッション④	事前	報告準備または調査・研究、論文執筆の進行 (2h)、報告資料の予習 (2h)
		事後	調査・研究、論文執筆の進行 (4h)
第7週	(第12・13講) 専門職学位論文の進捗報告とディスカッション⑤	事前	報告準備または調査・研究、論文執筆の進行 (2h)、報告資料の予習 (2h)
		事後	調査・研究、論文執筆の進行 (4h)
第8週	(第14・15講) 最終審査会に向けた研究発表とレビュー	事前	報告準備または調査・研究、論文執筆の進行 (2h)、報告資料の予習 (2h)
		事後	調査・研究、論文執筆の進行 (4h)

授業の進め方と方法

本授業は、各学期第1週以外は2講(90分×2)連続で実施する。前期第2週では、1年次に作成したリサーチペーパーをもとに立案した研究計画を報告・議論し、第3週で論文執筆の手法を確認したうえで、第4週で履修者のもつ課題を明確化させる。以降は専門職学位論文執筆に向けた研究の取り組みについて履修者がそれぞれ報告を行い、ディスカッションを行う。

教科書・参考書

教科書は指定しない。

参考文献は履修者の研究や課題に即し、適宜紹介する。

- ・明石芳彦(2018)『社会科学系論文の書き方』、ミネルヴァ書房
- ・ウェイン・C・ブースほか、川又政治訳(2018)『リサーチの技法』、ソシム
- ・酒井朗ほか(2012)『よくわかる教育社会学』、ミネルヴァ書房
- ・日本教育社会学会編(2017)『教育社会学のフロンティア1 学問としての展開と課題』、岩波書店
- ・日本実務教育学会編(2018)『教育社会学のフロンティア2 変容する社会と教育のゆくえ』、岩波書店

評価方法

- 報告担当週の報告内容・方法 30%
- 授業中のディスカッションへの貢献 20%
- 授業後・授業外に書き込んだコメントの内容 20%
- 各報告会・審査会時点での専門職学位論文の完成度 30%

その他の重要事項

担当教員のオフィスアワーおよび授業時間外での相談方法については、第1週の授業で説明する。

2022年度科目との読替え

なし。

本科目と対応するディプロマ・ポリシー	DP ①	DP ②	DP ③	DP ④
	○	○	○	○

自由科目

社会構想大学院大学の専門職学位課程に所属する学生は、他研究科で開講される授業のうち、必修科目・選択必修科目を除く授業を「自由科目」として履修できます。自由科目の単位は、修了単位数に算入することはできませんが、成績表に記載されます。単年度に履修できる単位数には、自由科目も含まれます。なお、履修希望者が多数となった場合には、開講元課程の院生による履修を優先します。

オフィスアワー

本学常勤教員のオフィスアワーは下表の通りです。当該時間帯は対面ないし Teams でのご相談に対応するため、各教員が研究室で待機しています。履修や学習方法、研究に関するご相談など、自由にご活用ください。各授業担当教員もメールや Teams 等でオフィスアワーの設定が可能ですので、各教員へ個別にお問い合わせください。Teams のチャットを用いて教員に連絡する場合は、アプリ上部の検索ウインドウにメールアドレス（次ページ以降参照）の@より前の文字列を記入してください。

教員名	所属	前期	後期
橋本 純次	CD	随時（ガイダンス資料参照）	随時（ガイダンス資料参照）
富井 久義	PE	火 A 18:00-19:00 火 B 18:00-19:00	火 A 18:00-19:00 水 B 18:00-19:00
伴野 崇生	PE	火 A 11:00-12:00 火 B 11:00-12:00 その他随時（チャットで受付）	火 A 11:00-12:00 火 B 11:00-12:00 その他随時（チャットで受付）
眞崎 光司	PE	月 A 18:00-19:00 水 B 18:00-19:00	水 B 18:00-19:00 木 A 18:00-19:00
吉岡 三重子	PE	金 A 12:00-13:00 金 B 12:00-13:00	金 A 12:00-13:00 金 B 12:00-13:00
松本 朱実	研究所	火 A 12:00-13:00 火 B 12:00-13:00	火 A 12:00-13:00 火 B 12:00-13:00
河合 孝尚	研究所	木 A 18:00-19:00 木 B 18:00-19:00	木 A 18:00-19:00 木 B 18:00-19:00

※「CD」は「コミュニケーションデザイン研究科」、「PE」は「実務教育研究科」を指す

教員メールアドレス一覧（コミュニケーションデザイン研究科）

職位	氏名	メールアドレス（Teams アカウントも同様）
学長・研究科長	吉國 浩二	（事務局にお問い合わせください）
学監・兼担教員	川山 竜二	（事務局にお問い合わせください）
教授	北島 純	j.kitajima@socialdesign.ac.jp
教授	柴山 慎一	s.shibayama@socialdesign.ac.jp
教授	白井 邦芳	k.shirai@socialdesign.ac.jp
教授	広木 隆	takashi.hiroki@socialdesign.ac.jp
准教授	谷口 優	y.taniguchi@socialdesign.ac.jp
准教授	橋本 純次	j.hashimoto@socialdesign.ac.jp
准教授	渡邊 順也	j.watanabe@socialdesign.ac.jp
助教	滝沢 創	hajime.takizawa@socialdesign.ac.jp
特任教授	伊吹 英子	eiko.ibuki@socialdesign.ac.jp
特任教授	高広 伯彦	n.takahiro@socialdesign.ac.jp
特任教授	牧瀬 稔	m.makise@socialdesign.ac.jp
客員教授	北見 幸一	k.kitami@socialdesign.ac.jp
客員教授	佐藤 直樹	naoki.sato@socialdesign.ac.jp
客員教授	関 正雄	masao.seki@socialdesign.ac.jp
客員教授	鶴田 佳史	yoshifumi.tsuruta@socialdesign.ac.jp
客員教授	鶴野 充茂	m.tsuruno@socialdesign.ac.jp
客員教授	二木 真	makoto.futaki@socialdesign.ac.jp
客員教授	山口 健太郎	kentaro.yamaguchi@socialdesign.ac.jp
兼担教員	坂本 文武	f.sakamoto@socialdesign.ac.jp
兼担教員	富井 久義	h.tommy@sentankyo.ac.jp
兼担教員	伴野 崇生	takao.tomono@sentankyo.ac.jp

教員メールアドレス一覧（実務教育研究科）

職位	氏名	メールアドレス（Teams アカウントも同様）
学長	吉國 浩二	（事務局にお問い合わせください）
学監・研究科長	川山 竜二	（事務局にお問い合わせください）
教授	藏田 實	minoru.kurata@socialdesign.ac.jp
教授	廣政 愁一	shuichi.hiromasa@sentankyo.ac.jp
教授	坂本 文武	f.sakamoto@socialdesign.ac.jp
教授	田原 祐子	yuko.tahara@socialdesign.ac.jp
教授	荒木 貴之	takayuki.araki@sentankyo.ac.jp
准教授	富井 久義	h.tommy@sentankyo.ac.jp
准教授	伴野 崇生	takao.tomono@sentankyo.ac.jp
専任講師	眞崎 光司	koji.masaki@sentankyo.ac.jp
助教	吉岡 三重子	mieko.yoshioka@sentankyo.ac.jp
客員教授	本間 正人	masato.honma@socialdesign.ac.jp
客員准教授	石崎 友規	tomonori.ishizaki@socialdesign.ac.jp

科目等履修生

科目等履修生として登録された方は、正規の院生と同様に社会構想大学院大学の施設・設備・LMSを利用することができます。ただし、学外の学割等を受けることはできません。

学則・その他規則は正規院生と同様に適用されます。授業時間帯・実施方法・録画データの配信については、P.2 以降をご確認ください。

(1) 科目等履修生番号・登録証

科目等履修生として登録されると、8桁の科目等履修生番号が付与されます。本学専門職学位課程修了生であっても、新たな科目等履修生番号が付与されますので、ご注意ください。複数年度において科目等履修生として在籍する者は、登録期間が連続している場合のみ、同一の科目等履修生番号となります。

発行される登録証は科目等履修生であることを証明するものであり、同時に、入館セキュリティカード、図書室利用証としての機能を兼ねています。紛失しないよう十分注意し常に携帯するとともに、本学教職員から要求があったときはこれを提示しなければなりません。**登録証の再交付（再発行）は、理由の如何を問わず、実費（5,500円）を請求いたします。**

(2) Microsoft365 アカウント

科目等履修生には大学院の Microsoft365 アカウントを付与いたします。アカウントドメインは【@nd.socialdesign.ac.jp】です。事前にお送りする設定マニュアルに従って、授業開始までに Microsoft365 および Teams の設定を完了してください。Microsoft365 アカウントは登録学期末まで利用することが可能です。

なお、複数年度において科目等履修生として在籍する者は、登録期間が連続している場合のみ、同一のアカウントとなります。また、本学専門職学位課程修了生として科目等履修生へ申し込まれた方は、修了生アカウントを引き続き、科目等履修生として利用いただきます。

(3) 履修登録

科目等履修生として登録を許可された段階で、申し込み時の申請科目への履修が登録されます。そのため、追加の履修登録手続きは必要ありません。授業開始後一週間、オリエンテーションのチームに登録されますが、ご自身の申請した授業のみ視聴するようにしてください。オリエンテーションが終わりますと、新たに登録された授業のチームが割り当てられます。

(4) 成績評価

各学期の終了後、成績通知書の送付をもって修了となります。Microsoft365 アカウント停止後の成績証明書については、事務局へお問い合わせください。

なお、本学専門職学位課程修了生につきましては、正規院生としての成績証明書と、科目等履修生としての成績証明書は別に発行されます。

研究生

研究生として登録された学生は、正規学生と同等に社会構想大学院大学の施設・設備・LMSを利用することができます。ただし、学外の学割等を受けることはできません。

研究指導については、指導担当教員に直接お問い合わせください。

(1) 研究生番号・登録証

研究生として登録されると、8桁の研究生番号が付与されます。本学専門職学位課程修了生であっても、新たな研究生番号が付与されますので、ご注意ください。

発行される登録証は研究生であることを証明するものであり、同時に、入館セキュリティカード、図書室利用証としての機能を兼ねています。紛失しないよう十分注意し常に携帯するとともに、本学教職員から要求があったときはこれを提示しなければなりません。**登録証の再交付（再発行）は、理由の如何を問わず、実費（5,500円）を請求いたします。**

(2) Microsoft365 アカウント

研究生は、専門職学位課程の修了生アカウントを引き続きご利用いただけます。

(3) 聴講

研究生は、指導教員が研究指導上必要と認めた場合に限り、専門職学位課程の科目を聴講することができます。指導教員からの指示のうえで聴講を希望する場合は、授業担当教員に直接連絡を取り、聴講の許可を得てください。聴講の可否については、授業担当教員から事務局へ連絡するよう、依頼してください。履修希望者が多数となった場合には、開講元課程の院生による履修を優先します。

なお、聴講によって単位を習得することはできません。

(4) 延長

研究生の在籍期間は1年以内ですが、研究生が研究の継続を希望する場合、在籍期間の延長が認められる場合があります。延長期間は1年以内とし、再度の延長が許可されることもあります。